

メキシコ合衆国
キンタナ・ロー州マヤ族居住地域女性支援計画
中間レビュー報告書

平成21年9月
(2009年)

独立行政法人国際協力機構
メキシコ事務所

メキ事
JR
09-001

メキシコ合衆国
キンタナ・ロー州マヤ族居住地域女性支援計画
中間レビュー報告書

平成21年9月
(2009年)

独立行政法人国際協力機構
メキシコ事務所

序 文

独立行政法人国際協力機構は、メキシコ合衆国政府からの技術協力の要請を受け、2007年3月から同国において「キンタナ・ロー州マヤ族居住地域女性支援計画」を開始しました。

本プロジェクト開始後1年6ヵ月にあたり、当機構は本プロジェクトの進捗状況や現状を把握、評価し、同国のプロジェクト関係者や派遣専門家に対し適切な助言と指導を行うため、2008年9月8日から9月24日まで中間評価調査団を派遣しました。

調査団は、メキシコ合衆国側メンバーを加え構成した合同評価調査チームとして過去1年6ヵ月の投入実績、活動の達成度を確認し、メキシコ合衆国側政府関係者との協議及びプロジェクト・サイトでの現場調査実施を通してプロジェクトの運営や事業内容等に対して必要な提言を行いました。

当報告書が本プロジェクトの今後の推進に役立つとともに、この技術協力が両国の友好・親善の一層の発展に寄与することを期待します。

終わりに、この調査にご協力とご支援を頂いた関係者の皆様に対し、心からの感謝の意を表します。

平成21年9月

独立行政法人国際協力機構

メキシコ事務所長 室澤智史

目 次

序 文

目 次

位置図

写 真

略語一覧

中間評価調査結果要約表

第1章 中間評価の概要	1
1-1 調査の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査団派遣日程	2
1-4 評価項目・評価手法	2
1-5 PDMの修正について	3
第2章 プロジェクトの実績と現状	4
2-1 投入実績	4
2-2 活動実績	5
2-3 成果の達成度	5
2-4 プロジェクト目標達成の見込み	7
2-5 プロジェクトの実施プロセス	7
第3章 評価結果	9
3-1 評価5項目による評価結果	9
3-1-1 妥当性	9
3-1-2 有効性	10
3-1-3 効率性	11
3-1-4 インパクト	12
3-1-5 自立発展性	14
3-2 結 論	15
3-3 提 言	15
第4章 団長所感	16

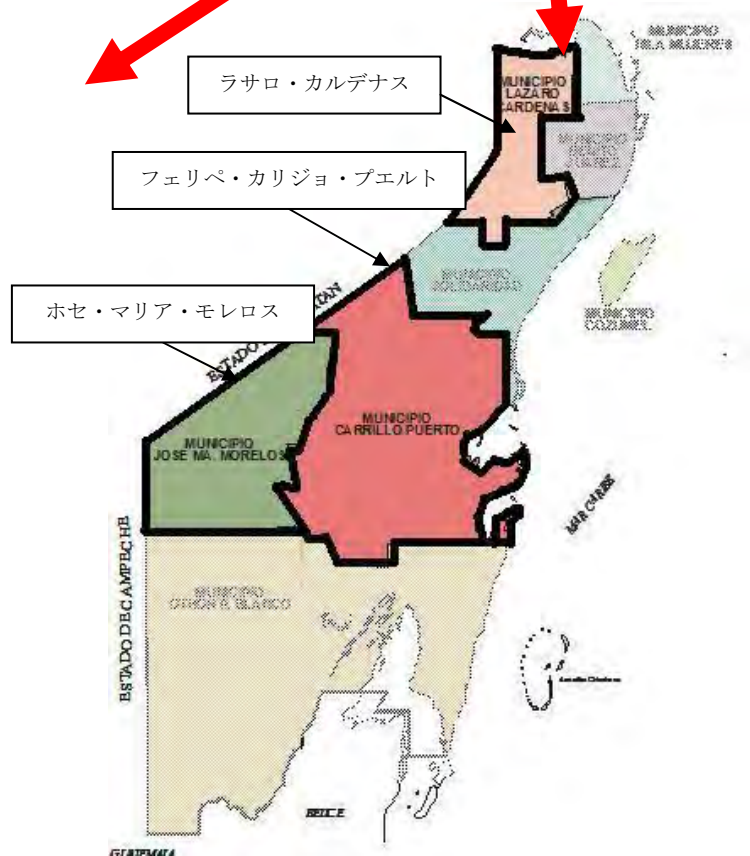
付属資料

1. 中間評価合同評価ミニッツ (M/M: 英文) (添付資料: 西文)	21
2. 評価スケジュール	77
3. PDM	78
① PDM0	78
② PDM1	81
4. 評価グリッド	83
5. プロジェクト投入実績一覧	86
6. 活動実績 (活動進捗表)	91
① 活動進捗表 (PDM0 に対応)	91
② 活動進捗表 (PDM1 に対応)	93
7. 面談者リスト	95
8. 支援モデル概念図案	97

位置図：プロジェクト対象地域



【キンタナ・ロー州】



【プロジェクト・サイト】



ラサロ・カルデナス市バジャドリッド・ヌエボ村織物（ショール製作）グループにてグループインタビュー。



ラサロ・カルデナス市サンフランシスコ村機械刺繍（バッグ製作）グループメンバー。刺繍風景。



ラサロ・カルデナス市イグナシオサラゴサ村編み物（バッグ製作）グループリーダー。手にしているのはグループミーティング台帳。



ホセ・マリア・モレロス市タバスコ村雑貨製作（木の実等によるアクセサリ製作）グループメンバー。製品とともに。



ラサロ・カルデナス市イグナシオサラゴサ村編み物（バッグ製作）グループメンバー。手にしているのは製品。



ラサロ・カルデナス市ヌエボ・ドゥランゴ村木工（ミニチュア製品製作）グループメンバーへのインタビュー。



ラサロ・カルデナス市ヌエボ・ドウランゴ村木工グループ作業所兼直売所。ディスプレイされているのは木工製品。



ホセ・マリア・モレロス市ワイ・マッシュ村刺繍（バッグ作製）グループメンバー。手にしているのは刺繍製品。



中間評価調査団と女性庁長官との面談。



中間評価調査団、日本側とメキシコ側評価委員の合同評価委員会、討議風景。



ミニッツ調印前の関係者間の協議。



ミニッツ調印式。

略 語 一 覧

CDI	Comisión Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas	国家先住民族開発委員会
C/P	Counterpart	カウンターパート
IQM	Instituto Quintanarroense de la Mujer	キンタナ・ロー州女性庁
IQM-FP	Dirección de Fomento Productivo del IQM	女性庁生産強化部
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人 国際協力機構
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operation	活動計画
R/D	Record of Discussion	討議議事録
RRA	Rapid Rural Appraisal	迅速農村調査法
SEDARI	Secretaría de Desarrollo Agropecuario e Índigena del Estado de Quintana Roo	キンタナ・ロー州村落先住民開発局
SEDE	Secretaría de Desarrollo Económico del Estado de Quintana Roo	キンタナ・ロー州経済開発局

中間評価調査結果要約表

1. 案件の概要															
国 名：メキシコ合衆国	案件名：キンタナ・ロー州マヤ族居住地域女性支援計画														
分 野：人的資源	援助形態：技術協力プロジェクト														
所轄部署：JICA メキシコ事務所	協力金額：総投入額 2億9,900万円（予定額含む）														
協力期間	(R/D)：2006年12月14日 2007年3月～2010年3月	先方関係機関：キンタナ・ロー州女性庁													
		日本側協力機関：特になし													
		他の関連協力：													
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>メキシコ合衆国（以下、「メキシコ」）ユカタン半島のカリブ海側に面したキンタナ・ロー州は、観光収入の増加とその影響による経済的発展が著しい一方、先住民であるマヤ族が人口の80%以上を占める地域が存在し、貧富の格差が激しい。このマヤ族居住地域はカルスト台地のため、農業により収入向上を図るためには大きな制約がある。住民は必要な現金収入の多くを、政府補助金や出稼ぎと、女性が製作、販売している刺繍ほか様々な民芸品を僅かな収入源としている。そのために、そうした民芸品の品質・デザインの改善、新製品の開発などに係る支援が必要とされていた。しかし、その役割を担うキンタナ・ロー州女性庁（以下、「女性庁」）のキャパシティが脆弱であるため、十分な支援が実施されていないのが現状であった。かかる状況下、キンタナ・ロー州政府は我が国に対し、マヤ族の貧困削減を図るひとつの選択肢として、マヤ族居住地域の女性グループが製作する民芸品の販売増・収入向上を念頭に、女性庁の組織強化を図り、これら民芸品の品質向上及び、デザイン改善や新製品の開発支援が継続して行われるための仕組みづくりを目的とする、技術協力プロジェクトを要請した。JICAは、2007年3月より約3年間の予定で、女性庁を実施機関とした技術協力プロジェクトを開始した。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>本プロジェクトは、キンタナ・ロー州において、女性庁の組織強化を図り、マヤ族女性が製作する民芸品の品質向上及び、デザイン改善や新製品の開発支援が継続して行われるための、支援モデルの確立を目標としている。</p> <p>(1) 上位目標 民芸品改善・開発支援モデル（以下、「支援モデル」）を活用して支援を受けた女性グループの収入が向上する。</p> <p>(2) プロジェクト目標 女性庁・生産強化部による女性グループへの支援モデルが確立される。</p> <p>(3) 成 果 成果1：調査機能の強化：現状の把握や活動を実施するために必要な情報が収集・整理される 成果2：運営管理機能の強化：女性庁生産強化部が運営管理手法を習得し適用する（支部の生産強化部所掌の業務を含む） 成果3：調整・連携機能の強化：女性庁生産強化部と関係組織との調整及び連携が構築される 成果4：支援プログラムの構築：女性庁生産強化部と関係支所による対象女性グループへの実証プロジェクトを通して、民芸品生産支援プログラムが作成される 成果5：情報管理能力の強化：支援業務に関する情報の適切な管理と活用が行われる</p> <p>(4) 投入（評価時点）</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td colspan="4">日本側</td> </tr> <tr> <td style="width: 30%;">長期専門家派遣</td> <td style="width: 10%;">0名</td> <td style="width: 30%;">機材供与</td> <td style="width: 30%;">約436万円</td> </tr> <tr> <td>短期専門家派遣</td> <td>延べ7名</td> <td>ローカルコスト負担</td> <td>約1,327万4,000円</td> </tr> </table>				日本側				長期専門家派遣	0名	機材供与	約436万円	短期専門家派遣	延べ7名	ローカルコスト負担	約1,327万4,000円
日本側															
長期専門家派遣	0名	機材供与	約436万円												
短期専門家派遣	延べ7名	ローカルコスト負担	約1,327万4,000円												

相手国側： カウンターパート配置 延べ 26 名（離職者を含む） ローカルコスト負担 11 万 900 メキシコペソ		土地・施設提供
2. 評価調査団の概要		
調査者	総括：十郎正義（JICA 産業開発部 課題アドバイザー） 協力企画 1：磯貝白日（JICA メキシコ事務所 職員） 協力企画 2：石塚賢司（JICA 産業開発部 中小企業課 職員） 観光開発・調整：藤田久美子（JICA 中米・カリブ地域支援事務所 在外専門調整員） 評価分析：本間まり子（インテムコンサルティング株式会社 社会開発部 コンサルタント）	
調査期間	2008 年 9 月 8 日～2008 年 9 月 24 日	評価種類：中間評価
3. 評価結果の概要		
3-1 実績の確認		
(1) 活動実績 活動は、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）1 において新たに整理された枠組みにおいて、おおむね計画どおり実施されている。		
(2) 成果の達成状況 成果は、新たに設定された枠組みのなかで、おおむね計画どおり産出されている。		
3-2 評価結果の要約		
(1) 妥当性 以下の理由により、一定の妥当性があると判断される。 対象地域のマヤ族女性は少ない農業所得を補うために、民芸品の製作販売を通じて収入向上をめざしている。そのために、品質・デザインの改善、新製品の開発などに係る支援が必要とされていた。しかし、その役割の一端を担う女性庁のキャパシティが脆弱であるため、十分な支援が実施されていないのが現状である。よって、組織能力向上を通じた女性支援体制の構築をめざす本プロジェクトは、対象地域のニーズに適応している。 政策における優先度は、国家開発計画（2007～2012）と、州開発計画（2005～2011）において確認されている。また、プロジェクトが支援する人間の安全保障分野が、メキシコにおける JICA の重点分野として設定されている。		
(2) 有効性 今回の中間評価時に PDM の改訂を実施しており、以下の理由により、高い有効性が期待される。 本プロジェクトは、2008 年 9 月に成果とプロジェクト目標の関係性を含む、プロジェクトのデザインが見直された。新しい枠組みにおいて、成果は計画どおり産出される見込みである。さらに、女性庁カウンターパート（以下、「C/P」）の位置づけが明確になり、彼らの業務である女性支援に係る活動が、包括的に組み込まれているため、C/P の意欲が促進されている。しかし、プロジェクト終了までに、まだ様々な活動が計画されており、円滑な遂行が必要である。特に、成果 3 に含まれる他機関との連携は、支援モデルにおいて重要な要素として位置づけられているため、更なる取り組みが必要である。また、プロジェクトの終了に向けて、確立された支援モデルが女性庁に定着するための取り組みが必要とされる。 2007 年 12 月から 2008 年 4 月まで、プロジェクトを統括する女性庁長官が不在であり、内部の意思決定や、組織間の連携に障害が生じた。しかし、2008 年 4 月に新しい長官が就任して、プロジェクト目標達成や自立発展性の確保に組織的に取り組む体制が整いつつある。 プロジェクト目標達成において「地域に決定的なダメージを引き起こす災害（洪水、早魃、ハリケーンなど）が起こらない」という外部条件が設定されている。2007 年 8 月末に、ハリケーンの影響があり、1 ヶ月ほど活動が遅延したが、適切に対応したため、プロジェクト目標達成に大きな影響はみられない。		

(3) 効率性

以下の理由により、プロジェクトの効率性はおおむね問題ないと判断される。

一部日本人専門家と C/P の間にコミュニケーション不足や、実施体制における混乱や問題が生じたものの、プロジェクト活動は、おおむね計画どおり実施されており、今後、実証活動を継続しつつモデル化のためのマニュアルやガイドライン作成等の活動を通じて、成果が達成される見込みである。PDM の改訂を通じてプロジェクトの枠組みが整理されたことで、C/P のプロジェクト内の役割が明確になり、プロジェクト活動への参加や成果達成に向けた意欲が増している。

投入に関して、日本側の投入については量及びタイミングについて、大きな問題はみられない。しかし、メキシコ側の投入については、人事異動や予算確保上の問題により、2007 年度、2008 年度は、一部計画どおりに実施されていない。2009 年度以降は、確保される見込みである。

今後、プロジェクトの枠組みの修正に即して、女性庁機能強化分野に重点を置いた投入計画の再検討が必要となる可能性がある。

(4) インパクト

本プロジェクト活動を通じて、以下のようなインパクトが生じている。

C/P は、プロジェクトにおける組織強化を目的とした取り組みを通じて、技術を向上するだけでなく、意欲の向上や経験の蓄積といった波及効果を受けている。

民芸品製作に取り組む女性たちには、実証活動におけるグループ活動を通じて、民芸品販売による収入向上、自助努力への意識の変化、リーダーシップや自信の構築、社交の促進、精神的充実といった、社会経済的エンパワーメントがみられる。また、家族などの男性側にも、家事や育児の分担といった行動変容や、女性の収入向上への意識の変化が生じている。さらに、グループが自発的に連携する動きも報告されている。

プロジェクトによる大きなマイナスの影響はみられないが、実証活動において、女性グループ活動に対する男性の理解が限定的であり、女性の活動参加が阻害される事例がみられた。

(5) 自立発展性

現在、以下のように、自立発展性の確保に向けた取り組みがなされつつある。

プロジェクトは、「州開発計画 2005～2011」において政策上の裏づけが確認されている。また、プロジェクトによって確立される支援モデルの制度化や他部署を含めた女性庁全体での活用の可能性について、女性庁長官より主体的に取り組む意思が表明されている。

これまで、女性庁長官を含む 6 名の異動があったが、今後も想定される将来の人事異動の影響を排除し、自立発展性を確保することが必要である。そのために、プロジェクトを通じて移転される技術や知識を文書化し、モデルとして確立することが、プロジェクト目標として設定されている。また、女性庁は、管理コストのみで、事業予算を有しないため、それを補完するための、支援スキームをもつ関係機関との連携体制の確立が重要であり、今後、事業予算確保のための連携強化が期待される。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- プロジェクトの当初計画において、プロジェクトの枠組みやロジックの不備が指摘され、開始当初、関係者間に混乱が生じた。そのため、PDM の改訂を通じて、関係者間でプロジェクトの枠組みが整理された。それにより、C/P の位置づけが明確になり、彼らの業務である女性支援に係る活動が、包括的に組み込まれているため、C/P の意欲が促進されている。

(2) 実施プロセスに関すること

- 2007 年 12 月から 2008 年 4 月まで、プロジェクトを統括する女性庁長官が不在であり、内部の意思決定や、組織間の連携に障害が生じた。しかし、2008 年 4 月に新しい長官が就任して、プロジェクト目標達成や自立発展性の確保に組織的に取り組む体制が整いつつある。
- 民芸品製作に取り組む女性グループは、実証活動に熱心に参加し、支援モデルの確立に貢献している。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・本プロジェクトは、活動開始当初から、JICA 側とメキシコ側の関係者双方により、C/P である女性庁生産強化部と支所の位置づけが不明確である点や、C/P 組織の機能に即していない業務がプロジェクト活動に含まれているといった、プロジェクトの枠組みやロジックの不備が指摘され、関係者間に混乱が生じた。現在は、PDM の改訂に伴い、混乱は収まり、実施体制が整いつつある。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・上記の PDM の問題から、C/P の間において、自分たちがプロジェクトの枠組みの外にあるという認識から、プロジェクト活動への参加の意欲が欠如する傾向がみられた。現在は改善しつつある。
- ・プロジェクト関係者間においては、専門家と C/P 間などに、一部コミュニケーションや情報共有不足がみられたが、上記のように PDM の枠組みの変更と併せて、週ミーティングの実施や週報の提出、ウェブ上での情報共有システムの確立といったモニタリング体制が構築されつつある。
- ・ローカルコストの負担に関して、プロジェクト開始前に女性庁と JICA 間で、協議が十分ではなかったことや、JICA と女性庁の予算年度の違い、プロジェクトの枠組みの変更に係る議論により詳細の活動計画が一部確定しなかったことから、2007 年度、2008 年度ともに、予算が十分に確保されなかった。そのため、C/P の出張費や運転手の日当等の支出が計画どおり行われず、農村への訪問を通じた活動が制限された。

3-5 結論

中間評価段階においては、プロジェクトの目標が達成されるかどうかを見極めるには時期尚早である。今後は、プロジェクト前半部分で実証活動を中心に展開してきたことを、後半でモデル化する必要がある。また、C/P 関係機関との連携を具体的に機能させるための制度設計や、女性庁生産強化部の、これまでのプロジェクト活動を通じて得られた経験を基に業務マニュアルとガイドラインを作成するといった重要な活動が残されている。

プロジェクト後半において、どこに重点を置きながら活動を進めるかも含めて、投入計画を改めて検証することも必要である。そのため、今後のプロジェクトの進捗をきめ細かにモニタリングしながら、必要なプロジェクトの見直しを行っていくことが肝要である。

3-6 提言

(1) マネージメント体制の強化

- ・プロジェクト目標の達成に向けて、年3回を目処に合同調整委員会 (JCC) を開催する。また、テクニカルコミッティーを必要に応じて開催する。
- ・女性庁長官とのプロジェクトミーティングを定期的に開催する。

(2) モニタリング体制の強化

- ・関係者間の情報共有及び、体系的意思決定の仕組みを構築する。

(3) 関係機関との連携の強化に向けた取り組み

- ・JCC において、他機関との情報共有・連携を図る。
- ・州計画委員会ジェンダー平等サブコミッティーにおいて、プロジェクトの枠組みについて共有し、そのフォローアップを行う。

第1章 中間評価の概要

1-1 調査の経緯と目的

メキシコ合衆国（以下、「メキシコ」）ユカタン半島のカリブ海側に面したキンタナ・ロー州は、年間1,000万人以上の観光客が訪れるカンクンほかの世界的観光地があつて観光収入の増加とその影響による経済的発展が著しい。しかしながら、キンタナ・ロー州の内陸部には、ソナ・マヤと称される、先住民であるマヤ族が人口の80%以上を占めるマヤ族居住地域が存在する。これらの地域は貧富の格差が激しく、人間開発指数も低い。

このマヤ族居住地域においては、主に焼畑でトウモロコシが自給用に栽培されているが、近代的農業が行われている北部シナロア州の単位収量の10分の1程度と生産性は極めて低く、農業により収入向上を図るためには大きな制約が存在する。したがって、住民は必要な現金収入の多くを、政府補助金や出稼ぎと、女性が製作・販売している刺繍ほか様々な民芸品を僅かな収入源としている。

1998年にキンタナ・ロー州の女性支援を目的に設立されたキンタナ・ロー州女性庁（以下、「女性庁」）は、女性の経済活動参画及び生活レベルの向上をめざし、マヤ族居住地域を含む同州の女性に対する研修プログラムを提供している。しかしながら、これら研修プログラムを通じて製作される民芸品は、未だ品質やデザインのレベルが低く、州内の観光地でも売られることはほとんどなく、主として村内で販売されている。また、先住民のマヤ族でありながら、民芸品にはマヤ文化固有のデザインが生かされておらず、また観光地で売るために必要な観光客の嗜好なども全く調査されていない。

かかる状況下、キンタナ・ロー州政府は我が国に対し、マヤ族の貧困削減を図るひとつの選択肢として、マヤ族居住地域の女性グループが製作する民芸品の販売増・収入向上を念頭に、女性庁の組織強化を図り、これら民芸品の品質向上及び、デザイン改善や新製品の開発支援が継続して行われるための仕組みづくりを目的とする、技術協力プロジェクトを要請した。JICAは、2007年3月より約3年間の予定で、女性庁を実施機関とした技術協力プロジェクトを開始した。

今般、協力開始から約1年半を迎えるにあたり、メキシコ関係機関と合同で、2008年9月8日から24日まで、中間評価調査が実施された（調査団派遣日程は、9月7日～26日まで）。調査項目は以下のとおりである。

- (1) 投入実績、活動実績、計画達成度を、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）に基づき確認するとともに、課題と問題点の整理を行う。
- (2) JICA 事業評価ガイドラインに基づき、5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から評価を実施し、プロジェクトが順調に成果発現に向けて実施されているかを検証する。
- (3) メキシコ側との協議に基づき PDM の修正、それにあわせた活動計画（PO）の確定を行う。
- (4) 上記の調査結果に基づき、今後の活動計画に関する提言を行う。

1-2 調査団の構成

プロジェクトの評価は、日本側調査団5名とメキシコ側2名の評価委員による合同評価で行われた。評価委員は以下のとおりである。

氏名	所属/役職（*中間評価調査時）
（日本側）	
十郎 正義 （総括）	JICA 産業開発部 課題アドバイザー
磯貝 白日 （協力企画1）	JICA メキシコ事務所 職員
石塚 賢司 （協力企画2）	JICA 産業開発部 中小企業課 職員
藤田 久美子 （観光開発・調整）	JICA 中米・カリブ地域支援事務所 在外専門調整員
本間 まり子 （評価分析）	インテムコンサルティング株式会社 社会開発部 コンサルタント
（メキシコ側）	
Dra. Rose Mary Perez y Perez	キンタナ・ロー州女性庁 教育・保健部 部長
Sra. Mildred Virginia Coral Garcia	キンタナ・ロー州女性庁 企画評価部 部長

1-3 調査団派遣日程

評価団の派遣日程の詳細は付属資料2.のとおりである。

1-4 評価項目・評価手法

1-4-1 評価の手順

本調査では、日本側及びメキシコ側の合同評価チームを編成し、これまでのプロジェクト活動を調査、評価するとともに、今後の活動の方向性及び軌道修正の必要について提言を行った。合同評価チームにおける合意事項を、合同評価報告書として取りまとめ、合意内容を協議議事録（M/M）にて確認した（付属資料1.）。

1-4-2 評価手法

評価手法は、JICA 事業評価ガイドラインに基づき、プロジェクトの実績と実施プロセスを確認し、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の視点から評価を行うこととした。

本評価調査では、プロジェクトの現状に即して2008年9月に改訂されたPDM(以下、「PDM1」、付属資料3.-②を参照)に基づいて評価デザインを作成した。評価のデザインについては付属資料4.の評価グリッドを参照。

情報及びデータ収集は、プロジェクト報告書などの既存資料及び関係者への質問票調査と面談によって行った。面談者リストは付属資料7.を参照。

収集した情報は、まず日本側評価委員によって取りまとめられ、その後評価委員全員で評価が行われた。

《評価5項目》

妥 当 性	プロジェクトの目標は、受益者のニーズと合致しているか、問題や課題の解決策としてプロジェクトのアプローチは適切か、相手国の政策や日本の援助政策との整合性はあるか等の正当性や必要性を問う視点。
有 効 性	プロジェクトの実施により、目標がどれだけ達成され、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいはもたらされるのか）を問う視点。
効 率 性	主にプロジェクトのコスト及び効果の關係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいはされるか）を問う視点。
インパクト	プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果、特に予期していなかった正・負の効果・影響をみる視点。
自立発展性	援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みはあるか）を問う視点。

1-5 PDMの修正について

本プロジェクトは、2006年12月14日にR/Dにおいて承認されたPDM0（付属資料3.-①）に基づいて、2007年3月より活動が開始された。しかし、活動開始当初から、JICA側とメキシコ側の関係者双方により、カウンターパートである女性庁生産強化部と支所（以下、「C/P」）の位置づけが不明確である点や、C/P組織の機能に即していない業務がプロジェクト活動に含まれているといった、プロジェクトの枠組みやロジックの不備が指摘されていた。

そのため、プロジェクト活動においては、女性庁職員への市場調査手法・迅速農村調査法（RRA）研修、女性庁活動計画策定、他組織（公的機関）との連携、民芸品製作者の組織化等、計画どおり実施されているものがある一方、一部課題が残されているものがあつた（付属資料6.-①「活動進捗表（PDM0に対応）」を参照）。例えば、活動3.1に関しては、女性庁内には、民芸品の技術改善や開発を担当する技術指導対象者が配置されていないという理由で実施されていない。また、C/P組織の機能強化を目的として設定されている成果1においては、その内容とプロジェクト目標との関係性が不明瞭であり、その指標や関連する活動内容が具体的に記載されていないため、関係者間に混乱が生じた。また、C/Pの間において、自分たちがプロジェクトの枠組みの外にあるという認識から、プロジェクト活動への参加の意欲が欠如する傾向がみられ、活動実施プロセスに支障を来していた。

こうした状況を解決すべくJICA事務所、本部のアドバイスにより、プロジェクトC/P及び専門家は、プロジェクトの枠組みを検討し、その結果、PDMの改訂に至つた。プロジェクトの本改訂の目的が、C/P組織の組織強化であることを明確にし、枠組みを整理すべく、PDMの改訂版が作成された（PDM1、付属資料3.-②）。民芸品改善・開発に係る女性支援の体制を、女性庁の組織強化を通じて構築するという枠組みに変更した。

第2章 プロジェクトの実績と現状

2-1 投入実績

投入は、メキシコ側の投入に一部遅延や未遂項目がみられるものの、おおむね計画どおり実施されている。詳細な投入実績は、付属資料 5. を参照。

2-1-1 日本側投入実績

(1) 専門家派遣

本プロジェクトにおいて、2008年8月末までに派遣された短期専門家は、延べ7名、42人月の投入であった。

(2) C/P 研修実績

プロジェクト目標達成のために必要とされる研修内容を考慮して、本邦研修は実施せずに、2007年度にはC/P 2名が、2008年度にはC/P 機関を通じた技術講師としての役割が期待されている実証プロジェクト参加女性2名が、それぞれ米国で開催された研修へ派遣された。

(3) 機 材

2008年7月末までの日本側のその他機材の実績は、合計36万9,443メキシコペソ (MXN) (397万5,207円相当、2008年9月JICA月次為替レート：1MXN=10.76円)。供与機材は、プロジェクト車両2台(414万9,226MXN。38万4,545円相当、2007年3月JICA月次為替レート：1MXN=10.79円)、その他の機材は、コンピューター、プリンター、コピー機、刺繍用ミシン等である。

(4) 在外事業強化費

2008年7月末時点で、日本側の在外事業強化費として合計123万3,651MXN相当(1,327万4,088円、2008年9月JICA月次為替レート：1MXN=10.76円)がプロジェクトの活動のために投入された。

2-1-2 メキシコ側投入実績

(1) C/P の配置

2008年8月末までのメキシコ側C/Pの配置人数は、延べ26名(離職者を含む)である。12名(現在は、10名)が女性庁本庁の生産強化部職員、14名(現在は9名)がラサロ・カルデナス、ホセ・マリア・モレロス、フェリペ・カリジョ・プエルトのそれぞれの支所員である。

(2) ローカルコスト負担

2008年8月末時点で、メキシコ側のローカルコスト負担として合計11万899MXN相当(119万3,273円、2008年9月JICA月次為替レート：1MXN=10.76円)がプロジェクトの活動のために投入された。投入内容としては、プロジェクト事務所整備費、供与機材付加価値税、車両税、保険代等である。なお、C/Pの出張費、運転手の日当については、支出実績はない。

2-2 活動実績

活動は、PDM1において新たに整理された枠組みにおいて、おおむね計画どおり実施されている。これまで主に、支援モデル構築のための実証活動が実施されており、今後実証を継続しつつ、モデル化のためのマニュアルやガイドライン作成等の活動が実施される予定である。詳細な活動実績は、付属資料 6. -②の「活動進捗表 (PDM1 に対応)」を参照。

2-3 成果の達成度

成果は、新たに設定された枠組みのなかでおおむね計画どおり産出されている。それぞれの成果に対する 2008 年 8 月末までの達成実績は以下のとおりである。

(1) 成果 1：調査機能の強化：現状の把握や活動を実施するために必要な情報が収集・整理される

指標 1-1. キンタナ・ロー州の民芸品市場の現状調査が実施され情報が報告書にまとめられ、更新されている	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 民芸品市場調査（カンクン、コスメル、イスラ・ムヘレス、プラジャ・デル・カルメン、トゥルム、バジャドリド、メリダなど7カ所）の実施 ◆ 市場調査報告書を作成 ◆ 情報の更新は協力店を通じて聴取
指標 1-2. プロジェクト対象地域の村落の現状調査が実施され情報が報告書にまとめられ、更新されている	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 村落部の RRA 調査（3市8カ村）の実施。うち2カ所については、C/Pのみで実施 ◆ RRA 調査報告書を作成（6カ村） ◆ 情報の更新は十分に行われていない
指標 1-3. プロジェクト対象地域で実施された調査情報が、支援プロジェクト形成時に何らかの形で活用されている	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 現時点では未確認

(2) 成果 2：運営管理機能の強化：女性庁生産強化部が運営管理手法を習得し適用する（支部の生産強化部所掌の業務を含む）

指標 2-1. 女性グループの生産支援業務マニュアル（ドラフト）が作成されている	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生産支援業務マニュアルのコンテンツの開発を、現場の活動での経験を基に作成。マニュアルのコンテンツは、①デザイン、②製品生産、③製品販売、④生産管理、⑤生産組織。現在、それぞれの分野で 2008 年度のドラフトの完成に向け、マニュアルの内容を作成中 ◆ 業務フローチャート（ドラフト）を作成済み
指標 2-2. 作成された生産支援業務マニュアルの検証が行われている	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 未実施

(3) 成果 3 : 調整・連携機能の強化 : 女性庁生産強化部と関係組織との調整及び連携が構築される

<p>指標 3-1. 支援スキーム活用ガイド（パンフなど）案が作成されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ C/P 主導で支援スキームの情報を収集済み。その取りまとめを実施中 ◆ 支援スキーム活用ガイドについては、未実施
<p>指標 3-2. プロジェクト終了時に、民芸品を作成する女性グループが受けられる支援スキームをもつ関係機関と会議が開催されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 関係者（関係他機関、市行政関係者、女性グループなど）を招いてプロジェクトのキックオフイベントを実施 ◆ 民芸品製作に、特に関係の深い他政府機関の職員を含めた合同調整委員会（JCC）を発足させ、JCC を実施
<p>指標 3-3. 民芸品製作者と協力者/民芸品販売店とのマッチングの機会（品評会や商品紹介イベントなど）が年に2回以上実施される</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ラサロ・カルデナス市 5 グループの製品の品評会を実施。民芸品店のオーナーやデザイナーから高い評価及び更なる改善に向けたアドバイスを受ける ◆ “国際女性の日”の催し会場に、ラサロ・カルデナスの 5 つのグループが作製した試作品を展示。同会に参加した州知事への説明を行う ◆ 初年度の支援対象 5 グループの研修修了式を実施し、民芸品オーナー、市役所、国家先住民族開発委員会（CDI）やキンタナ・ロー州村落先住民開発局（SEDARI）などの関係者を招待して、関係者の生産現場への理解の促進

(4) 成果 4 : 支援プログラムの構築 : 女性庁生産強化部と関係支所による対象女性グループへの実証プロジェクトを通して、民芸品生産支援プログラムが作成される

<p>指標 4-1. 改善・開発された民芸品の種類が増加する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ デザイン改善、新製品開発の実証として、ラサロ・カルデナス市区の 5 つの女性グループに対して指導を行い、それぞれの特性を生かした試作品と販売試験用製品（10 品目）の完成
<p>指標 4-2. 改善・開発された民芸品の品質の評価が向上する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2007 年 12 月にデザイナーや民芸品店オーナーなどを招待して、試作品の品評会を実施し、全体的に高く評価された。品評会では招待者から生産者に試作品への改善のためのコメントや助言をもらい、生産者にフィードバック
<p>指標 4-3. 改善・開発された民芸品の販売が増える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2008 年 8 月 10 日現在、合計販売数 : 33 点、合計販売額 : 1 万 1,933MXN ✓ Yalat : ショール (6 個)、ハンモックバッグ (5 個)、木製ミニチェア (6 個)、木製ミニテーブル (11 個) ✓ La Boutique : ショール (0 個)、ハンモックバッグ (0 個) ✓ Las Chicas : 木製ミニテーブル (4 個)

	✓ Mixik : ビーチバッグ (G) (1 個)
指標 4-4. 民芸品生産支援プログラムが適用される女性グループの能力が向上する (意識、知識面等)	(評価調査開始時点で設定されていなかった指標のため、中間評価の対象とならなかった)

(5) 成果 5 : 情報管理能力の強化 : 支援業務に関する情報の適切な管理と活用が行われる

指標 5-1. プロジェクト情報管理の仕組みができている	◆ Web ベース上のデータ管理サービスを用いた、インターネットベースでの情報共有を 2008 年 6 月より開始。専門家内での情報交換や議論、プロジェクトに関するデータの蓄積に活用。C/P の参加はインターネットアクセスへの制限等から限定的
指標 5-2. C/P 職員が情報システムで有益な情報を更新している	◆ 専門家によるプロジェクト情報の更新は、徐々に実現。C/P の参加は限定的
指標 5-3. C/P 職員の 70% が、更新・蓄積された情報をそれぞれの活動に活用している	◆ 未調査 (現時点では情報システムが導入されていないため)

2-4 プロジェクト目標達成の見込み

1-4 のとおり、本プロジェクトにおいては、2008 年 9 月からプロジェクトの枠組みが変更となった。新しいプロジェクト目標は、「女性庁・生産強化部による女性グループへの支援モデルが確立される」である (支援モデル案の詳細は、付属資料 8. を参照)。そのため、中間評価段階においては、プロジェクトの目標が達成されるかどうかを見極めるには時期尚早である。中間評価を通じて、当初計画に対し PDM が変更されたにもかかわらず、投入に関する効率性は特に阻害されていないことは検証された。今後はプロジェクト前半部分で実証活動を中心に展開してきたことを、後半でモデル化する必要がある。また、C/P 関係機関との連携を具体的に機能させるための制度設計や、女性庁生産強化部の、これまでのプロジェクト活動を通じて得られた経験を基に、業務マニュアルとガイドラインを作成するといった重要な活動が残されている。

2-5 プロジェクトの実施プロセス

本プロジェクトの実施プロセス・実施体制に関して、特にプロジェクトの進捗に影響を及ぼした事項を以下に記載する。

2-5-1 PDM の改訂による影響

1-4 において述べられているとおり、プロジェクト開始当初から、当初計画について関係者で混乱が生じ、プロジェクトへの C/P の主体的な参加が限られるなどの影響があった。しかし、PDM の改訂に伴い、混乱は収まり、実施体制が整いつつある。

2-5-2 マネージメントとモニタリング体制

2008年4月に新しい女性庁長官が着任し、組織再編成が行われているが、マネージメント体制に大きな変化はない見込みである。JCCは、2008年3月、プロジェクトの目的の共有と活動内容紹介を目的に実施された。さらに、JCCのサブ組織であるテクニカルコミッティーが設立され、第1回会議が2008年6月に実施された。参加者は、女性庁長官、女性庁生産強化部長、女性庁実証活動対象3支所長、JICA専門家、JICA事務所、メキシコ外務省であった。また、情報共有のために、長官とプロジェクト側の定期的なミーティングの実施が、中間評価のための面談時に長官より提案された。

プロジェクト関係者間においては、専門家とC/P間などに、一部コミュニケーションや情報共有不足がみられた。原因として、本プロジェクトの3カ所にわたる実証活動の対象地域は、プロジェクト事務所から遠方に位置するため、頻繁な出張を通じた活動が行われていることや、シャトル型の専門家派遣制度を採用しており、総括をはじめとして、JICA専門家が常駐しておらず、ミーティングへの参加に限界があることなどが指摘されている。現在、上記のようにPDMの枠組みの変更と併せて、週ミーティングの実施や週報の提出、ウェブ上での情報共有システムの確立といったモニタリング体制が構築されつつあり、今後、改善が期待される。

2-5-3 ローカルコストの負担

ローカルコストの負担に関して、プロジェクト開始前に女性庁とJICA間で、協議が十分ではなかったことや、JICAと女性庁の予算年度の違い、プロジェクトの枠組みの変更に係る議論により、詳細の活動計画が一部確定しなかったことから、2007年度、2008年度ともに、C/Pの出張費や運転手の日当等の支出が計画どおり行われず、農村への訪問を通じた活動が制限された。2008年度の予算については、制度上、予算は確保されていないが、長官が自己責任において、必要経費を確保することに言及されている。2009年度以降は、現在、予算申請済みである。

2-5-4 女性グループ活動

民芸品製作に取り組む女性グループは、計画されている3市15グループのうち、2市10グループへの実証活動が開始されている。グループの選定にあたり、女性庁の過去の支援内容や支所の利害関係に影響を受けやすい点がみられるものの、対象となったグループは熱心に活動に参加し、支援モデルの確立に貢献している。

2-5-5 関係機関との連携について

関係機関との連携については、PDMの成果3に含まれており、プロジェクト目標の達成に結びつく重要な要素であると位置づけられている。関係機関は、JCCのメンバーにも含まれており、第1回会議においてプロジェクト活動が紹介された。中間評価以降、女性庁長官が議長を務める州計画委員会ジェンダー平等サブコミッティー等において、プロジェクトで構築中の支援モデルが紹介され、連携へ向けた合意が協議される予定である。

第3章 評価結果

3-1 評価5項目による評価結果

3-1-1 妥当性

以下の理由により、一定の妥当性があると判断される。

<対象地域・社会、ターゲットグループのニーズとの合致>

対象地域であるキンタナ・ロー州には、カンクンのほか世界的な観光地があり経済発展が著しい反面、内陸部には伝統的な自給自足経済にある先住民マヤ族が人口の80%以上を占める地域があり、地域間格差が激しい。しかし、NGOなどの外部からの支援が限られている。マヤ族住民は、カルスト台地のために生産性を向上させることが容易ではなく、農業収入が限られているため、民芸品の製作販売を通じて収入向上をめざしている。しかし、民芸品の品質やデザインレベルは低く、民芸品販売促進のための、品質・デザインの改善、新製品の開発などに係る支援が必要とされていた。

キンタナ・ロー州女性庁は、1998年、経済活動、政治、文化、社会への女性の参加を促進することを目的に設立された。その機能のひとつに、連邦政府と州政府がもつ女性への支援スキーム（プロジェクト）の実施促進と、モニタリング・評価の実施が含まれている。特に、C/Pである生産強化部と支所は、民芸品の製作を含む、女性の生産活動を支援し、そのため女性グループの形成や強化をする役割の一端を担っていたが、そのキャパシティが脆弱であるため、十分な支援が実施されていないのが現状であった。

よって、女性庁の組織能力向上を通じた女性支援体制の構築をめざす本プロジェクトは、対象地域やターゲットグループのニーズに一定程度適応している。

<政策における優先度>

メキシコ政府は、国家開発計画（2007～2012）で、持続可能な人間開発のなかの重点項目として、貧困克服及び格差の是正をあげており、特に先住民への支援の必要性を重視している。一方、キンタナ・ロー州政府は、州開発計画（2005～2011年）において、効率的な政府、競争性、統合的開発、生活の質の4分野を柱としている。そのなかで、本プロジェクトは、地域間格差を是正するための戦略のひとつとして、住民の生産的資質や熱意を最大限活用した持続的かつ平等な経済開発の推進する「統合的開発」と、ジェンダー平等や先住民の福祉に関する項目が含まれる「生活の質」に合致していると考えられる。

また、プロジェクトが支援する人間の安全保障分野が、メキシコにおけるJICAの重点分野として設定されており、日本の援助政策との整合性が確認されている。

<手法としての適切性>

上記のように、マヤ族女性は少ない農業所得を補うために、民芸品の製作販売を通じて収入向上をめざしている。そのために、品質・デザインの改善、新製品の開発などに係る支援が必要とされていた。しかし、その役割を担う女性庁のキャパシティが脆弱であるため、十分な支援が実施されていないのが現状である。よって、民芸品製作グループを中心にした女性支援体制の構築をめざす本プロジェクトのデザインは適切であると考えられる。

<対象の選定の適切性>

プロジェクトの対象地域であるキンタナ・ロー州には、地域間格差が激しく、貧困削減に向けた支援を必要としている地域がある。しかし州の平均所得が高いため、貧困削減分野の NGO 等による支援が限られている。さらに、キンタナ・ロー州の 8 市のうち、プロジェクトが実証プロジェクトの対象とする 3 市は極端に経済的に脆弱な地域であるため、選択は適切であると考えられる。

一方、C/P 機関である女性庁は、経済活動、政治、文化、社会への女性の参加を促進することを目的に設立された。特に、C/P となっている女性庁生産強化部とその支所は、女性の生活向上につながる生産活動の支援を担っており、プロジェクトが目標とする、女性の民芸品の改善・開発を支援する一組織として適切であると判断される。

実証プログラム対象グループの選定においては、女性庁により既に支援の経験がある女性グループが推薦され、そのなかから、プロジェクトが定めた選定条件を基に決定された。対象者の規模については、3 市 15 グループを対象予定であり、既に 2 市 10 グループに対する活動が実施されている。また、支援モデル作成を目的とした実証活動の対象としては、規模が大きすぎる可能性があるため、今後の再検討の可能性について中間評価時に議論をした。

3-1-2 有効性

今回の中間評価時に PDM の改訂を実施しており、以下の理由により高い有効性が期待される。

<プロジェクト目標の達成の見込み>

本プロジェクトは女性庁の機能強化を通して、質の高い民芸品の生産と開発を通じた民芸品生産女性の収入向上を実現する、支援プログラムの確立を目的としている。1-4 のとおり、本プロジェクトは、プロジェクト目標が変更になったばかりである。中間評価を通じて、当初計画に対し PDM が変更されたにもかかわらず、投入に関する効率性は特に阻害されていないことは検証された。今後はプロジェクト前半部分で実証活動を中心に展開してきたことを、後半でモデル化する必要がある。また、C/P 関係機関との連携を具体的に機能させるための制度設計や、女性庁生産強化部の、これまでのプロジェクト活動を通じて得られた経験を基に業務マニュアルとガイドラインを作成するといった、重要な活動が残されている。そのため、中間評価段階においては、プロジェクトの目標が達成されるかどうかを見極めるには時期尚早である。

旧 PDM 下の調整と並行して、2007 年 12 月から 2008 年 4 月まで、プロジェクトを統括する女性庁長官が不在であり、内部の意思決定や、組織間の連携に障害が生じた。しかし、2008 年 4 月に新しい長官が就任して、プロジェクト目標達成や自立発展性の確保に組織的に取り組む体制が整いつつあり、プロジェクトの促進要因となっている。

<設定されている成果の適切性>

C/P の組織強化を通じて、民芸品改善・開発に係る女性グループ支援の体制を強化し、そのための支援モデルの構築をプロジェクト目標として達成するために、適切な成果が設定されていると判断される。成果は、C/P の女性支援体制を包括した形で設定されており、相乗効果があると考えられる。

<成果からプロジェクト目標に至るまでの外部条件>

プロジェクト目標達成において「地域に決定的なダメージを引き起こす災害が起こらない」という外部条件が設定されている。2007年8月末に、ハリケーンの影響があり、1ヵ月ほど活動が遅延したが、適切に対応したため、プロジェクト目標達成に大きな影響はみられない。

3-1-3 効率性

以下の理由により、プロジェクトの効率性はおおむね問題ないと判断される。

<成果の産出状況>

2-5において報告されたように、一部日本人専門家とC/Pの間にコミュニケーション不足や、実施体制における混乱や問題が生じたものの、プロジェクト活動はおおむね計画どおり実施されており、今後、実証活動を継続しつつモデル化のためのマニュアルやガイドライン作成等の活動を通じて、成果が達成される見込みである。これまでの活動を通じて、成果3に設定されている他の機関の支援スキームとの連携として、2008年9月に国家先住民族開発委員会(CDI)より10万MXNを上限とした補助金が、ラサロ・カルデナス市におけるプロジェクト対象5グループに対して支給されたことは、今後のモデルづくりに結びつく成果と考えられる。

PDMの改訂を通じてプロジェクトの枠組みが整理されたことで、C/Pのプロジェクト内の役割が明確になり、プロジェクト活動への参加や成果達成に向けた意欲が増しており、促進要因となっている。一方、関係者間のコミュニケーションの欠如が阻害要因として憂慮される。特に、女性グループへの直接的な支援や監督業務は、女性庁支所の役割であり、支所との密な連携を欠如した活動は、成果の達成を阻害する要因になる可能性が高い。

<投入の適切性>

投入に関しては、以下のとおり、日本側の投入については量及びタイミングについて、大きな問題はみられないが、メキシコ側の投入については、一部計画どおりに実施されていない。また、プロジェクトの枠組みの修正に即して、今後、女性庁機能強化分野に重点を置いた投入計画の再検討が必要となる可能性がある。

・日本側の投入

日本側の投入に関しては、「2-1 投入実績」の項で確認されたとおり、おおむね計画どおり実施されている。

投入された専門家は、すべてスペイン語での業務が可能であり、特に民芸品改善・開発分野では、マヤ族女性グループを指導して民芸品を作製している経験豊富な現役の現地専門家が投入されており、対象地域の技術への適切な対応が可能となっている。しかし、今後、プロジェクトの枠組みの修正に即して、女性省機能強化分野に重点を置いた投入計画の再検討が必要となる可能性がある。

C/P研修に関しては、2007年度、ニューヨークの民芸品フェアと民芸品市場セミナーへの派遣が実施された。うち1名は2007年12月に離職しており、プロジェクト目標達成への裨益は限定的であったと判断せざるを得ない。2008年度には、実証活動の対象である、木工製品生産女性グループメンバー2名が、米国における技術研修に派遣された。これは、C/P

機関において同分野の技術者が不在である状況を補い、将来的に女性庁のインストラクターとして活用することを前提にした派遣である。今後、プロジェクトで確立する支援モデルのなかに、研修参加者がインストラクターとして女性庁に活用されるといった、明確な位置づけがなされる必要がある。

機材の購入に関しては、民芸品の作製に必要な材料は、必要最小限の量、品質を確保するための材料と質を厳選して購入されており、投入の時期・量・質ともに適切であった。投入のタイミングについて、一部、購入を予定していた機材がチェトゥマルでは入手困難であったことから、機材の購入が第2年次の半ば過ぎまで遅れた。

・メキシコ側の投入

メキシコ側の投入は、「2-1 投入実績」の項で確認されたとおり、人事異動や予算確保上の問題により、一部計画どおりに実施されていない。

C/Pの配置については、当初予定されたC/Pが業務量から計画どおりに配置されなかった。2008年度以降は計画が実現し、現在12名が配置されている。人事異動の影響により、プロジェクトダイレクターであるべき長官が2007年12月から2008年4月まで不在であった。支所に関しては、対象3支所すべての所長が2007年12月に交代したが、現在は計画どおりの投入が行われている。近々、組織再編が行われる予定だが、C/P部署は、名称変更のみとなる見込みである。

土地や施設の提供に関しては、女性庁の引っ越しなどの影響により遅延したものの、おおむね計画どおりに実施されている。2007年8月末のハリケーンの影響により、プロジェクトオフィスが使用できなくなったが、女性庁の会議室をプロジェクトオフィスとして使用する便宜がとられた。その後2008年7月に女性庁庁舎の引っ越しに伴い、オフィスが移転された。

ローカルコストの負担に関して、プロジェクト開始前に女性庁とJICA間で、協議が十分ではなかったことや、JICAと女性庁の予算年度の違い、プロジェクトの枠組みの変更に係る議論により詳細の活動計画が一部確定しなかったことから、2007年度、2008年度ともに、予算の確保に問題があり、C/Pの出張費や運転手の日当等の支出が計画どおりに行われず、農村への訪問を通じた活動が制限された。2008年度の予算については、制度上、予算は確保されていないが、長官の自己責任において、必要経費を確保することに言及されている。2009年度以降は、現在、予算申請済みである。

<活動実施における外部条件>

活動実施段階に設定されている外部条件「女性の生活向上が州政府開発計画の主要項目であること」、「当該地域に壊滅的打撃を与える出来事が起こらないこと」については、充足されている状態である。

3-1-4 インパクト

本プロジェクトにおいては、プロジェクトのデザインを見直したばかりであり、中間評価である現段階において上位目標の達成の見込みを判断するのは、時期尚早であると考えられる。一方、プロジェクト活動を通じて、以下のようなインパクトが生じている。

<C/P への波及効果>

C/P は、プロジェクトにおける組織強化を目的とした取り組みを通じて、技術を向上するだけでなく、意欲の向上や経験の蓄積といった波及効果を受けている。例えば、プロジェクト活動における迅速農村調査法（RRA）を通じて、多くの C/P が参加し実際に農村における調査に従事したことで、農村の女性たちへの考え方や態度が変化した。また、知識としてしかなかった農村開発に関する経験を蓄積したことで、通常の業務の遂行に意欲が促進されたことが報告されている。

<実証活動対象の女性グループへの波及効果>

民芸品製作に取り組む女性たちには、実証活動におけるグループ活動を通じて、民芸品販売による収入向上、自助努力への意識の変化、リーダーシップや自信の構築、社交の促進、精神的充実といった、社会経済的エンパワーメントがみられる。また、家族などの男性側にも、家事や育児の分担といった行動変容や、女性の収入向上への意識の変化が生じている。さらに、グループが自発的に連携する動きも報告されている。

例えば、対象となった女性たちは、女性、先住民、貧困という3苦に直面しており、外部との接点や、支援を受ける機会が限られていた。そのため、プロジェクト活動への参加を通じて、好きな刺繍や編み物といった民芸品の作製をする機会が増加したことについて、精神的な充実を感じている女性たちが多い。また、研修参加や研修参加の証明書を受けたことで、技術の向上だけでなく、自信の構築や、自己尊重の意識の芽生えといったエンパワーメントがみられている。さらに、先住民コミュニティにおいては、補助金を受け取って当然という意識が広がっており、女性の名前で支給された資金を世帯内の男性が使用することが通例であった。しかし、本プロジェクトを通じて、受け取った資金や機材を女性たち自身が活用し、製品の製作販売を通じた収入を獲得することで、補助金に対する意識が変化してきている。

グループにおける民芸品生産活動について、反対する配偶者もみられる一方、活動の継続や女性たちの熱意を通じて、男性たちの変化も報告されている。例えば、活動時間中の家事や育児の分担といった行動の変化や、女性の収入への期待といった意識の変化である。今後、収入の獲得を通じて、より理解が促進されることが期待されている。

また、こうしたプロセスを通じて、女性たちは、村レベルから積極的に広いマーケットを意識した製品を生産するようになっている。さらに、生産活動（民芸品生産の種類）が多様化したことで、夫の収入に依存していた状態から、自ら収入を獲得することへの意欲が増している。自ら製作した民芸品の販路を拡大し収入を向上する手段として、法人化の利点を理解し、前向きに検討するグループも確認されている。

グループ活動を通じたインパクトもみられる。例えば、家の外に出る機会が限られていた女性たちが、活動を通じて定期的に外に出て、メンバーとの交流をすることで、民芸品製作にとどまらず、生活一般に関する情報交換や助け合いの機会を得ている。また、グループ内で民芸品の生産に係る技術面の協力だけでなく、精神的な協力や、それ以外の生活全般についてのコミュニケーションが増し、精神的に生活が豊かになったことが報告されている。各グループのリーダーは、非常に責任感をもって活動に従事しており、メンバーからも信頼されることで、自信や生きがい、自己の可能性を見出している。また、プロジェクト対象のグループ間において、効果的に活動を進めるために、自発的に連携する動きが報告されている。

<他の機関への波及効果>

C/P 以外の組織への大きなインパクトは確認されていない。しかし、女性庁長官により、モデルを庁内で広く活用する意思が表明されており、そのため C/P 以外の部署との連携が進められつつある。今後、プロジェクトにより確立されるモデルの活用が期待されている。

<マイナスのインパクト>

プロジェクトによる大きなマイナスの影響はみられないが、一部実証活動において、女性グループ活動に対する男性の理解が限定的であり、女性の活動参加が阻害される事例がみられた。そのため今後、男性への理解促進に向けて、組織化研修に付随した形での男性への説明や、ジェンダー平等部の活動を通じた理解促進の取り組みが必要であると考えられる。

3-1-5 自立発展性

現在、以下のように、自立発展性の確保に向けた取り組みがなされつつある。

<政策・制度面>

本プロジェクトの自立発展性を確保する政策として、女性の職業機会拡大や生産能力の向上、先住民の生産活動への参加促進、能力強化、先住民文化の保護や普及に取り組みを定めた「州開発計画 2005～2011」の存在が確認されている。

また、プロジェクトによって確立される支援モデルの制度化や他部署を含めた女性庁全体での活用の可能性について、女性庁長官より主体的に取り組む意思が表明されており、プロジェクト終了までの進捗に留意する必要がある。プロジェクト終了後のフォローアップ業務が C/P の役割であるという認識は、既に関係者間で共有されはじめている。

<人事・組織面>

女性庁においては、連邦レベルの議員選挙や州政府の政権交代、市レベルの選挙などのたびに人事異動があり、これまで、女性庁長官と実証活動対象 3 支所の支所長を含む 6 名の異動があった。また、本庁レベルでは 1 名が離職し、1 名が異動、他部署や支所のスタッフだった人材 3 名が新たに加わった。

こうした状況は今後も想定されるため、将来の人事異動の影響を排除し、自立発展性を確保することが必要である。そのために、プロジェクトを通じて移転される技術や知識を文書化し、モデルとして確立することが、プロジェクト目標として設定されている。また、確立されるモデルの制度化についても、プロジェクト終了までに方向性が明示されることが望まれる。

<財政面>

財政面に関しては、女性庁は、管理コストのみで事業予算を有しない。事業予算に関しては、女性のための支援スキームが数多く存在しており、特に、プロジェクトが対象とするような先住民女性を対象にした支援プログラムは、多く存在している。そのため、女性庁としては、事業予算を補完するため、支援スキームをもつ関係機関との連携体制の確立が、重要である。プロジェクトが確立する支援モデルにおいても、こうした連携の強化が、成果 3 に設定されている。

3-2 結 論

中間評価段階においては、プロジェクトの目標が達成されるかどうかを見極めるには時期尚早である。ただし、当初計画に対しPDMが変更されたにもかかわらず、投入に関する効率性は特に阻害されていないことは検証された。今後はプロジェクト前半部分で実証活動を中心に展開してきたことを、後半でモデル化する必要がある。また、C/P関係機関との連携を具体的に機能させるための制度設計や、女性庁生産強化部の、これまでのプロジェクト活動を通じて得られた経験を基に業務マニュアルとガイドラインを作成するといった重要な活動が残されている。そのため、結論というよりも、今後の対応を提言するにとどめることがふさわしいと考える。プロジェクト後半において、どこに重点を置きながら活動を進めるかも含めて、投入計画を改めて検証することも必要である。そのため、今後のプロジェクトの進捗をきめ細かにモニタリングしながら、必要なプロジェクトの見直しを行っていくことが肝要である。

3-3 提 言

(1) マネージメント体制の強化

- プロジェクト目標の達成に向けて、年3回を目処に合同調整委員会（JCC）を開催する。また、テクニカルコミッティーを必要に応じて開催する。
- 女性庁長官とのプロジェクトミーティングを定期的で開催する。

(2) モニタリング体制の強化

- 関係者間の情報共有及び、体系的意思決定の仕組みを構築する。

(3) 関係機関との連携の強化に向けた取り組み

- JCCにおいて、他機関との情報共有・連携を図る。
- 州計画委員会ジェンダー平等サブコミッティーにおいて、プロジェクトの枠組みについて共有し、そのフォローアップを行う。

第4章 団長所感

(1) プロジェクトの進捗

PDM の改訂によりプロジェクトの目標設定を変更して、持続発展性が期待できる女性グループ支援のための仕組みづくりに重点を置くことになったが、これまで既に、JICA 本部及び JICA メキシコ事務所を含めてプロジェクト専門家と調整を進めた甲斐があつて、特に活動内容との齟齬は発生していない。一部カウンターパート (C/P) のなかにプロジェクトの枠組みを理解しきれていないという報告も受けているものの、それもプロジェクト活動全体からみればさほど大きな障害とはなっていないようだ。プロジェクトダイレクターが半年ぐらい不在であつたこともあつて、全体を統括する監理責任者がいないなかで、組織としてプロジェクトの方向を指図する会議もないという状況がプロジェクト C/P とのコミュニケーション不足を招いたようだが、これも新しいダイレクターが4月から着任し、今回の JICA 調査団との協議の場においても積極的なプロジェクトへの参画を表明していることなど、今後においては促進材料とみることもできる。

(2) 今後の投入計画

後半部における活動の重点を制度構築というところにシフトすることになったので、日本側の人的投入計画については、見直しが必要である。なお前半期間での活動に対する人的投入の量及び内容は決して不適切ではなかったことを改めて断っておく。これからの現場における女性グループへの支援活動そのものは、これまで1年半の JICA 専門家との協働活動の成果を生かしながら、女性庁現地地方事務所のキャパシティの範囲で活動が展開されることが重要である。自立発展性を求める意味でも JICA 側からの投入は最小限にとどめることも必要である。それに対し、生産強化部長を中心にして支援モデル制度化のための活動が今後の重点項目であることは既に述べたとおりであり、このための活動をアドバイスする総括担当の投入がプロジェクトの目標達成を左右するといっても過言ではない。したがって、後半部の投入計画については見直しも含めて再度吟味することが必要である。

(3) プロジェクトのモニタリングと促進指導

JCC 及びテクニカルコミッティーは、JICA-C/P 機関間の合意形成のための重要なモニタリング機会であり、特にテクニカルコミッティーの開催については、今まで以上に頻繁な開催を求めることと、制度化に向けた準備のモニタリングと促進指導が必要である。

(4) プロジェクト目標達成のための課題

プロジェクトは女性支援の仕組み (モデル) の確立をめざしているが、これには直接 C/P の女性庁生産強化部が、具体的支援機能を有する女性庁を超えた国の機関と連携関係を確実なものにできるかにかかっている。プロジェクトの1年目から2年目における前半期間においては、女性グループへの直接支援をパイロットプロジェクトとして位置づけ、それから得られる知見、特に女性庁関係部だけでは達成できない支援内容を見極めるなど重要な支援項目を検証した結果を含めて、支援モデルを機能させるための方策を今後、実行に移すことが重要である。すなわち、他の支援スキームを有する機関との連絡協議機関 (既存の協議機関が望ましい) を活用して、連携促進のための活動をプロジェクト後半期間で C/P とともに行うこと、特に女性庁長官が積極的に露出する形で

口を出し、長官を全面的に利用することが期待される。支援モデルの確立のためには、プロジェクト内でいえば JCC やテクニカルコミッティーでの関係者への周知と承認手続きを促進することである。また女性庁内部の承認手続き（監査部の承認とその後の理事会付議から長官の署名）のために、今後1年半でどの程度準備が進むかも終了時評価の重要なポイントになる。プロジェクトを超える次元では、既存の女性庁計画委員会ジェンダー平等サブコミッティーの場を利用して、それに参加する他の支援機関への協力の呼びかけと、また個々の機関との協力関係構築のためには、協議機関の設置と協力合意締結というかなりハードルの高い条件が待ち構えている。今後の活動のなかで実施またはそのための準備を進めることが C/P の自立発展性を検証するよい材料となるであろう。

(5) 終了時評価におけるポイント

今回の中間評価で明らかになったように、支援モデルを確立し、機能させるための欠かせない条件は他の支援機関との連携関係構築である。今後1年半にわたり行われるこの活動の結果が終了時評価の重要なポイントである。

付 属 資 料

1. 中間評価合同評価ミニッツ (M/M: 英文) (添付資料: 西文)
2. 評価スケジュール
3. PDM
 - ① PDM0
 - ② PDM1
4. 評価グリッド
5. プロジェクト投入実績一覧
6. 活動実績 (活動進捗表)
 - ① 活動進捗表 (PDM0に対応)
 - ② 活動進捗表 (PDM1に対応)
7. 面談者リスト
8. 支援モデル概念図案

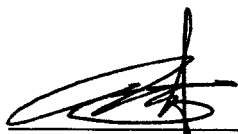
**MINUTES OF MEETING
OF THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM
AND THE MEXICAN MID-TERM EVALUATION TEAM
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT TO SUPPORT THE WOMEN'S EMPOWERMENT IN THE MAYAN REGION
IN THE STATE OF QUINTANA ROO**

The Japanese Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Masayoshi Juro, visited Mexico from September 8th to September 24th, 2008, for the purpose of conducting the joint mid-term evaluation on the Project to Support the Women's Empowerment in the Mayan Region in the State of Quintana Roo (hereinafter referred to as "the Project") on the basis of the Record of Discussions signed on December 14th, 2006 (hereinafter referred to as "the R/D").

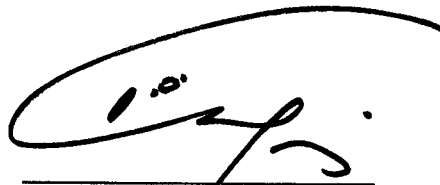
During its stay in Mexico, the Team had a series of discussions and exchanged views with the authorities concerned of the Government of Mexico (hereinafter referred to as "the Mexican side") and monitored and evaluated the Project with the Mexican Evaluation Team members.

As a result of discussions, the Joint Mid-term Evaluation Team reported the achievements of the Project to date and desirable measures to be taken for the remaining period of the Project and the Mexican side agreed to accept the matters referred to in the joint evaluation report attached hereto.

Done in duplicate in English and Spanish, each text being equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

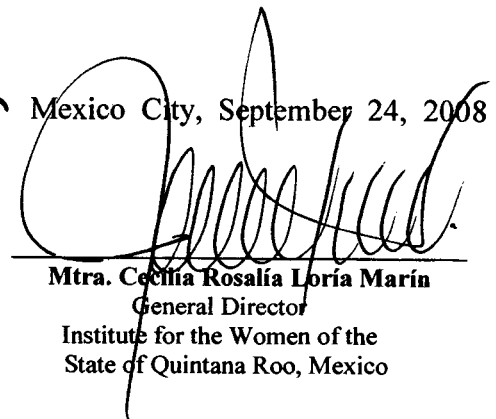


Mr. Masayoshi Juro
Leader
Japanese Mid-term Evaluation
Team,
Japan International Cooperation
Agency



Mtro. Maximo Romero Jiménez
General Director
for Technical and Scientific
Cooperation,
Secretariat of Foreign Affairs,
Mexico

Mexico City, September 24, 2008



Mtra. Cecilia Rosalía Loria Marín
General Director
Institute for the Women of the
State of Quintana Roo, Mexico



Mr. Kenichiro Kawaji
Resident Representative
Japan International Cooperation
Agency,
Mexico Office

ATTACHED DOCUMENT

The important issues discussed are as follows;

1. Joint Evaluation Report

The Mexican side and JICA conducted the Joint Midterm Evaluation of the Project. Both sides agreed on the result of the evaluation and the recommendations for the future activities. The findings are compiled in the Joint Evaluation Report (Attachment 1).

2. Modification of the PDM

Based on the result of the Joint Evaluation, the Mexican side and JICA agreed on the modification of the PDM. The revised version of the PDM is confirmed as PDM1 (Attachment 2). Institute for the Women of the State of Quintana Roo (hereinafter referred to as "IQM") and JICA approved the PO (Plan of Operation 1, Attachment 3) of the project based on the PDM1. The both side also confirmed that the project period is from March 2007 to March 2010.

3. The project management system

a. Project meeting

IQM and JICA agreed on the importance of improvement of the project management system, such as weekly meeting among the Counterparts and JICA experts, and periodical project meeting with the General Director of IQM.

b. JCC and the Technical Committee

IQM and JICA agreed that the Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as JCC) is organized three times a year. The technical committee is held based on the request (see the Attachment 4 for the detail of the members of the JCC and the Technical Committee)

4. Relationship with the related organizations

IQM and JICA agreed on the importance of the strong linkage between IQM and related organizations which are to be involved in the Model developed by the project (see the Attachment 1 for the detail of the Model). The related organizations are listed as the members of the JCC.

5. Allocation of the budget for the project expense

IQM agreed on the responsibility of its financial contribution to the project based on R/D. The budget will be allocated from the general budget from FY 2009 onwards. During the FY 2008, the General Director of the IQM agreed that IQM would arrange the necessary expenses based on requests.

6. Authorization of the Model

IQM and JICA agreed on the importance of authorization of the Model (see Attachment 5 for the detail of the Model). It was agreed that IQM would start the procedures for the authorization by the end of the project.

7. Coordination between functions of the Model and TOR of IQM

IQM and JICA agreed that there are some gaps between the functions of the Model and existing TOR of IQM, such as marketing of handicraft products. It was agreed on the further discussion about the coordination.

8. Experimental Project Site

IQM and JICA discussed that the plan of the project input might be revised according to the new PDM (PDM1). JICA suggested that the number of the women's groups involved in the experimental activities should be maintained at the current 10 groups although the original number of targeted groups was 15, in order to put more focus on the establishment of the Model, such as development of manuals and guidelines. It also be suggested that IQM should conduct such activities on their own input in order to prove the sustainability of the Model.

Attached Documents

Attachment 1: Joint Evaluation Report

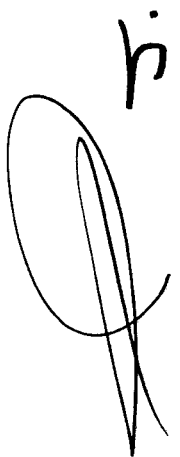
Attachment 2: Project Design Matrix (PDM1)

Attachment 3: Plan of Operation (PO1)

Attachment 4: Member list of the JCC and the Technical Committee

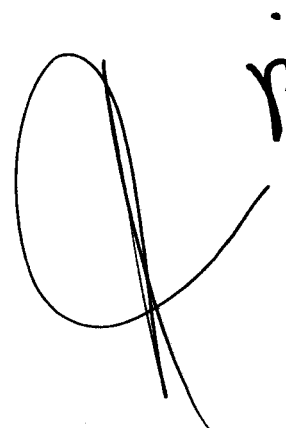
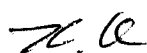
Attachment 5: Conceptual Scheme of the Model

Attachment 6: List of Attendants



**PROYECTO DE APOYO AL DESARROLLO DE
CAPACIDADES DE MUJERES EN LA REGIÓN
MAYA, ESTADO DE QUINTANA ROO**

Informe de Evaluación Intermedia



CONTENIDO

1. Generalidades de la Evaluación Intermedia
 - 1-1 Antecedentes
 - 1-2 Objetivos de la evaluación
 - 1-3 Método de la evaluación
 - 1-4 Modificación de la PDM

2. Resultados del Proyecto y su Proceso de Implementación
 - 2-1 Insumos
 - 2-2 Actividades
 - 2-3 Resultados
 - 2-4 Proceso de implementación

3. Resultados de la Evaluación
 - 3-1 Relevancia
 - 3-2 Efectividad
 - 3-3 Eficiencia
 - 3-4 Impacto
 - 3-5 Sustentabilidad

4. Conclusión

5. Recomendaciones

Anexos

1. Cronología de la Evaluación
2. PDM
 - 2-1 PDM1
 - 2-2 PDM0
3. Matriz de evaluación
4. Cuadro de insumos aportados
5. Cuadro de actividades realizadas
 - 5-1 Cuadro de actividades según la PDM0
 - 5-2 Cuadro de actividades según la PDM1

1. Generalidades de la Evaluación Intermedia

1-1 Antecedentes

El Estado de Quintana Roo, que se ubica en la península de Yucatán frente al Mar Caribe en los Estados Unidos Mexicanos (“México”, en adelante), cuenta con destinos turísticos de renombre mundial, como Cancún, que son visitados por más de 10 millones de turistas cada año; se observan un notable incremento de ingresos turísticos y un desarrollo económico generado por este auge. Sin embargo, en el interior del Estado existe el área conocida como “región maya”, donde más del 80% de la población pertenece a los grupos étnicos indígenas de los mayas. En esta zona, la disparidad entre la gente pobre y la gente rica está muy marcada y el índice de desarrollo humano es bajo.

En la zona habitada por los mayas se practica la agricultura de “roza, tumba y quema” para cultivar maíz para el autoconsumo. Su rendimiento es sumamente bajo; equivale a una décima parte del rendimiento en el Estado de Sinaloa, en la región norte del país, donde se desarrolla la agricultura moderna. Existe una gran limitación para incrementar los ingresos provenientes de la agricultura. Por lo tanto, la población obtiene la mayor parte de sus escasos ingresos en efectivo del subsidio gubernamental, de las remesas de los familiares, y de artesanías, como los bordados, que hacen y venden las mujeres.

En 1998 se creó el Instituto Quintanarroense de la Mujer (el “IQM”, en adelante) con el fin de brindar apoyos a las mujeres del Estado de Quintana Roo. Ofrece programas de capacitación a las mujeres del Estado, incluyendo a las mujeres de las zonas habitadas por el pueblo maya, para promover su participación económica y mejorar su nivel de vida. Sin embargo, las artesanías elaboradas en estos programas de capacitación aún no tienen un nivel suficiente en cuanto a su diseño y su calidad, por lo que raras veces se venden en los destinos turísticos del Estado, sino que se expenden principalmente en las comunidades rurales. Apenas se ganan unas cuantas decenas de pesos con la producción de artesanías de un mes. Por otro lado, a pesar de que las mujeres productoras sean de origen maya, no se aprovecha el diseño propio de la cultura maya en sus productos; tampoco se ha hecho ningún estudio de las preferencias de los turistas, lo cual se considera indispensable para vender las artesanías en los lugares turísticos.

Ante esta situación, el gobierno del Estado de Quintana Roo solicitó al gobierno de Japón un proyecto de cooperación técnica que tiene como objetivo realizar el fortalecimiento institucional del IQM, para poder estructurar un sistema de fomento,

que permita promover, en forma continua, el mejoramiento de la calidad y el diseño de estas artesanías, así como el desarrollo de nuevos productos, y aumentar el ingreso de las mujeres de la región maya por la venta de artesanías que ellas elaboran, como una alternativa para disminuir el nivel de pobreza de la población. La JICA inició un Proyecto de Cooperación Técnica en febrero de 2007, con un período previsto de cooperación de 3 años, teniendo al IQM como órgano ejecutor.

Al transcurrir un año y medio del inicio de la cooperación, se llevó a cabo la evaluación intermedia del Proyecto, desde el 8 hasta el 24 de septiembre de 2008.

1-2 Objetivos de la evaluación

- (1) Con base en el Registro de Discusiones (“R/D” en adelante) y la Matriz de Diseño del Proyecto (“PDM” en adelante) que determinan el contenido del Proyecto, confirmar los insumos aportados, las actividades realizadas y el grado de cumplimiento del programa, al mismo tiempo que identificar y analizar las tareas y problemas existentes.
- (2) De acuerdo con los lineamientos de evaluación de los proyectos de la JICA, realizar la evaluación desde los puntos de vista de los 5 criterios (relevancia, efectividad, eficiencia, impacto y sustentabilidad) para verificar si el Proyecto avanza bien y hacia el logro de resultados esperados.
- (3) Modificar la PDM y determinar el Plan de Operación (“PO” en adelante) de acuerdo con las modificaciones realizadas, por medio de la deliberación con la parte mexicana.
- (4) Con base en el resultado de las actividades arriba mencionadas, presentar recomendaciones sobre las acciones previstas para el Proyecto en el futuro.

1-3 Método de evaluación

1.3.1 Procedimientos de evaluación

Para la presente evaluación, se organizó un equipo conjunto de evaluación que consiste en personal japonés y mexicano. El equipo estudió y evaluó las actividades desarrolladas por el Proyecto hasta la fecha, y presentó propuestas sobre la conveniencia de modificar el rumbo del Proyecto, de acuerdo con las directrices que debe tomar el Proyecto, según las necesidades. Los puntos acordados en el equipo conjunto de evaluación son resumidos en este Informe de Evaluación Conjunta y su contenido se confirma en la Minuta de Reuniones (“M/M” en adelante).

1.3.2 Miembros del equipo de evaluación

La evaluación del Proyecto se llevó a cabo como una evaluación conjunta por el equipo evaluador formado por 5 integrantes de la misión japonesa y 2 miembros de la parte mexicana. A continuación se presentan los miembros del equipo evaluador.

Nombre	Cargo / Organización
(Parte japonesa)	
Sr. Masayoshi Juro (Jefe de la misión)	Asesor Sénior, Departamento de Desarrollo Económico, JICA
Sr. Shirohi Isogai (Planeación para la Cooperación 1)	Subdirector de la Oficina de la JICA en México.
Sr. Kenji Ishizuka (Planeación para la Cooperación 2)	Funcionario, Disición de PyMEs, Grupo de Desarrollo del Sector Privado, Departamento de Desarrollo Industrial, JICA
Srta. Kumiko Fujita (Coordinación / Desarrollo Turístico)	Especialista en Desarrollo Turístico, Oficina de Soporte Regional para Centroamérica y el Caribe, JICA
Srta. Mariko Homma (Evaluación y Análisis)	Consultor Departamento de Desarrollo Social, INTEM Consulting, Inc.
(Parte Mexicana)	
Dra. Rose Mary Pérez y Pérez	Directora de Salud, IQM
Sra. Mildred Virginia Coral García	Directora de Planeación, Seguimiento y Evaluación, IQM

1.3.3. Plan de evaluación

Véase el Anexo 1 para los detalles del cronograma de la evaluación intermedia.

1.3.4. Método de evaluación

El método de evaluación que se utilizó en esta ocasión se basa en los lineamientos de evaluación aplicados a todos los proyectos de la JICA, comparando los resultados del Proyecto y examinando su proceso de implementación. Se revisa el desempeño del Proyecto desde los puntos de vista de los 5 criterios (relevancia, efectividad, eficiencia, impacto y sustentabilidad).

La recolección de datos e información fue realizada a través de los documentos existentes, como los informes del Proyecto, y de la aplicación de encuestas y entrevistas a las personas involucradas.

La información así reunida fue organizada y ordenada primero por el equipo japonés de evaluación, y luego se analizó por todos los miembros del equipo conjunto de evaluación.

De acuerdo con la realidad operativa del Proyecto, para esta evaluación se utilizó la nueva PDM modificada (“PDM1” en adelante), en que se basaron tanto el diseño de la evaluación como la puesta en marcha de la misma. (Véase Anexo 2-1.) La PDM1 será acordada formalmente entre las personas involucradas en el Proyecto, a través de los trabajos de la evaluación intermedia. Véase el Anexo 3: Matriz de Evaluación para el diseño de evaluación.

Los 5 criterios de evaluación

Relevancia	El punto de vista que cuestiona la idoneidad y la necesidad de los efectos del Proyecto (objetivo del Proyecto y el objetivo superior), si éstos son razonables y relevantes.
Efectividad	El punto de vista que cuestiona qué tanto se han alcanzado (o se van a alcanzar) los objetivos establecidos, y si se benefician (o se beneficiarán) los presuntos receptores del beneficio y la sociedad en su conjunto por la ejecución del Proyecto.
Eficiencia	El punto de vista que se enfoca en la relación costos/beneficio del Proyecto, para cuestionar si los recursos se aprovechan (o se aprovecharán) eficientemente.
Impacto	El punto de vista con que se observan los efectos indirectos o de largo plazo del Proyecto, junto con las influencias derivadas de su implementación. Particularmente, se analizan efectos e influencias no previstos, tanto positivos como negativos.
Sustentabilidad	El punto de vista que cuestiona si los efectos producidos durante el Proyecto se mantienen (o se mantendrán) después de la finalización de la asistencia.

1.4 Modificación de la PDM

Las actividades de este Proyecto se iniciaron en marzo de 2007, con base en la PDM0 formalizada en el R/D firmado el 14 de diciembre de 2006 (véase el Anexo 2-2). Sin embargo, desde el inicio de las actividades, tanto la parte japonesa como la parte mexicana señalaron algunas deficiencias en el marco y la lógica del Proyecto, como la poca claridad en las funciones asignadas al IQM-FP y su relación con las delegaciones consideradas como instancias de contraparte (“C/P” en adelante). Además, el Proyecto

contiene algunas actividades que no estaban de acuerdo con las funciones de la institución de C/P.

Por lo antes mencionado, existen algunas actividades del Proyecto realizadas de acuerdo con el plan original, como la capacitación de funcionarios del IQM en los métodos del estudio de mercado y del Diagnóstico Rural Rápido (DRR), la elaboración de planes de actividades del IQM, el enlace con otras instituciones (públicas) y la organización de mujeres productoras de artesanías, mientras que hay otras que quedaron pendientes por algunos problemas. (Véase Anexo 5-1: Cuadro de actividades según la PDM0.) Por ejemplo, en el IQM no hay ningún funcionario que esté dedicado a la asesoría técnica de las artesanas, o que pueda trabajar en el mejoramiento técnico y el desarrollo de artesanías. Por lo tanto, la actividad 3-1 no ha sido llevada a cabo hasta la fecha. En cuanto al Resultado 1, que tiene el objetivo de fortalecer las funciones de la organización de C/P, por ejemplo, no está claramente establecida la relación entre su contenido y el objetivo del Proyecto. Tampoco se describe claramente el contenido concreto de sus actividades ni están establecidos los indicadores correspondientes. Por otra parte, algunas personas de C/P se sintieron marginadas del Proyecto, y perdieron su interés por participar en sus actividades, lo cual funcionó como un impedimento para el buen desempeño del Proyecto.

Para resolver esta situación, el personal de C/P y los expertos intentaron ajustar el marco del Proyecto contando con las sugerencias de la Oficina de la JICA en México y de la Oficina Central y, como resultado, se decidió modificar la PDM. Se formuló la PDM modificada (PDM1) para aclarar el objetivo original del Proyecto, que es el fortalecimiento organizacional del IQM, al establecer un marco de cooperación más ordenado. En el nuevo marco de cooperación, se estableció con claridad el objetivo del Proyecto, que es el fortalecimiento organizacional de la institución de C/P. Se elaboró la versión modificada de la PDM (PDM1). Construir un sistema de apoyo a los grupos de mujeres en el mejoramiento y desarrollo de artesanías por medio del fortalecimiento organizacional del IQM, es el nuevo marco de cooperación del Proyecto.

2. Resultados del Proyecto y su Proceso de Implementación

2-1 Insumos

Aunque se observan retrasos e incumplimientos temporales de la parte mexicana en algunos casos, la aportación de insumos se ha realizado de acuerdo con lo planeado, en términos generales. (En cuanto a los detalles de los insumos aportados, véase el Anexo

2-1.1 Insumos aportados por la parte japonesa

(1) Envío de expertos

Se han enviado 7 expertos en total en el marco del Proyecto hasta fines de agosto de 2008. Esto equivale a 42 meses/hombre.

(2) Capacitación del personal de C/P

Tomando en cuenta el contenido de la capacitación necesaria para el logro del Objetivo del Proyecto, 2 personas de C/P y 2 mujeres participantes en el proyecto demostrativo fueron enviadas a EU para su capacitación, en los años fiscales 2007 y 2008, respectivamente.

(3) Equipos

A la fecha del 31 de julio de 2008, los equipos donados por la parte japonesa ascienden a un total de 369,443 pesos mexicanos (correspondiente a 3,975,207 yenes, a la paridad oficial de la JICA en septiembre, 2008 de peso/yen de 1 MXN = ¥10.76). Los equipos donados son dos vehículos. Otros equipos de apoyo para el proyecto son computadoras, impresoras, copiadoras, máquinas de bordado, etc.

(4) Gastos para el fortalecimiento operativo en el extranjero

Al 31 de julio de 2008, los gastos para el fortalecimiento operativo en el extranjero desembolsados ascienden al monto total de 1,233,651 pesos mexicanos (correspondientes a 13,274,088 yenes, a la paridad oficial de la JICA en septiembre, 2008 de peso/yen de 1 MXN = ¥10.76).

2-1.2 Insumos aportados por la parte mexicana

(1) Asignación del personal de C/P

Veintiséis personas fueron asignadas como personal mexicano de C/P hasta fines de agosto de 2008. De estas personas, 12 (actualmente 10) eran de la Oficina Central del IQM-FP, y 14 (actualmente 9) eran funcionarios de las delegaciones de Lázaro Cárdenas, José María Morelos y Felipe Carrillo Puerto.

(2) Desembolso de costos locales

Hasta fines de agosto de 1988, la parte mexicana desembolsó 110,899 pesos mexicanos (correspondientes a 1,193,273 yenes japoneses, a la paridad oficial de la JICA en septiembre, 2008, de peso/yen de 1 MXN = ¥10.76) para las actividades del Proyecto. Los destinos de estos recursos son: el ordenamiento del espacio de oficina, el impuesto sobre la renta que causaron los equipos de donación, el pago de la tenencia y del seguro de los vehículos, entre otros. No se cubrieron los gastos de viaje del personal de C/P ni los viáticos de los conductores.

2-2 Actividades

Las actividades se han realizado de acuerdo con lo planeado a grandes rasgos, conforme al nuevo marco ordenado en la PDM1. Hasta ahora, se han realizado actividades demostrativas para estructurar el modelo de fomento productivo. De ahora en adelante, se continuarán las actividades de nivel demostrativo, al mismo tiempo que se elaborarán los manuales y guías necesarios para la construcción del modelo. (En cuanto las actividades realizadas, véase el Anexo 5-2.)

2-3 Grado de alcance de los resultados

Los resultados se están logrando como se habían planeado, de acuerdo con el nuevo marco. A continuación, se señalan los grados de alcance de cada uno de los resultados esperados a fines de agosto de 2008:

(1) Resultado esperado 1: Fortalecimiento de la función investigadora: se recolecta y se organiza la información necesaria para entender la situación actual de las comunidades y llevar a cabo las actividades.

Indicador 1-1. Se realiza el estudio de mercado de artesanías en Quintana Roo y se prepara un informe, que se mantiene actualizado.	<ul style="list-style-type: none">- Realización del estudio de mercado (en 7 lugares: Cancún, Cozumel, Isla Mujeres, Playa del Carmen, Tulum, Valladolid y Mérida).- Elaboración del Informe del Estudio de Mercado (noviembre, 2007)- Actualización de información reflejando las opiniones obtenidas en las tiendas de artesanías que colaboran con el Proyecto.
Indicador 1-2. Se realizan los estudios del estado de las comunidades objeto del Proyecto y se prepara un informe, que se mantiene actualizado.	<ul style="list-style-type: none">- Realización del DRR (en 8 comunidades en 3 municipios). De estas 8 comunidades, en 2 han sido realizados los Diagnósticos sólo por el personal de C/P.- Elaboración de los Informes de DRR (6 comunicados).- La actualización de la información no es suficiente.
Indicador 1-3. Se aprovecha, de alguna forma, la información de los estudios realizados en la zona objeto del Proyecto al formular los proyectos de apoyo.	<ul style="list-style-type: none">- No se ha confirmado.

(2) Resultado esperado 2: Fortalecimiento de la función operativo-administrativa: el IQM-FP y sus delegaciones aprenden y aplican los métodos operativo-administrativos (incluyendo las operaciones correspondientes a la IQM-FP en las delegaciones.)

<p>Indicador 2-1. Se elabora el manual operativo de fomento productivo (borrador) de los grupos de mujeres.</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Se desarrolla el contenido del manual operativo de fomento productivo con base en las experiencias de campo. Este contenido incluye: (1) diseño, (2) elaboración de productos, (3) venta de productos, (4) control de producción y (5) organización productiva. Se está trabajando en el desarrollo del contenido para cada área en este momento, para terminar un borrador en este año fiscal. - Se está elaborando un diagrama de flujo de los trabajos (borrador).
<p>Indicador 2-2 Se logra validar el manual operativo de fomento productivo antes de la terminación del Proyecto .</p>	<ul style="list-style-type: none"> - No se ha realizado.

(3) Resultado esperado 3: Fortalecimiento de la función coordinadora y de enlace: se logra la coordinación y la colaboración entre el IQM-FP y otras instancias involucradas.

<p>Indicador 3-1 Se prepara un borrador de la guía de aprovechamiento de los esquemas de apoyo (folletos, etc.).</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Por iniciativa de la institución de C/P, se recopiló la información referente a los esquemas de apoyo. Se ordena la información recopilada en este momento. - No se ha preparado la guía de aprovechamiento de los esquemas de apoyo.
<p>Indicador 3-2 Se celebran reuniones con las entidades involucradas que cuentan con esquemas de apoyo aplicables a las mujeres productoras de artesanías, en el momento de la terminación del Proyecto.</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Se realizó un evento de arranque del Proyecto teniendo como invitados a las instancias involucradas (representantes de otras instituciones pertinentes, funcionarios municipales, grupos de mujeres, etc.) (en octubre, 2007). - Se creó un Comité Conjunto de Coordinación con la participación de los representantes de otras instituciones gubernamentales que tienen ingerencia en la producción de artesanías. Se llevó a cabo la

	reunión del CCC (marzo, 2008).
Indicador 3-3 Se ofrecen oportunidades para enlazar a las artesanas con los colaboradores potenciales /las tiendas de artesanías, al menos dos veces al año (exposiciones de artesanías, eventos de presentación de artesanías, etc.).	<ul style="list-style-type: none"> - Se celebró una exposición de artesanías de los 5 grupos de Lázaro Cárdenas. Los productos fueron evaluados muy favorablemente por los dueños de tiendas y los diseñadores, y recibieron algunas sugerencias de mejoramiento (diciembre, 2007). - Se expusieron las muestras fabricadas por los 5 grupos de Lázaro Cárdenas en un evento celebrado con motivo del Día Internacional de la Mujer. Se hizo una explicación al gobernador, que asistió al evento (marzo, 2008). - Se realizó una ceremonia de clausura de capacitación de los 5 grupos de Lázaro Cárdenas, con la participación de dueños de tiendas de artesanías, funcionarios municipales y representantes de la CDI y la Secretaría de Desarrollo Agropecuario, Rural e Indígena (SEDARI) del Estado. Se promovió la comprensión de estas personas hacia los lugares de producción.

(4) Resultado esperado 4: Establecimiento de los programas de apoyo: se comprueba la validez del programa de apoyo al mejoramiento y desarrollo de artesanías a través del proyecto demostrativo aplicado a los grupos de mujeres objeto del Proyecto por parte del IQM-FP y las delegaciones correspondientes.

Indicador 4-1 Se incrementan las variedades de artesanías mejoradas o desarrolladas.	- Se otorgó asesoría a los 5 grupos de Lázaro Cárdenas, como una actividad demostrativa para el mejoramiento del diseño y el desarrollo de nuevos productos, y se crearon nuevos productos (10 productos) con características particulares de cada grupo.
Indicador 4-2 Se mejora la evaluación de la calidad de las artesanías mejoradas o desarrolladas.	- Se hizo una exposición de muestras y prototipos invitando a diseñadores y dueños de tiendas de artesanías en diciembre de 2007. En general, la evaluación fue favorable. En esta exposición, se recibieron comentarios y sugerencias para mejorar los productos, los cuales fueron retroalimentados a las productoras.
Indicador 4-3 Se incrementa la	-

ventas de artesanías mejoradas o desarrolladas.	<ul style="list-style-type: none"> ♦ Resultado de ventas al 10 de agosto de 2008: Número de artículos vendidos: 33 piezas; monto total de ventas: 11,933 pesos. ✓ Yalat: chales (6 piezas), bolsas de hamaca (5 piezas), sillas de madera en miniatura (6 piezas), mesas de madera en miniatura (11 piezas). ✓ La Boutique: chales (0 piezas), bolsas de hamaca (0 piezas). ✓ Las Chicas: mesas de madera en miniatura (4 piezas)- ✓ Mixik: bolsas de playa (G) (1 pieza).
Indicador 4-4 Se mejoran las capacidades de los grupos de mujeres que recibieron el apoyo del programa de fomento productivo de artesanías (conciencia, conocimientos, etc.).	- (Este aspecto no ha sido objeto de evaluación, ya que este indicador no fue incluido en esta evaluación.)

(5) Resultado esperados 5 (PDM1): Fortalecimiento de la función del manejo de información: se maneja y se aprovecha de manera apropiada la información referente a la gestión de apoyos a las mujeres.

Indicador 5-1 Se establece un mecanismo de manejo de información.	- En junio de 2008, se empezó a compartir la información utilizando el servicio de manejo de datos sobre la plataforma web. El sistema se utiliza para intercambiar información y opiniones entre los expertos, así como para acumular datos relacionados con el Proyecto. Es limitada la participación del personal de C/P por las restricciones existentes para el acceso al Internet.
Indicador 5-2 El personal de C/P mantiene actualizada la información útil en el sistema de información.	- Se comienza gradualmente la actualización de la información sobre el Proyecto por parte de los expertos. La participación del personal de C/P es limitada.
Indicador 5-3 Un 70% del personal de C/P utiliza la información acumulada y actualizada para su trabajo.	- No hay información al respecto (no se ha introducido un sistema de información en el IQM-FP.)

2-4 Proceso de implementación

A continuación se mencionan algunos hechos relacionados con el proceso y el sistema de implementación que influyeron en el avance del Proyecto:

2-4.1 Efectos de la modificación de la PDM

Como se detalla en el punto 1-4, el diseño original de la PDM (PDM0) afectó el avance del Proyecto desde el inicio mismo de sus actividades, ya que causó confusión entre las personas involucradas y limitó la participación entusiasta y por propia iniciativa del personal de C/P. Con la modificación de la PDM, sin embargo, se dispó la confusión. Actualmente, se está ordenando un sistema operativo para el Proyecto.

2-4.2 Sistema de administración y de monitoreo.

En abril de 2008, el IQM estrenó una nueva Dirección General. Desde entonces, la institución está en el proceso de reestructuración, pero se prevén pocos cambios en cuanto al sistema administrativo. Para compartir la información, la Dirección General propuso una junta quincenal entre la Dirección General y el Proyecto. Por otra parte, la reunión del Comité Conjunto de Coordinación (“CCC” en adelante) se celebró en marzo de 2008, con el propósito de socializar el Objetivo del Proyecto y presentar el contenido de las actividades realizadas. Se estableció el Comité Técnico, un grupo subordinado al CCC, cuya primera reunión fue celebrada en junio de 2008. Sus miembros son: la Directora General y el Director del Fomento Productivo del IQM, los jefes de las 3 delegaciones donde se realiza el proyecto demostrativo, los expertos de la JICA y la Oficina de la JICA en México. Además, la Cancillería Mexicana participó como observador.

Entre las personas involucradas directamente en el Proyecto, se observaron algunos casos de falta de comunicación y de información compartida entre los expertos y su personal de C/P. Para mejorar esta situación, se está estructurando un sistema de monitoreo, como el sistema de información común sobre la red, además de la celebración de reuniones semanales y presentación de reportes semanales, junto con la modificación de la PDM antes mencionada. Se espera que la situación se mejore con estas medidas.

2-4.3 Desembolso de gastos locales

No se aseguraron los presupuestos para el Proyecto para los años fiscales 2007 y 2008. Esta situación tiene varias razones: fue insuficiente la deliberación realizada entre el IQM y la JICA al respecto antes del inicio del Proyecto; la aplicación de años fiscales diferentes entre el IQM y la JICA; la no definición de una parte del programa de

actividades por la modificación del marco de cooperación, entre otras. Por esta situación, algunos gastos no pudieron ser cubiertos como se había previsto; los gastos de viaje del personal de C/P y los viáticos de los conductores son algunos ejemplos. Esto dificultó, de alguna manera, las actividades que requerían de visitas a las comunidades rurales. En cuanto a los gastos en el año fiscal 2008, a pesar de que el presupuesto no está asegurado, la Dirección General promete destinar los recursos necesarios para el Proyecto, bajo su propia responsabilidad.

El presupuesto para el año fiscal 2009 se está solicitando en este momento, por lo que los recursos estarán asegurados.

2-4.4 Participación de los grupos de mujeres

Los grupos de mujeres artesanas participan, con un gran entusiasmo, en las actividades del proyecto demostrativo, contribuyendo al establecimiento del modelo de apoyo.

2.4.5 Coordinación con otras instancias

La coordinación con las instancias pertinentes está incluida en el Resultado esperado 3; se considera como uno de los factores importantes para que el Proyecto alcance su Objetivo. Estas entidades son miembros del CCC y conocen el Proyecto, ya que se hizo una presentación en su primera reunión. El modelo de apoyo que se está construyendo a través de este Proyecto se presentará al Subcomité Institucional de Equidad de Género que preside la Dirección General del IQM, para promover un acuerdo de coordinación entre las diferentes instancias involucradas. Este Subcomité pertenece al Comité de Planeación para el Desarrollo del Estado (“COPLADE” en adelante).

3. Resultados de la Evaluación

3-1 Relevancia

Por las razones explicadas a continuación, el Proyecto se considera relevante.

La venta de artesanías producidas por las mujeres mayas es una alternativa importante de ingreso que complementa la renta por la agricultura, en un medio donde las alternativas son muy escasas. Por eso, se consideraban importantes los apoyos en los aspectos del mejoramiento de la calidad y el diseño, y del desarrollo de nuevos productos. Por otra parte, una de las funciones del IQM es apoyar las actividades económicas de la mujer, pero se tenían ciertas limitaciones en su capacidad institucional. Por lo tanto, mejorar su capacidad de apoyo hacia las mujeres por medio del

fortalecimiento institucional del IQM está de acuerdo con la situación de la región y con las necesidades de la población objeto del Proyecto.

La prioridad política del Objetivo del Proyecto está confirmada por el Plan Nacional de Desarrollo (2007-2012) y el Plan Estatal de Desarrollo (2005-2011). Las áreas de seguridad humana y de reducción de la pobreza, temas de apoyo de este Proyecto, son consideradas prioritarias por la Oficina de la JICA en México, como temas de asistencia para este país.

3-2 Efectividad

Por las razones mencionadas a continuación, se considera alto el grado de efectividad del Proyecto:

El marco de este Proyecto fue modificado en septiembre de 2008, después de una revisión general de su diseño, que incluyó la interrelación entre los Resultados y el Objetivo del Proyecto. Se considera que los Resultados se producirán de acuerdo con lo planeado en este nuevo marco. Además, se aclararon las funciones que tiene el personal de C/P; sus actividades relacionadas con el apoyo a la mujer, el mandato esencial de la institución, están ampliamente integradas en el nuevo marco. Esto estimula su entusiasmo hacia el Proyecto.

Sin embargo, todavía quedan muchas actividades pendientes antes de la terminación del Proyecto; es necesario que estas actividades se lleven a cabo sin grandes contratiempos. Sobre todo, el enlace con otras instancias, que se menciona en el Resultado 3, es un factor vital en el modelo de apoyo, por lo que se espera redoblar esfuerzos en este aspecto. Además, se debe trabajar para que el modelo de apoyo establecido por el Proyecto se consolide en el IQM.

Desde diciembre de 2007 hasta abril de 2008, el Director General del IQM, quien lleva la responsabilidad máxima del Proyecto, no estaba designado. Por esta situación se presentaron algunas inconveniencias en la toma de decisiones internas y la coordinación entre las instancias involucradas. En abril de 2008, la actual Directora General llegó a ocupar el puesto; se está estableciendo un sistema que fomentarán esfuerzos para lograr el Objetivo del Proyecto y para mantener su sustentabilidad.

Para que se logre el Objetivo del Proyecto, se menciona la “ausencia de desastres naturales que causen daños materiales decisivos en la zona” como un supuesto importante. A fines de agosto de 2007, esta región fue azotada por un huracán, lo cual retrasó durante casi un mes las actividades del Proyecto. Gracias a las medidas apropiadas, sin embargo, no se observan grandes influencias en el logro del Objetivo del Proyecto.

3-3 Eficiencia

Por las razones mencionadas a continuación, se considera alta la eficiencia del Proyecto: Como se describe en el 2-4, a pesar de algunos problemas, como la falta de comunicación y la confusión creada en el sistema de implementación, las actividades del Proyecto se han llevado a cabo como se había planeado originalmente, en términos generales. Se espera que se producirán los resultados de ahora en adelante, a través de la continuación de las actividades comprobatorias y la elaboración de manuales y guías para el establecimiento de los modelos de apoyo. Por el hecho de que el marco del Proyecto se ordenara mediante la modificación de la PDM, se aclararon los papeles que juega el personal de contraparte dentro del Proyecto, y se incrementa su interés en participar en sus actividades y lograr los resultados.

Referente a los insumos aportados por la parte japonesa, no se observan problemas significativos en cuanto a la cantidad y a la oportunidad de aportación. Sin embargo, la parte mexicana tuvo problemas de rotación de personal y de presupuesto; algunos insumos no han sido aportados en los años fiscales 2007 y 2008. Para el año fiscal 2009, el presupuesto correspondiente se está gestionando en este momento, y es probable que los recursos se asignen.

Es posible que se requiera una revisión del plan de aportación de insumos acorde al nuevo marco modificado del Proyecto, con un enfoque prioritario del fortalecimiento funcional del IQM.

3-4 Impacto

A través de las actividades del Proyecto, se han generado impactos:

A través de los esfuerzos de fortalecimiento institucional del Proyecto, el personal de C/P no sólo mejoró su nivel técnico, sino que también recibió otros impactos, como el incremento de la moral y la acumulación de experiencias.

Entre las mujeres productoras de artesanías, mientras tanto, se observan cambios de la conciencia a través de las actividades de grupo del proyecto comprobatorio: son señales de empoderamiento socioeconómico, como el interés por incrementar sus ingresos por la venta de artesanías, el sentido de la autoayuda, el incremento del liderazgo y de la autoestima, el aumento de la sociabilidad, y la sensación de satisfacción. Por otra parte, se indican algunos cambios de comportamiento entre los hombres, que son familiares de las mujeres objeto del Proyecto, como un mayor involucramiento en la crianza de los hijos y en los quehaceres del hogar. También se observa el cambio de

actitud hacia el incremento del ingreso femenino. Incluso, se informa de los casos de acercamiento y colaboración voluntarios entre los diferentes grupos.

Casi no se señalan los impactos negativos. Sólo que a veces se informa de los casos de poca comprensión hacia las actividades de los grupos de mujeres por parte de los hombres, lo que impide la participación activa de las mujeres en las actividades del proyecto comprobatorio. Se considera que es necesario realizar mayores esfuerzos para promover la comprensión de los hombres a través de la capacitación en organización y de los trabajos del Departamento de Equidad de Género.

3-5 Sustentabilidad

En este momento, se están realizando esfuerzos para asegurar la sustentabilidad del Proyecto, que se enumeran a continuación:

Este Proyecto está respaldado por el “Plan Estatal de Desarrollo 2005-2011” en el aspecto de la congruencia política. En cuanto a la posibilidad de institucionalización y aprovechamiento a nivel del IQM del modelo de apoyo que se establecerá por el Proyecto, la Dirección General expresa su firme intención de apoyarlo por su propia iniciativa. Además, se considera, como uno de los Resultados, el fortalecimiento de la función operativa y coordinadora de la institución, lo que permitirá que continúen las actividades del Proyecto aun después del término de su período de cooperación, de manera sustentable. En este momento, se están realizando grandes esfuerzos para lograr este Resultado del Proyecto. El reconocimiento de que la institución de C/P tiene que realizar el seguimiento apropiado del Proyecto después del término del período de cooperación ya es un consenso unánime entre las partes involucradas.

Desde el comienzo del Proyecto, 6 personas, incluyendo a la Directora General, fueron removidas del Proyecto hasta ahora. Se quiere evitar los impactos negativos de la rotación del personal y promover la sustentabilidad. Por eso es importante documentar las técnicas y los conocimientos transferidos a través del Proyecto, y establecer un modelo de apoyo, que es el Objetivo del Proyecto. En el aspecto financiero, el IQM únicamente tiene presupuesto administrativo, y no cuenta con el presupuesto para la operación de los proyectos. Para compensar esta situación, en el modelo arriba mencionado se contempla el establecimiento de las relaciones de coordinación con las entidades que tengan esquemas de apoyo. Es necesario fortalecer esta línea de acciones para tener acceso a los recursos utilizables para la operación del Proyecto..

4. Conclusión

En este momento de Evaluación Intermedia, se considera prematuro sacar conclusiones en cuanto a la posibilidad de cumplimiento del Objetivo del Proyecto. Sin embargo, se pudo comprobar que la modificación de la PDM original no ha afectado los aspectos relacionados con los insumos y la eficiencia del Proyecto. Sin embargo, todavía quedan pendientes algunas tareas muy importantes, como la integración de un modelo en la segunda mitad del Proyecto con base en las actividades de campo realizadas en la primera mitad, el diseño sistémico que se requiere para hacer funcionar realmente la coordinación con otras entidades involucradas, y la elaboración de manuales y guías de trabajo basados en las experiencias adquiridas por el IQM-FP en las actividades del Proyecto. Por esta situación, se prefiere mencionar algunas recomendaciones para el futuro, en lugar de sacar las conclusiones. En la segunda mitad de su período de cooperación, el Proyecto exigirá un monitoreo detallado de su avance, puesto que será necesario una revisión integral del plan de insumos, junto con la verificación de prioridades de sus actividades. Es esencial una supervisión muy estrecha de la JICA y de los responsables mexicanos.

5. Recomendaciones

5-1 Fortalecimiento del sistema administrativo

- Para promover el logro del Objetivo del Proyecto, celebrar periódicamente las reuniones del Comité Conjunto de Coordinación (CCC) preferiblemente 3 veces al año, y del Comité Técnico, cuando se considere necesario.
- Celebrar periódicamente las reuniones entre la Dirección General del IQM y el Proyecto.

5-2 Fortalecimiento del sistema de monitoreo

- Promover la socialización de la información entre las personas involucradas; construir un mecanismo sistemático de toma de decisiones.

5-3 Esfuerzos para fortalecer la coordinación con las entidades pertinentes

- Compartir la información con otras instituciones y fomentar el enlace con ellas en el CCC.
- Asistir a las reuniones del Subcomité Institucional de Equidad de Género del COPLADE, para compartir el marco de cooperación del Proyecto y para dar seguimiento a las decisiones tomadas.

Anexo 1 Programa de actividades en México

1	Fecha	Hora	Sr. Juro/ líder	Sr. Ishizuka/planeación de cooperación	Srta. Fujita/Asesora Residente en el Extranjero/ Coordinación n y Desarrollo Turismo	Sr. Jaeger/ Subdirector de la Oficina en México/ Planeación de cooperación	Srta. Honma/ Consultor/ Evaluación y análisis	Alojamiento
1	9/7	D					Salida de Tokio (17:25 J.L.82) → Llegada a México (19:20 AM847)	Ciudad de México
2	9/8	L					Reunión en la oficina de la JICA en México/ Traslado a Chetumal/ Reunión con los expertos.	Chetumal
3	9/9	Ma					Entrevistas al personal de contraparte (Dirección de Desarrollo Económico y Social de la Oficina Central)/ Entrevista a los expertos.	Chetumal
4	9/10	Mi					Entrevistas al personal de contraparte (Dirección de Desarrollo Económico y Social de la Oficina Central del ICOM)/ Entrevista a los expertos.	Chetumal
5	9/11	J					Entrevistas al personal de contraparte (Dirección de Desarrollo Económico y Social de la Oficina Central del ICOM)/ Traslado a Lázaro Cárdenas.	Kantowitkin
6	9/12	V					Visita a la Delegación de Lázaro Cárdenas; entrevistas. Visitas a los grupos de mujeres (Nuevo Vallarta → Zihuatlán → San Francisco) / entrevistas. Traslado a J.M. Morelos.	J.M. Morelos
7	9/13	S					Delegación de J.M. Morelos/ entrevistas. Visitas a los grupos de mujeres (Huatlan → Tabasco → Presunida) / entrevistas.	J.M. Morelos
8	9/14	D					Traslado a Cancún. Ordenamiento de información; elaboración del informe.	Cancún
9	9/15	L	Salida de Tokio (17:15 J.L.12) → Llegada a México (19:00 J.L.12) Reunión en la Oficina de la JICA en México.			Reunión en la Oficina de la JICA.	Ordenamiento de información; elaboración del informe.	Consultora: Cancún Sr. Juro, Sr. Ishizuka: Ciudad de México
10	9/16	Ma	Traslado a Cancún. Reunión con los expertos.			(Llegada a Chetumal, el día 18.)	Ordenamiento de información; elaboración del informe. Reunión con los expertos del Proyecto.	Cancún
11	9/17	Mi	Traslado a Lázaro Cárdenas. Visita al grupo de mujeres de Agua Azul → Visita a la Delegación de Lázaro Cárdenas → Visita a la tienda de artesanías (Yalag) / entrevistas.					Vallarta
12	9/18	J	Traslado a J.M. Morelos. Visita al grupo de mujeres de Huay Max → Visita al grupo de mujeres de Presunida. Traslado a Chetumal.					Chetumal
13	9/19	V	Visita de cortesía a la Dirección General del ICOM; discusión en la Dirección de Desarrollo Económico y Social (modificación de la PDN).					Chetumal
14	9/20	S	Elaboración y modificación del Informe de Evaluación Conjunta y la M/M.					Chetumal
15	9/21	D	Elaboración y modificación del Informe de Evaluación Conjunta y la M/M.					Chetumal
16	9/22	L	Elaboración y modificación del Informe de Evaluación Conjunta y la M/M.					Chetumal
17	9/23	Ma	Discusión sobre el Informe de Evaluación Conjunta y la M/M.					Chetumal
18	9/24	Mi	Traslado a la Ciudad de México. Firma de la M/M (celebración del Comité Técnico).					Ciudad de México
19	9/25	J	* Los Sres. Juro e Ishizuka participan a la Mañana de Estudio de Informativa del Proyecto de las Técnicas de Procesamiento de Herramientas a partir del 25 de septiembre.				Salida de México (8:10 J.L.5781)	
20	9/26	V					Llegada a Japón (16:40 J.L.081)	

Nombre del Proyecto:

PROYECTO DE APOYO AL DESARROLLO DE CAPACIDADES DE MUJERES EN LA REGIÓN MAYA, ESTADO DE QUINTANA ROO

Zona: Municipios de Felipe Carrillo Puerto, José María Morelos y Lázaro Cárdenas.

Grupos objeto del proyecto: Personal de la Dirección de Fomento Productivo del Instituto Quintanarroense de la Mujer (IQM), personal de las delegaciones que se involucran en las actividades de fomento productivo.

Periodo de ejecución: Marzo, 2007 - Marzo, 2010

PDMI

Fecha de actualización: septiembre, 2008

Resumen narrativo	Indicadores verificables	Medios de verificación	Supuestos importantes
<p>Objetivo superior Se incrementa el ingreso de los grupos de mujeres que recibieron apoyo mediante la aplicación del modelo de apoyo para el mejoramiento y desarrollo de artesanías ("modelo de apoyo" en adelante).</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Se incrementa el ingreso de las mujeres que recibieron apoyos. - Se incrementa el número de las artesanías desarrolladas o mejoradas por la aplicación del modelo de apoyo. - Se incrementa el número de grupos de las mujeres a los que se aplicó el modelo de apoyo. - Se incrementa el volumen de artesanías entregadas a los butiques y las tiendas de artesanías de calidad. 	<ul style="list-style-type: none"> • Registros del monitoreo del apoyo (datos registrados en el sistema de información). 	<ul style="list-style-type: none"> • Ausencia de desastres naturales (inundaciones, sequías, huracanes, etc.) que causen daños materiales decisivos en la zona.
<p>Objetivo del proyecto Se establece el modelo de apoyo a los grupos de mujeres que se aplica por la Dirección de Fomento Productivo del IQM (IQM-FP).</p>	<p>Se dan apoyos a la producción de artesanías de los grupos objeto del Proyecto por parte del IQM aplicando el modelo de apoyo, en el momento de la terminación del proyecto.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Entrevistas a los grupos objeto del Proyecto. • Informes del Avance de las Actividades del Proyecto. • Modelos presentados al Consejo Directivo del IQM (programas de fomento productivo, manuales de trabajos productivos, etc.) 	<ul style="list-style-type: none"> • Ausencia de desastres naturales (inundaciones, sequías, huracanes, etc.) que causen daños materiales decisivos en la zona.
<p>Resultados esperados</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Fortalecimiento de la función investigadora: se recolecta y se organiza la información necesaria para entender la situación actual de las comunidades y llevar a cabo las actividades. 2. Fortalecimiento de la función operativo-administrativa: el IQM-FP aprende y aplica los métodos operativo-administrativos (incluyendo las operaciones correspondientes a la IQM-FP en las tres delegaciones.) 3. Fortalecimiento de la función coordinadora y de enlace: se logra la coordinación y la colaboración entre el IQM-FP y otras instancias relevantes. 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. Se realiza el estudio de mercado de artesanías en Quintana Roo y se prepara un informe, que se mantiene actualizado. 1-2. Se realizan los estudios del estado de las comunidades objeto del Proyecto y se prepara el informe, que se mantiene actualizado. 1-3. Se aprovecha, de alguna forma, la información de los estudios realizados en la zona objeto del Proyecto al formular los proyectos de apoyo. 2-1. Se elabora el manual operativo de fomento productivo (borrador) de los grupos de mujeres. 2-2. Se logra validar el manual operativo de fomento productivo. 3-1. Se prepara un borrador de la guía de aprovechamiento de los esquemas de apoyo (folletos, etc.). 3-2. Se celebran reuniones con las entidades involucradas que cuentan con esquemas de 	<ul style="list-style-type: none"> • Informe del estudio de mercado de artesanías. • Informe del Diagnóstico Rural Rápido de los tres municipios objeto del Proyecto. • Entrevistas a las personas involucradas en la formulación del Proyecto. Revisión de la propuesta. • Manual operativo de fomento productivo. • Informes de Avance de las Actividades del Proyecto. • Borrador de la guía elaborado. • Minutas de reuniones. • Informes de Avance de las Actividades del Proyecto. (La sección correspondiente al tema 	<ul style="list-style-type: none"> • Ausencia de desastres naturales (inundaciones, sequías, huracanes, etc.) que causen daños materiales decisivos en la zona.

<p>4. Establecimiento de los programas de apoyo: se elaboran los programas de fomento productivo de artesanías a través del proyecto demostrativo aplicado a los grupos de mujeres objeto del Proyecto por parte del IQM-FP y las delegaciones correspondientes.</p>	<p>apoyo a las mujeres productoras de artesanías en el momento de la terminación del Proyecto.</p> <p>3-3. Se ofrecen oportunidades para enlazar las artesanías con los colaboradores potenciales /las tiendas de artesanías, al menos dos veces al año (exposiciones de artesanías, eventos de presentación de artesanías, etc.).</p> <p>4-1. Se incrementan las variedades de artesanías mejoradas o desarrolladas.</p> <p>4-2. Se mejora la evaluación sobre la calidad de las artesanías mejoradas o desarrolladas.</p> <p>4-3. Se incrementa la venta de las artesanías mejoradas o desarrolladas</p> <p>4-4. Se mejoran las capacidades de los grupos de mujeres que recibieron el apoyo del programa de fomento productivo de artesanías (conciencia, conocimientos, etc.)</p>	<p>de enlace entre las artesanías y las tiendas de artesanías.)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Informes de Avance de las Actividades del Proyecto. • Resultados obtenidos en las exposiciones. • Registros de venta. • Entrevistas a los grupos objeto del Proyecto. • Mecanismo de manejo de información, de ordenamiento y clasificación. • Registro de actualización de la información. 	<p>de enlace entre las artesanías y las tiendas de artesanías.)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Informes de Avance de las Actividades del Proyecto. • Resultados obtenidos en las exposiciones. • Registros de venta. • Entrevistas a los grupos objeto del Proyecto. • Mecanismo de manejo de información, de ordenamiento y clasificación. • Registro de actualización de la información.
<p>5. Fortalecimiento de la función del manejo de información: se maneja y se aprovecha de manera apropiada la información referente a la gestión de apoyos a las mujeres.</p>	<p>5-1. Se establece un mecanismo de manejo de información.</p> <p>5-2. El personal de C/P mantiene actualizada la información útil en el sistema de información.</p> <p>5-3. Un 70% del personal de C/P utiliza la información acumulada y actualizada para su trabajo.</p>	<p>- Nivel de utilización de la información. (Entrevistas y aplicación de encuestas al personal de C/P)</p>	<p>- Nivel de utilización de la información. (Entrevistas y aplicación de encuestas al personal de C/P)</p>
<p>Actividades</p> <p>1-1. Recopilar y ordenar la información sobre los esquemas de apoyo a mujeres y a grupos de mujeres.</p> <p>1-2. Llevar a cabo los estudios de mercado para entender las necesidades y el estado actual del mercado.</p> <p>1-3. Obtener la información de las tiendas de artesanías para mantener actualizada la información sobre el mercado de artesanías.</p> <p>1-4. Realizar los estudios para entender las condiciones actuales y las necesidades de los grupos de mujeres y de la zona objeto del Proyecto.</p> <p>1-5. Realizar estudios adicionales para actualizar la información.</p> <p>1-6. Recopilar y ordenar la información sobre los insumos requeridos para la elaboración de artesanías.</p> <p>2-1. Aclarar las funciones y las responsabilidades del IQM-FP (incluyendo las tres delegaciones) en materia del fomento productivo.</p> <p>2-2. Preparar estrategias internas del IQM-FP en materia del fomento productivo, de acuerdo con las condiciones reales.</p> <p>2-3. Preparar el plan de actividades y el presupuesto en materia del fomento productivo tanto para el IQM-FP como para las delegaciones.</p>	<p>Insumos</p> <p>México</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Asignación del personal del contraparte (C/P) <ul style="list-style-type: none"> • Director del proyecto • Gerente del proyecto • Personal del IQM relacionado con el Proyecto. • Personal administrativo (secretaría, chofer, otros tipos de personal de soporte.) 2. Edificio, equipos y materiales necesarios para la ejecución del Proyecto. 3. Especie de oficina, sala de juntas y los equipos necesarios para los expertos japoneses. 4. Gastos de luz, gas y agua. 5. Otros equipos y materiales considerados necesarios, de común acuerdo. 6. El IVA que causen los equipos donados por la parte japonesa. 7. Hacense cargo de una parte de los gastos locales para la ejecución del Proyecto. <p>Japón</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Envío de los expertos. <ul style="list-style-type: none"> • Asesor en Jefe. • Otros expertos de corto plazo necesarios para lograr el Objetivo del Proyecto. 2. Hacense cargo de una parte de los gastos locales para la ejecución del Proyecto. 3. Donación de equipos y materiales. 4. Otros equipos y materiales necesarios para la operación del Proyecto. 	<p>- Ausencia de desastres naturales (inundación, sequías, huracanes, entre otros) que causen daños materiales decisivos en la zona.</p> <p>- No se reducen a niveles menores los esquemas de apoyo a las mujeres en cuanto al número ni en cuanto a la envergadura.</p>	<p>- Ausencia de desastres naturales (inundación, sequías, huracanes, entre otros) que causen daños materiales decisivos en la zona.</p> <p>- No se reducen a niveles menores los esquemas de apoyo a las mujeres en cuanto al número ni en cuanto a la envergadura.</p>

<p>2-4. Adquirir los métodos de planeación, monitoreo y evaluación en materia del fomento productivo.</p> <p>2-5. Llevar a cabo el control (monitoreo) de la ejecución del plan de fomento productivo.</p> <p>2-6. Recopilar los resultados de actividades y elaborar los manuales operativos en materia del fomento productivo.</p> <p>3-1. Compartir la información con las instancias que cuentan con los esquemas de apoyo mediante reuniones.</p> <p>3-2. Organizar eventos de enlace entre las productoras de artesanías y los colaboradores potenciales/ tiendas de artesanías.</p> <p>4-1. Identificar y seleccionar grupos de mujeres prospecto en la zona objeto del Proyecto.</p> <p>4-2. Preparar guías de aplicación de los esquemas de apoyo que tienen otras entidades, dirigidas a mujeres y a los grupos de mujeres (utilizando la información del 1-1).</p> <p>4-3. Identificar a instructores para aprovecharlos en las actividades de apoyo.</p> <p>4-4. Evaluar las artesanías existentes y el nivel técnico productivo con el fin de mejorar su proceso y desarrollar nuevos productos (incluyendo la mejora del diseño y del proceso productivo).</p> <p>4-5. Dar capacitación en control de producción y promover la venta de artesanías. (Se incluyen la celebración de eventos y apertura de un sitio de web.)</p> <p>4-6. Dar capacitación a los grupos de artesanías sobre la creación de organización y su fortalecimiento funcional.</p> <p>4-7. Registrar los resultados de las actividades y elaborar programas de fomento productivo de artesanías.</p> <p>5-1. Ordenar la información necesaria para la ejecución del Proyecto y estructurar un mecanismo de manejo de información.</p> <p>5-2. Entender los esfuerzos para compartir la información y actualizar la información sobre las actividades y sus resultados con base en el mecanismo de manejo de la información.</p> <p>5-3. Aprovechar la información acumulada y actualizada (informes de campo, diferentes estudios y diagnósticos, diversos formatos y manuales) para las actividades del Proyecto.</p>	<p><u>Precondiciones</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • No se desaparece el Instituto Quintanarroense de la Mujer. • Se siguen implementando las políticas gubernamentales de apoyo a la mujer.
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Anexo 2-2 PDMO

PDM 0 (December 2006)

Title of the Project: Project to Support the Women's Empowerment in the Mayan Region

Target area: 3 Municipalities José María Morelos/ Felipe Carrillo Puerto/ Lázaro Cárdenas

Target Group: IQM's staffs and handicrafts producers in the 3 municipalities.

Duration: March 2007 – February 2010

Narrative Summary	Verifiable Indicators	Means of Verifications	Important Assumptions
<p>Overall Goal The Sales of Handicrafts produced in the Mayan Region of the state of Quintana Roo will increase and therefore their income.</p>	<ol style="list-style-type: none"> Sales evolution of handicraft's products made by the women in Mayan Region. The women's income evolution gained by selling their handicrafts. 	<ul style="list-style-type: none"> Interview with C/P Interview with women Interview with handicrafts stores 	
<p>Project Purpose Marketing study, improvement of handicrafts and development of new products based upon the study will be carried out in the Mayan Region.</p>	<ol style="list-style-type: none"> Times of the handicrafts improvement based on the marketing study realized in tourist areas. 	<ul style="list-style-type: none"> Monitoring report of the Project Interview with C/P Interview with Japanese experts Interview with women 	
<p>Outputs (1) IQM Organizational enforcement is carried out. (2) Organizational enforcement of handicrafts producers is carried out. (3) The handicrafts' quality is improved. (4) Improvement of handicrafts design and development of new products are executed. (5) Activities for promoting sales are carried out. (6) Activities concerned with the copy rights and handicrafts design are carried out. (7) Partnership between the handicrafts producers of the Mayan Region and handicrafts stores is established.</p>	<ol style="list-style-type: none"> Times of field studies realized by IQM and the qualitative evaluation of these results. Evaluation of the results of activities realized with the aim of the IQM's organizational enforcement such as connection with other organizations, procedure's simplification etc. Change of the number of handicrafts producer's organizations. Evaluation of the level of their organizational unity. Qualitative evaluation of the handicrafts made by the handicrafts producers. Evaluation of the handicrafts' design and new products made by the handicrafts' producers. The handicrafts' volume and sales made by the handicrafts' producers increase. Types of the handicrafts' protection systems and the times of its execution. The times of improvement or development of handicrafts based on handicrafts cooperative store's advices. 	<ul style="list-style-type: none"> Monitoring report of the Project Interview with C/P Interview with leaders farmers Interview with small farmers Interview with government sales promoting organizations Market study 	

K.C

Jhauw

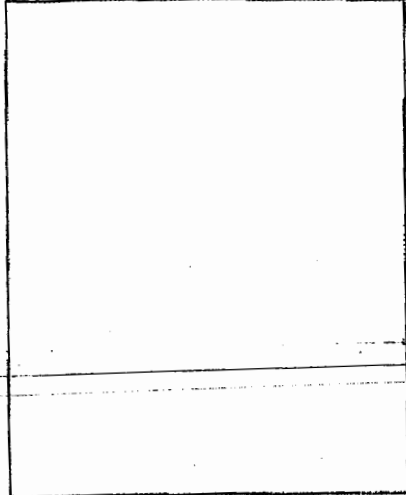
JK

<p>Activities</p> <p>(1)-1 Training of the IQM's officers on research and planning methods related to Marketing Study, Rapid Rural Appraisal, etc.</p> <p>(1)-2 Activities for the organizational enforcement of IQM's (connection with other organizations, simplification of administrative procedures, etc.).</p> <p>(2)-1 Organizing handicraft producers in order for them to strengthen their organizational capabilities (establishment of regulations, obtaining of R.F.C., etc.).</p> <p>(3)-1 Training of the IQM's officers on methods and skills for improving the handicrafts.</p> <p>(3)-2 Markets study developed by the IQM's officers on handicrafts stores and its feedback to handicrafts producers.</p> <p>(3)-3 Training of leaders of handicrafts producers on the improvement of their products.</p> <p>(3)-4 Training of handicrafts producers on the improvement of their products.</p> <p>(3)-5 Autonomous activities' carried out by handicrafts producers for the improvement of their products.</p> <p>(4)-1 Training of the IQM's officers on the improvement of design and the development of new products.</p> <p>(4)-2 Market study elaborated by the IQM's officers on handicrafts stores and its feedback to the handicrafts producers.</p> <p>(4)-3 To introduce the IQM's to the system of design registration.</p> <p>(4)-4 Training of the leaders of handicrafts producers leaders on the improvement of the design and the development of new products.</p> <p>(4)-5 Training of the handicrafts producers on the improvement of design and the development of new products.</p> <p>(4)-6 A meeting to study the Mayan Culture and Mayan design and its application to products.</p> <p>(4)-7 Autonomous activities of handicrafts producers for the improvement of the design and the development of new products.</p>	<p>Inputs</p> <p><Mexican Sides></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Assign of counterpart personnel <ul style="list-style-type: none"> ● Project Director ● Project Manager ● Other IQM's staffs concerned with the Project's objectives ● Administrative Personnel <ul style="list-style-type: none"> > Secretary > Driver > Other supporting staffs 2. Buildings and facilities necessary for the implementation of the Project 3. Office space and necessary facilities in the buildings of the Project for Japanese experts and meetings 4. Facilities and services such as electricity, gas, water supply, telephone, internet access and furniture necessary for the Project activities 5. Other facilities mutually agreed upon as necessary 6. Value Added Tax pay related to the equipments provisioned by the Japanese part 	<p><Japanese Side></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of Experts <ul style="list-style-type: none"> (1) Short Term Expert <ul style="list-style-type: none"> ● Chief Advisor ● Other short-term experts will be dispatched, when necessary arises, for the smooth and successful implementation of the Project in areas related to the objective of the Project 2. Local Costs for the activities 3. Provision of Equipments 4. Other equipments necessary for the operation. 	<p>Development of women's life will be one of main issues of development plan of Quintana Roo State Government.</p> <p>Floods, droughts, hurricanes that would cause a fatal damage to the region will not occur.</p> <p>Pre-Conditions</p> <p>The IQM will not disappear.</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

X. 12

Jhama

- (5)-1 Exploration of handicrafts cooperative stores.
- (5)-2 Improvement of the way to sale in cooperative stores.
- (5)-3 IQM Public relations activities.
- (6)-1 Training of the IQM's officers, handicrafts cooperative stores members and handicrafts producers on intellectual property items.
- (6)-2 Introduction of a system to protect the designs and products.
- (7)-1 Field Visits to handicrafts producing sites by persons related to handicrafts cooperative stores.
- (7)-2 Visits to the handicrafts cooperative stores by handicrafts producers in order to understand the market.



K.6

Thuma

Anexo 3: Matriz de Evaluación

Matriz de Evaluación:

Evaluación Intermedia del Proyecto de Apoyo al Desarrollo de Capacidades de Mujeres en la Región Maya, Estado de Quintana Roo
Confirmación de Resultados y del Proceso de Implementación

Rubros de Evaluación		Preguntas para la Evaluación	Datos Necesarios/ Fuentes de Información	Medios de Verificación
Mayores	Menores			
	Actividades realizadas	¿Se están llevando a cabo las actividades como se habían planeado?	Expediente/ registro del Proyecto	Informes del Proyecto, encuestas a las personas involucradas (J, CP/Q)
	Insumos aportados	[Insumos aportados por el lado japonés] - Número de expertos y sus especialidades, cronograma de su envío. - Contenido de capacitación del personal de CP, número de participantes. - Contenido y número de equipos de donación. - Monto de costos locales aportados.	Expediente/ registro del Proyecto	Informes del Proyecto, encuestas a las personas involucradas (J)
	Grado de alcance de los resultados	[Insumos aportados por el lado mexicano] - Número del personal de CP, sus especialidades y su periodo de asignación. - Terrenos, edificios e instalaciones proporcionados. - Montos destinados para los gastos del Proyecto.	Expediente/ registro del Proyecto	Informes del Proyecto, encuestas a las personas involucradas (J, CP/Q)
Verificación del proceso de implementación	Avance de las actividades	¿Cuánto se ha avanzado en el logro de los resultados? ① ¿Tiene un buen avance el Proyecto? ② ¿Hay algún problema que ha afectado el avance de las actividades? ¿Cuáles son las medidas tomadas para resolverlo?	Expediente/ registro del Proyecto	Informes del Proyecto, encuestas a las personas involucradas (J, CP/Q)
	Método de transferencia técnica	Relación entre los expertos y el personal de CP.	Expediente/ registro del Proyecto	Informes del Proyecto, encuestas a las personas involucradas (J, CP/Q)
	Sistema de administración del Proyecto	① ¿Cómo se constituye el sistema de administración del Proyecto? ② ¿Cómo se constituye el sistema de monitoreo del Proyecto, y con qué métodos se lleva a cabo? ③ ¿Cómo se utiliza la PDM?	Expediente/ registro del Proyecto, percepción de las personas involucradas. Expediente/ registro del Proyecto, frecuencia de presentación de informes.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q) Informes del Proyecto, encuestas a las personas involucradas (J, CP/Q)

Anexo 3: Matriz de Evaluación

	<p>Percepción del personal de CP</p>	<p>① ¿Tiene iniciativa el lado mexicano? ② ¿Ha cambiado la conciencia del lado mexicano?</p>	<p>Expediente/ registro del Proyecto, percepción de las personas involucradas.</p>	<p>Informes del Proyecto, encuestas a las personas involucradas (J, CP/Q)</p>
<p>Participación e interés de los actores</p>	<p>① ¿Son altos la participación y el interés de los grupos objeto (productores de artesanías) en las actividades del Proyecto? ② ¿Cómo participan en el Proyecto las otras instituciones relacionadas con él (CCC)?</p>	<p>Expediente/ registro del Proyecto, percepción de las personas involucradas.</p>	<p>Informes del Proyecto, encuestas a las personas involucradas (J, CP/Q); encuestas a los grupos de mujeres productores y a otras instituciones pertinentes.</p>	

Anexo 3: Matriz de Evaluación

Matriz de Evaluación: Evaluación Intermedia del Proyecto de Apoyo a las Mujeres de la Zona Maya (Borrador)

Evaluación con 5 criterios

Elaborada con base en la PDM0 (diciembre, 2006)

Rubros de Evaluación		Preguntas para la Evaluación	Datos Necesarios/ Fuentes de Información	Medios de Verificación
Mayores	Menores			
Relevancia	Necesidad de la implementación del Proyecto	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Está el Proyecto de acuerdo con las necesidades del área objeto y su sociedad? ② ¿Está el Proyecto de acuerdo con las necesidades del grupo objeto? 	<p>Resultado de la Evaluación Preliminar, estudios económicos y sociales, informes del Proyecto, percepción de las personas involucradas.</p>	<p>Informe de Evaluación Preliminar, Estudio de Línea Base, informes de los estudios de mercado, informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q)</p>
	Prioridad	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Es congruente con las políticas de desarrollo del país receptor? ② ¿Es congruente con las políticas de la AOD de Japón? 	<p>Resultado de la Evaluación Preliminar, informes del Proyecto, documentos de la política, documentos de la JICA.</p>	<p>Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (CP/Q), publicaciones del gobierno y del IQM, Plan de Operación por País de la JICA, preguntas al funcionario de la JICA a cargo de este Proyecto.</p>
	Idoneidad de métodos	<ol style="list-style-type: none"> ① El diseño del proyecto y las actividades planeadas, ¿son apropiados como métodos de reducción de la pobreza y de apoyo a las mujeres del área objeto? ② ¿Ha sido adecuada la selección del área objeto? ③ ¿Ha sido adecuada la selección del grupo objeto? ④ ¿Están distribuidos justamente los beneficios del Proyecto? ⑤ ¿Tiene Japón alguna ventaja comparativa para realizar esta cooperación? 	<p>Expediente/ registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.</p>	<p>Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP), preguntas a los grupos de mujeres.</p>
	Otros	<p>Después del momento de la Evaluación Preliminar, ¿ha habido cambios en el entorno que rodea el Proyecto?</p>	<p>Informes del Proyecto, percepción de las personas involucradas.</p>	<p>Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q).</p>

Anexo 3: Matriz de Evaluación

Rubros de Evaluación		Preguntas para la Evaluación	Datos Necesarios/ Fuentes de Información	Medios de Verificación
Mayores	Menores			
Eficiencia	Perspectiva del logro del propósito del Proyecto	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Es probable que se alcance el propósito del Proyecto? ② ¿Hay factores que inhiben el logro del propósito del Proyecto? ¿Cuáles son las medidas que se toman para contrarrestar estos factores? 	Expediente/ registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.	Informes del Proyecto, resultados de los estudios de mercado, registros de actividades realizadas por el IQM registradas, preguntas a las personas involucradas y a los grupos de mujeres.
	Relación de causa-efecto entre los resultados y el propósito del Proyecto	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Son adecuados los resultados esperados? ② ¿Están considerados los efectos sinérgicos entre los resultados? ③ ¿Son adecuadas las condiciones externas consideradas para que los resultados se conviertan en el logro del propósito? ¿Es probable que se cumplan estas condiciones? ④ ¿Habrán otras condiciones externas? 	Registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas.
	Perspectiva del logro de los resultados	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Es adecuado el grado de alcance de los resultados? ② ¿Cuáles son los factores que impiden el logro de los resultados? ¿Cuáles son las medidas que se toman para contrarrestar estos factores? 	Expediente/ registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q).
	Relación de causa-efecto entre los insumos aportados, las actividades y los resultados	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Han sido suficientes las actividades del Proyecto para crear los resultados esperados? ② ¿Se han aportado suficientes insumos para lograr los resultados? ③ ¿Habrán otros métodos que tengan una mayor ventaja costo-efecto? ④ ¿Es probable que las condiciones externas se cumplan? ⑤ ¿Habrán otras condiciones externas? 	Expediente/ registros del Proyecto, programas de desarrollo del Estado, percepción de las personas involucradas, comparación con proyectos similares.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q), informes de los proyectos similares.
Eficiencia	Idoneidad del volumen, la calidad y la oportunidad de la aportación de insumos.	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Han sido adecuados el número y las especialidades de los expertos? ¿Ha sido apropiada la oportunidad de su envío? ② ¿Han sido apropiados los tipos, los modelos y el número de equipos de donación? ¿Ha sido oportuno su envío? ③ ¿Ha sido oportuna la aceptación de los participantes en los cursos de capacitación? ¿Han sido apropiados el número de participantes y el contenido de la capacitación? ④ ¿Han sido apropiados el monto de gastos de operación del Proyecto y la oportunidad de su desembolso? 	Expediente/ registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q).

Anexo 3: Matriz de Evaluación

Rubros de Evaluación		Preguntas para la Evaluación	Datos Necesarios/ Fuentes de Información	Medios de Verificación
Mayores	Menores			
		<p>5 ¿Existe algún insumo que no se haya utilizado?</p> <p>6 ¿Han sido apropiados el número del personal de C/P, la oportunidad de su asignación y sus especialidades?</p> <p>7 ¿Han sido apropiados el tamaño y la calidad de las instalaciones y equipos donados, así como su oportunidad?</p>		
	Perspectiva del logro del objetivo superior	<p>1 ¿Es probable que se logre el objetivo superior en los 3-5 años venideros?</p> <p>2 ¿No habrá algún factor que inhiba el logro del objetivo superior?</p> <p>1 ¿No habrá una distancia demasiado grande entre el objetivo superior y el propósito del Proyecto?</p> <p>2 ¿Son apropiadas las condiciones externas que se consideraran como premisas para que el propósito del Proyecto se traduzca en el logro del objetivo superior? ¿Es probable que estas condiciones se cumplan?</p>	<p>Registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.</p>	<p>Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q).</p>
	Relación de causa-efecto	<p>2 ¿Existen casos de efectos que se extiendan a otras instituciones?</p> <p>2 ¿Se observan algunos efectos sobre aspectos políticos, jurídicos y sistémicos, sobre aspectos de género y de derechos humanos, sobre aspectos sociales y culturales, como la disparidad entre los ricos y los pobres? ¿Ha provocado algún cambio técnico?</p> <p>3 ¿Existen impactos económicos sobre la sociedad objeto del Proyecto, sobre las personas involucradas y los beneficiarios?</p>	<p>Registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.</p>	<p>Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q); preguntas a los grupos de mujeres y a las instituciones involucradas.</p>
	Efectos secundarios	<p>[Existencia de impactos negativos no esperados]</p> <p>1 ¿Existe algún impacto negativo no esperado en las instituciones involucradas?</p> <p>2 ¿Se observan algunos efectos negativos sobre aspectos políticos, jurídicos y sistémicos, sobre aspectos de género y de derechos humanos, sobre aspectos sociales y culturales, como la disparidad entre los ricos y los pobres, o sobre aspectos técnicos?</p> <p>3 ¿Existen impactos económicos negativos sobre la sociedad objeto, sobre las personas involucradas y los beneficiarios del Proyecto?</p> <p>4 Si existe algún impacto negativo, ¿se están tomando medidas para contrarrestarlo?</p>	<p>Registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.</p>	<p>Informes del Proyecto, preguntas a las personas e instituciones involucradas (J, CP/Q).</p>

Anexo 3: Matriz de Evaluación

Rubros de Evaluación		Preguntas para la Evaluación	Datos Necesarios/ Fuentes de Información	Medios de Verificación	
Mayores	Menores				
Sostenibilidad	Política e institucional	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Están ordenadas, o se van a ordenar, las disposiciones legales y el marco jurídico? ② ¿Continuará el apoyo institucional al Proyecto aun después del término del período de cooperación? 	Registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q) y a los grupos de mujeres.	
		Organizacional			<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Se está mejorando la capacidad operativa y coordinadora de la Dirección de Desarrollo Económico y Social del IQM? ② ¿Se está mejorando la capacidad operativa y coordinadora de los grupos de mujeres productores objeto del Proyecto?
					¿Será financieramente posible que el IQM implemente el modelo de apoyo a los grupos de mujeres después del término del período de cooperación?
	Técnica	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Es suficiente el arraigo del personal de CP en la institución? ② ¿Se están utilizando las técnicas transferidas? (¿Están establecidas las técnicas en la institución?) ③ ¿Son sostenibles las actividades realizadas por el apoyo del Proyecto? ④ ¿Se les da mantenimiento a las instalaciones y los equipos? 	Expediente/ registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q) y a los grupos de mujeres.	
		Social y cultural	<ol style="list-style-type: none"> ① ¿No habrá posibilidad de que los efectos del Proyecto no se mantengan por la falta de atención a las mujeres, a los estratos pobres y a los socialmente vulnerables? ② ¿No habrá posibilidad de que los efectos del Proyecto no se mantengan por la falta de atención al medio ambiente? 	Expediente/ registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q), y a los grupos de mujeres.
			<ol style="list-style-type: none"> ① ¿Cuáles son los factores necesarios para que se mantengan los efectos creados por el Proyecto? (Factores promotores.) ② ¿Cuáles son los factores que impidan que los efectos creados por el Proyecto se mantengan? 	Expediente/ registros del Proyecto, percepción de las personas involucradas.	Informes del Proyecto, preguntas a las personas involucradas (J, CP/Q).

Anexo 4: Cuadro de insumos aportados

Insumos aportados al Proyecto

< Insumos aportados por la parte japonesa >

1. Envío de Expertos Japoneses

(Datos al primero de septiembre de 2008)

Nombre	Cargo/Responsable	Tiempo de asignación	Pertenencia / Institución
Yasushi WADA	Director del Proyecto / Fortalecimiento Institucional 1	<u>1er año fiscal:</u> • 12 – 19 de marzo, 2007 <u>2º año fiscal:</u> • 2 de julio – 1 de agosto, 2007 • 4 de oct. – 3 de nov., 2007 • 15 de feb. – 15 de marzo, 2008 <u>3er año fiscal:</u> • 12 de mayo – 14 de junio, 2008 • 4 de ago.- presente	IC Net Limited
Maya ASAKURA	Fortalecimiento Institucional 2	<u>2º año fiscal:</u> • 15 de junio – 26 de dic, 2008 • 16 de enero – 15 de marzo, 2008 <u>3º año fiscal:</u> • 18 de mayo – 31 de julio, 2008	IC Net Limited
Candis E. KRUMMEL	Mejoramiento y Desarrollo de Artesanías 1	<u>1er año fiscal:</u> • 12 – 18 de marzo, 2007 <u>2º año fiscal:</u> • 2 de julio – 14 de oct., 2007 • 23 de nov. – 22 de dic., 2007 • 1 de feb. – 16 de marzo, 2008 <u>3er año fiscal:</u> • 15 de mayo – 13 de Julio, 2008	IC Net Limited
Takujiro ITO	Mejoramiento y Desarrollo de Artesanías 2	<u>2º año fiscal:</u> • 27 de nov. – 22 de dic., 2007 • 11 de feb. – 15 de marzo, 2008 <u>3er año fiscal:</u> • 26 de mayo – 28 de junio, 2008	IC Net Limited
Marco KAMIYA	Estudio de Mercado	<u>2º año fiscal:</u> • 25 de junio– 28 de ago., 2007 • 14 de oct.– 27 de nov., 2007 • 3 de feb.– 18 de marzo, 2008	IC Net Limited
Tomoko WATANABE	Método del estudio/Organización de las mujeres	<u>2º año fiscal:</u> • 6 de junio – 5 de julio, 2007 • 8 de ago. – 6 de oct., 2007 • 11 de nov. – 10 de dic., 2007 • 1 – 15 de marzo, 2008 <u>3er año fiscal:</u> • 23 de junio – 6 de ago., 2008	IC Net Limited
Megumi TODA	Estudio de Mercado / Establecimiento de Relaciones con el Mercado	<u>3er año fiscal:</u> • 17 de mayo– 30 de junio, 2008 • (1 de julio – 31 de ago., 2008) • 1 de sept. - presente	IC Net Limited
Megumi TODA	Coordinadora	<u>2º año fiscal:</u> • 19 de junio – 15 de ago., 2007 • 23 de oct. – 24 de dic., 2007 • 2 de enero – 8 de marzo, 2008 *2 meses fueron cubiertos por los recursos financieros de JICA y los de más meses por IC Net Limited.	IC Net Limited
Natsuko OGAKI	Coordinadora	<u>3er año fiscal:</u> • 1 de sept. - presente	IC Net Limited

Anexo 4: Cuadro de insumos aportados

2. Capacitación a CP y miembros del grupo de mujeres, fuera de México

Nombre	Período de capacitación	Área	Contenido de capacitación e institución capacitadora	Cargo al momento de recibir capacitación	Cargo actual
Augusto César Salgado Sangri	11 – 15 de ag., 2007	Mercadotécnica de Artesanías	Mercadotécnica de Artesanías (Market Readiness Program), Aid to Artisans	Director de Capacitación y Fomento Productivo	Director de Fomento Productivo
María Hadad Castillo	Idem.	Idem.	Idem.	Directora del IQM	Retirada a dic., 2007
María Ady Pech Poot	9 – 13 de junio, 2008	Elaboración de muebles rústicos	Elaboración de muebles rústicos, Instituto Omega	Miembro del grupo de Nvo. Durango, Lázaro Cárdenas	Miembro del grupo de Nvo. Durango, Lázaro Cárdenas
Mirley Vianely González Valdez	Idem.	Idem.	Idem.	Presidenta del grupo de Nvo. Durango, Lázaro Cárdenas	Miembro del grupo de Nvo. Durango, Lázaro Cárdenas

3. Equipos y herramientas suministrados por la parte japonesa y su estado de uso

No. de Control	Fecha de registro	Descripción	Especificación / Estándar	Cantidad	Monto en pesos mexicanos (costo unitario)	Lugar de uso / instalación	Estado de Uso	En caso de no estar en uso, el motivo
1	Jul/07	Mesa Plegable	76x244	1	898.99	Oficina del proyecto	○	
2	Jul/07	Sillas	Neumatica	3	1025.65 (341.89 C/U)	Oficina del proyecto	○	Una silla se estropeó.
3	Jul/07	Escritorio	120mm x 75mm x 75mm	1	2,257.20 (2,257.20 C/U)	Oficina del proyecto	○	
5	Jul/07	Archivero	MP Steel 4 Gebetas	2	4,198.00 (2,098.00 C/U)	Oficina del proyecto	○	
6	Jul/07	Teléfono fijo	Inalambrica C/ld	2	1,198.00 (599.00 C/U)	Oficina del proyecto	○	
7	Jul/07	Tablero de corcho	90x120	2	1,000.00 (500.00 C/U)	Oficina del proyecto	○	
8	Jul/07	Tripie de rotafolio	Triple Tri-M Plata	2	1737.99	Oficina del proyecto	○	
9	Jul/07	Impresora	Hp Laser 2605dn	2	9,268.05 (4,634.025 C/U)	Oficina del proyecto	○	
10	Ago/07	Micro grabadora digital	Vanta Vox-70	3	7,196.99 (2,398.99 C/U)	Oficina del proyecto	○	
11	Ago/07	Copiadora	Xerox M118-b	2	77,000.00 (38,500.00 C/U)	Oficina del proyecto	○	
12	Oct/07	Video proyector	Sony VPL-CX21	1	15,299.09	Oficina del proyecto	○	
13	Oct/07	Software para PC	Office 2007	2	9,597.99 (4,798.995 C/U)	Oficina del proyecto	○	
14	Oct/07	Computadora	HP Pavilion M8050	2	35,818.20 (17,909.1 C/U)	Oficina del proyecto	○	
15	Oct/07	Pantalla tripie blanca	60x60	2	2797.99 (1398.995 C/U)	Oficina del proyecto	○	

Anexo 4: Cuadro de insumos aportados

16	Oct/07	Cámara fotográfica digital	Canon Powershot S5IS	2	13,011.10 (6,505.55 C/U)	Oficina del proyecto	○	
17	Nov/07	Escaneador	Hp Scanner Jet G4050	2	3,782.79 (1,891.395 C/U)	Oficina del proyecto	○	
18	Nov/07	Cámara digital de video	Sony Handy Cam R62	2	17,198.00 (8,599.00 C/U)	Oficina del proyecto	○	
19	Nov/07	Sillas	Neumatica	3	1,221.00 (407.00 C/U)	Oficina del proyecto	○	
20	Nov/07	Fax	HP 1050	2	3,057.05 (1,528.525 C/U)	Oficina del proyecto	○	
21	Nov/07	No break	OMNI VS1000 8 Cont	4	10,762.84 (2,690.71 C/U)	Oficina del proyecto	○	
22	Nov/07	Software para PC	Norton Antivirus	2	999.98 (499.99 C/U)	Oficina del proyecto	○	
23	Nov/07	Pintarrón blanco		2	1835.06 (917.53 C/U)	Oficina del proyecto	○	
24, 25	Oct/07	Software para PC	Adobe Creative, Microsoft Publisher	2 de cada software	47,078.70	Oficina del proyecto	○	
26	Dic/07	Tripie para cámara	Solidex tripie	1	237.21	Oficina del proyecto	○	
27~74, 80~88	Ene - Feb/08	Herramientas para la capacitación en el mejoramiento de calidad y diseño de artesanías (varias)		319	38,755.80	Oficina del proyecto (algunas están prestadas a los grupos de mujeres)	○	
75-79	Ene/08	Máquina para bordar	SINGER Modelo 20U N. U064205198	5	45,001.00 (9,000.20 C/U)	Oficina del proyecto (algunas están prestadas a los grupos de mujeres)	○	
89	Jun/08	Máquina de tubo	SINGER Serie N. W1494207	1	10,500.00	Prestadas a los grupos de mujeres	○	
90	Mayo/08	Disco Duro	320IDE WD de 3.5	2	3,094.01 (1547.01 C/U)	Oficina del proyecto	○	
92	Jun/08	Escritorio	De escuadra	1	1,525.00	Oficina del proyecto	○	
93	Jul/08	Archivero	4Gabetas	1	2089.00	Oficina del proyecto	○	

4. Cursos realizados en México

Año fiscal	Nombre del curso / contenido	Fecha	Duración	No. De participantes	Participantes	Nota
2007	Curso de capacitación sobre la metodología de PCM (Planificación participativa)	9 - 11 de Julio, 2007	3 días	14	Personal de la Dirección de Capacitación y Fomento Productivo (5), Personal de las 3 delegaciones (3 de cada delegación, 9).	
2007	Curso de capacitación del método Diagnóstico Rural Rápido (RRA)	11 - 13 de junio, 2007	3 días	21	Personal de la Dirección de Capacitación y Fomento Productivo, Dirección de Educación y Salud y la Dirección de Planeación, Seguimiento y Evaluación (12), Personal de las 3 delegaciones (3 de cada delegación, 9).	
2007	Introducción de	1º curso: 11 de	2 días	1º: 14	1º curso: Personal de la Dirección de	

Anexo 4: Cuadro de insumos aportados

	estudio de mercado	Julio, 2007 2º curso: 21 de noviembre, 2007		2º: 8	Capacitación y Fomento Productivo (5), Personal de las 3 delegaciones (3 de cada delegación, 9) 2º curso: Personal de la Dirección de Capacitación y Fomento Productivo (8).
2007	Viaje de Estudio	16 – 20 de diciembre, 2007	5 días	8	Representantes de los 6 grupos de Lázaro Cárdenas (6), personal de la Dirección de Capacitación y Fomento Productivo (1), personal de la Delegación de Lázaro Cárdenas (1).
2008	Visita a los grupos de Fomento Cultural Banamex en Yucatán	10 de Julio, 2008	1 día	17	Miembros de los 5 grupos de Lázaro Cárdenas (3 personas por cada grupo, 15 en total), personal de la Dirección de Capacitación y Fomento Productivo (1), personal de la Delegación de Lázaro Cárdenas (1).
2008	Visita a los grupos de Fomento Cultural Banamex en Yucatán	17 de Julio, 2008	1 día	18	Miembros de los 5 grupos de Lázaro Cárdenas (3 personas por cada grupo, 15 en total), personal de la Dirección de Capacitación y Fomento Productivo (1), Delegada de la Delegación de José María Morelos y personal de servicio social de la delegación (1).

5. Gastos Locales

(1) Parte Japonesa

Año Fiscal	Descripción	Monto (Yenes)	Nota
2007	Gastos de operación	11,022,000	Gastos de personal auxiliar, papelería, combustible, comunicación, copias, cursos de capacitación, estudios, eventos, etc.
2007	Compra de equipos y herramientas	3,752,000	
2008	Gastos de operación (hasta finales de julio de 2008)	2,252,088	Gastos de personal auxiliar, papelería, combustible, comunicación, copias, cursos de capacitación, estudios, eventos, etc.
2008	Compra de equipos y herramientas (hasta finales de julio de 2008)	153,457	

(2) Parte Mexicana

Año Fiscal	Descripción	Monto (Pesos)	Nota
2007	Gastos compartidos del lado mexicano	NM\$82,976	<ul style="list-style-type: none"> • IVA de Vehículos (NM\$38,455) • Tenencia de vehículos 2007 (NM\$1,500) • Seguros para vehículos (NM\$11,340) • Oficina para expertos (NM\$21,000) • Mantenimiento de vehículos (NM\$10,681)
2008	Gastos compartidos del lado mexicano (hasta Ago. 2008)	NM\$27,923	<ul style="list-style-type: none"> • Tenencia de vehículos 2008 (NM\$1,192) • Seguros para vehículos (NM\$13,113) • Mantenimiento de vehículos (NM\$14,698)

Anexo 4: Cuadro de insumos aportados

6. Asignación de contrapartes (C/P)

Nombre y cargo de C/P	Especialidad de C/P	Período de asignación al proyecto	Nombre de experto que corresponde	Antigüedad en el IQM	Nota (antecedentes de trabajo, etc.)
Oficina Central Dirección de Capacitación y Fomento Productivo					
Augusto César Salgado Sangri	Director de Fomento Productivo	marzo de 2007 - presente	Yasushi Wada Takujiro Ito	11 años	Auxiliar de arrendamiento de maquinaria del Gob. Tabasco, Encargado de Centro de Reproducción Equina del Gob. Tabasco, Gerente de consorcio comercial privada, Director Técnico del IQM
Daniela Ix Benitez	Coordinadora	marzo de 2007 - presente	Maya Asakura	2.5 años	Despacho consultor del proyectos productivos, Confederación Campesina Independiente
Evangelina Sosa Briceño	Jefa del dept. de capacitación	marzo de 2007 - presente	Maya Asakura	8 años	Hotel, delegación municipal de Othon P. Blanco del IQM.
Yarime Martínez	Auxiliar del dept. de capacitación	marzo de 2008 - feb. De 2008	—		Actualmente trabaja en la Dirección de Planeación, Seguimiento y Evaluación del IQM.
Oscar Ruiz Hernández	Auxiliar del dept. de capacitación	junio de 2007 - marzo de 2008	Candis E. Krummel		Se retiró del IQM.
Vanessa Rodriguez Morales	Jefa del dept. de Fomento Productivo	julio de 2008 - presente	Candis E. Krummel	8 años	CETMAR, CONALEP, Dirección de Administración del IQM.
Gabriela Campos Villaseñor	Profesionista técnico operario de programas del Dept. Capacitación	julio de 2008 - presente	Tomoko Watanabe	5 años	Hacienda estatal, comerciante independiente, delegación municipal de Othon P. Blanco.
Lucely Guadalupe Rodríguez Gomez	Profesionista técnico operario de programas del Dept. Capacitación	agosto de 2008 - presente		7 años	Delegación del IQM, Municipio Othon P. Blanco
Grethel E. Cárdenas Palomo	Profesionista técnico operario de programas del Dept. de Fomento Productivo	marzo de 2007 - presente	Megumi Toda	2 años	Periódico "La Cronica", "Quequi", Grupo constructor MEGASUR, ITCH.
Maricela del Carmen Caamal Huchín	Profesionista técnico operario de programas del Dept. de Fomento Productivo	marzo de 2007 - presente	Megumi Toda	1.7 años	Zona Militar, CONALEP, INEA, Despacho jurídico, zapatería, Chedurahui (supermercado, administración)
Debbie Osiris Delgado Villamonte	Auxiliar de informatica	julio de 2008 - presente	—	4 años	Actualmente trabaja en la Dirección de Informatica del IQM
Asunción Roquelda Aragón Lorenzana	Auxiliar de capacitación y Fomento Productivo	marzo de 2007 - presente	—	10 años	

Anexo 4: Cuadro de insumos aportados

Delegación municipal de Lázaro Cárdenas					
Yrene Pat Chim	Delegada (anterior)	marzo – dic. de 2007		10 años	Se retiró del IQM cuando hubo cambio de la Directora en 2007, y posteriormente regresó a la Delegación como coordinadora.
Trinidad Ancona Chi	Delegada (actual)	dic. de 2007 - presente		Dic., 2007 - presente	Anteriormente trabajaba en la delegación de Lázaro Cárdenas de la SERARI.
Pablo Cen Pool	Encargado de desarrollo económico	marzo de 2007 - presente		10 años	Técnico Supervisor de ANAGSA
Maria Celestina Koyoc Pech	Encargada de capacitación	marzo de 2007 - presente			Encargada de educación y salud hasta el principio de 2008.
Delegación municipal de José María Morelos					
Leidy Noemi Blanco	Ex - Delegada	marzo – nov. o dic. de 2007		nov. o dic., 2007 – presente	Se retiró del IQM cuando hubo cambio de la Directora en 2007, y posteriormente regresó a la Delegación como coordinadora. e
Yesenia Ortiz Estrella	Delegada (actual)	mayo de 2008 - presente		mayo, 2008 - presente	Regidora Municipal de José María Morelos (2005-2007)
Julio Cesar Carrillo Hernandez	Encargado de capacitación y desarrollo económico	marzo de 2007 - presente		4 años	
Lucy Maribel Blanco Angulo	Encargada de educación y salud	marzo de 2007 - presente		5 años	
Maria de Jesus Anguas Cauich	Auxiliar	marzo de 2007 - presente			
Amira Sierra Cauich	Auxiliar	marzo de 2007 - presente			
Delegación municipal de Felipe Carrillo Puerto					
Maria Teresa Cruz Quintal	Delegada (anterior)	marzo – nov. o dic. de 2007		Hasta nov. o dic., 2007	Se retiró del IQM cuando hubo cambio de la Directora en 2007
Marbella Suarez Aguilar	Delegada (actual)	enero de 2008 - presente		enero, 2008 - presente	
Rosa Beatriz Concha Puga	Encargada de capacitación	marzo de 2007 - presente		10 años	
Jorge Armin Santos Rivas	Encargado de desarrollo económico	marzo de 2007 - presente		1.7 años	

Anexo 5-1: Cuadro de Actividades según la PDM0

<p>1-1 Entrenamiento de los funcionarios del IQM en los métodos de estudio y planeación (relacionados con el estudio de mercado y el Diagnóstico Rural Rápido, etc.).</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se realizó una capacitación general sobre los métodos de estudio de mercado en julio, 2007. • Se realizó una capacitación sobre el método de Diagnóstico Rural Rápido (DRR), en junio, 2007. • Se realizó una transferencia técnica tipo "OJT" a través de la puesta en práctica de 6 estudios de campo en el año fiscal 2007. Se elaboró un informe sobre las 6 comunidades estudiadas. Después, en el mismo año fiscal 2007, se ejecutaron 2 estudios de DRR únicamente por el personal de CP.
<p>1-2 Actividades para el fortalecimiento organizacional del IQM (coordinación con otras organizaciones, simplificación de procedimientos administrativos, etc.).</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se realizó una capacitación sobre el método de PCM (planeación) en julio, 2007. • Se formó y se reunió el Comité Conjunto de Coordinación en octubre, 2007. • Se realizó una visita a la dependencia estatal que promueve la producción de artesanías (Secretaría de Desarrollo Económico: SEDE) para establecer una relación. • Se realizó una visita al encargado del Estado de QR en el organismo federal responsable de apoyos a los grupos indígenas (Comisión Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas: CDI) para fortalecer las relaciones de cooperación. • Se realizó una capacitación sobre el método de PCM (monitoreo y evaluación) en julio, 2008. Se aclararon las funciones organizativas de la Dirección de Desarrollo Económico y Social del IQM y las funciones de apoyo a los productores de artesanías de su delegación, las que se integraron en una matriz.
<p>2-1 Organización de productores de artesanías.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se seleccionaron 7 grupos de mujeres en el área objeto de apoyo en el año fiscal 2007 (Municipio de Lázaro Cárdenas), de acuerdo con los criterios de selección establecidos; se llevaron a cabo varios cursos de capacitación para estos grupos. • Se revisó el contenido de un programa de estudio para la organización en noviembre, 2007.

	<p>Se elaboró una matriz de funciones organizativas del grupo de mujeres.</p> <ul style="list-style-type: none"> • En el área objeto de apoyo del año fiscal 2008 (Municipio de José María Morelos), se seleccionaron 6 grupos de mujeres con base en los criterios establecidos.
<p>2-2 Apoyo a los productores de artesanías para que fortalezcan sus capacidades organizacionales (establecer reglas, obtener el RFC, etc.)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • En el Municipio de Lázaro Cárdenas, se realizaron 5 talleres (uno para cada grupo) con el propósito de que los participantes comprendan el significado de la organización. • Se realizaron 5 talleres (uno para cada grupo) con los grupos seleccionados en el Municipio de José María Morelos, con el mismo propósito.
<p>3-1 Entrenamiento de los funcionarios del IQM en los métodos y las habilidades para mejorar artesanías.</p>	<p>En el IQM no existe ningún funcionario que realice actividades de orientación técnica, como instructor, por lo que no se pueden llevar a cabo los entrenamientos técnicos en los métodos de mejoramiento de artesanías.</p>
<p>3-2 Estudio de mercado desarrollado por los funcionarios del IQM en tiendas de artesanías y su retroalimentación a los productores.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Entre octubre y noviembre de 2007, se realizaron los estudios de mercado en los destinos turísticos del Estado de QR, y se elaboraron informes. Entre febrero y marzo del siguiente año, se realizaron estudios complementarios; se modificaron algunos informes con base en sus resultados. • Los resultados de los estudios de mercado de artesanías fueron retroalimentados a los grupos de mujeres productores. • En agosto, 2007, se logró la participación de la Directora General del IQM y del director de Desarrollo Económico y Social en la Feria Internacional de Artesanías y el Seminario sobre el Mercado de Artesanías celebrados en Nueva York, para que conozcan la situación actual de dicho mercado.
<p>3-3 Entrenamiento de los líderes de productores en el mejoramiento de sus productos.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se organizó un viaje de estudio para los líderes de los grupo seleccionados del Municipio de Lázaro Cárdenas, para reconocer la cultura maya y su identidad, para profundizar los conocimientos sobre la situación del mercado de artesanías, para fortalecer su capacidad de diseño y para tener intercambios con otros grupos de productores de artesanías.

	<ul style="list-style-type: none"> • Para formar instructores, se enviaron, como internos a un taller en la Ciudad de México, a los miembros más destacados en las técnicas de bordado a máquina y en la capacidad de diseño. • Se enviaron a Nueva York a 2 miembros del grupo del Municipio de Nuevo Durango, con el propósito de formar instructores. Estos miembros participaron en un curso de capacitación de 2 semanas, sobre la artesanía de madera que utiliza árboles caídos o palizadas como materia prima, para no afectar el medio ambiente.
<p>3-4 Entrenamiento de productores de artesanías en el mejoramiento de sus productos.</p>	<p>(Municipio de Lázaro Cárdenas)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Se realizaron actividades de capacitación para cada uno de los 7 grupos del Municipio de LC, sobre el tema de mejoramiento y desarrollo de artesanías. De los 7 grupos, 5 recibieron capacitación. Actualmente, se organizan cursos itinerantes. • Se invitó a un artista de muebles rústicos de Nueva York, quien dio un curso de capacitación a los 2 grupos del área objeto de apoyo. • Como resultado de la actividad arriba mencionada, se fabricaron productos piloto en 5 grupos; se organizó una exposición de muestras con la participación de diseñadores, propietarios de tiendas de artesanías, etc. <p>(Municipio de José María Morelos)</p> <ul style="list-style-type: none"> • De los 6 grupos objeto de apoyo a 3 se les dio capacitación: un curso sobre trabajos de ganchillo, 2 cursos sobre ropa de playa, y un curso sobre productos bordados a mano.
<p>3-5 Actividades autónomas llevadas a cabo por los productores de artesanías para el mejoramiento de sus productos.</p>	<p>En los 2 grupos del Municipio de Lázaro Cárdenas, se realizaron diseños nuevos con características del lugar (motivos de flores que crecen en la comunidad y de dibujos inspirados en las inscripciones mayas, este último para trabajos de madera). (Sin embargo, el grupo de trabajos de madera dejó de realizar sus actividades a partir del segundo año.)</p>
<p>4-1 Entrenamiento de los funcionarios</p>	<p>Véase el 3-1.</p>

del IQM en el mejoramiento del diseño y el desarrollo de nuevos productos.	
4-2 Estudio de mercado realizado por los funcionarios del IQM sobre tiendas de artesanías y su retroalimentación a los productores.	<ul style="list-style-type: none"> • Se realizó un estudio de mercado por un consultor local contratado por el IQM. • Se realizó un curso de capacitación a los funcionarios del IQM sobre los métodos de diseño y de supervisión del estudio de mercado.
4-3 Introducción del sistema de registro de diseños en el IQM.	<ul style="list-style-type: none"> • Para proteger los diseños desarrollados, se tomaron varias medidas: limitar lugares de ventas y elaborar etiquetas especiales que van con los productos, entre otras.
4-4 Entrenamiento de los líderes de los productores de artesanías en el mejoramiento del diseño y el desarrollo de nuevos productos.	Véase el 3-3.
4-5 Entrenamiento de productores de artesanías en el mejoramiento del diseño y el desarrollo de nuevos productos.	Véase el 3-4.
4-6 Una reunión para estudiar la cultura maya, el diseño maya y su aplicación a los productos.	<ul style="list-style-type: none"> • Como parte de la capacitación en diseño, se visitan tanto las ruinas y los museos (para observar los dibujos mayas) como las tiendas de artesanías en Cancún y en la Ciudad de México. También se celebró una exposición de muestras por el grupo de asesores.
4-7 Actividades autónomas de los productores de artesanías para el mejoramiento del diseño y el desarrollo de nuevos productos.	Véase el 3-5. Igual que el caso de las actividades autónomas de los productores para el mejoramiento de sus productos.
5-1 Exploración de tiendas de artesanías colaboradoras.	<ul style="list-style-type: none"> • En el Estado de QR y el vecino Estado de Yucatán, se visitaron tiendas que venden artesanías, joyas y ropa. De las 12 tiendas visitadas, 9 expresaron su interés en manejar los

	<p>productos fabricados en el marco del Proyecto. En este momento (agosto del 3er año) se tienen 4 tiendas cooperadoras, donde se venden 8 artículos de los 10 prospectos.</p>	
<p>5-2 Mejoramiento del método de venta de las tiendas colaboradoras.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Actualmente (en agosto del 3er año), se recolectan datos sobre la tendencia del mercado, el gusto y la moda entre los consumidores en las tiendas colaboradoras, para mejorar la línea de venta de estas tiendas. 	
<p>6-1 Entrenamiento de los funcionarios del IQM, de las tiendas colaboradoras y de productores de artesanías en el sistema de propiedad intelectual.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se realizó un curso de capacitación para los productores sobre el manejo de información relacionada con los diseños de artesanías desarrollados en el marco del Proyecto. 	
<p>6-2 Introducción de un sistema para proteger los diseños y productos.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se tomaron medidas para proteger la originalidad de los productos, como restringir las tiendas de venta y colocar etiquetas a los productos. 	
<p>7-1 Visitas de campo a los lugares de producción por parte de las personas relacionadas con las tiendas de artesanías colaboradoras.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • En diciembre, 2007, los colaboradores, incluyendo los dueños de las tiendas, visitaron a los productores; se realizó una exposición de productos fabricados en el Municipio de Nuevo Durango. • En junio, 2008, se celebró una clausura de las actividades de capacitación para los miembros de los 5 grupos objeto de apoyo del primer año. Fue una oportunidad para que los invitados al evento, dueños de las tiendas de artesanías, funcionarios de los municipios y del CDI y de la Secretaría de Desarrollo Agropecuario Rural e Indígena (SEDARI), conozcan la realidad de los productores. 	
<p>7-2 Visita a las tiendas de artesanías colaboradoras por parte de los productores para entender el mercado.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • No se ha realizado esta actividad hasta fines de julio, 2008. En septiembre, 2008, los representantes de los grupos de mujeres del Municipio de Lázaro Cárdenas visitarán las tiendas de artesanías en Mérida y Cancún, con el personal del Proyecto. 	

Anexo 5-2: Cuadro de Actividades según la PDM1

Actividades	Detalles del Avance
1-1. Recopilar y ordenar la información sobre los esquemas de apoyo a mujeres y a grupos de mujeres.	<ul style="list-style-type: none"> Se ha recopilado la información por iniciativa del personal de C/P y está en proceso el trabajo de su integración.
1-2. Llevar a cabo los estudios de mercado para entender las necesidades y el estado actual del mercado.	<ul style="list-style-type: none"> Se llevó a cabo el estudio de mercado desde octubre a noviembre de 2007. Se llevó a cabo un estudio complementario de febrero a marzo de 2008. Se elaboró un Informe del Estudio de Mercado con los resultados del estudio. En agosto de 2008, la Directora General del Instituto Quintanarroense de la Mujer y el Director del Desarrollo Económico y Social del mismo instituto participaron en la "Feria Internacional de Artesanías" y en el "Seminario sobre el Mercado de Artesanías" en Nueva York.
1-3. Obtener la información de las tiendas de artesanías para mantener actualizada la información sobre el mercado de artesanías.	<ul style="list-style-type: none"> Como parte de las actividades para promover las ventas, se recopila la información sobre el mercado.
1-4. Realizar los estudios para entender las necesidades de los grupos de mujeres y de la zona objeto del Proyecto.	<ul style="list-style-type: none"> En junio de 2007 se efectuó la capacitación sobre el método de Diagnóstico Rural Rápido (DRR). Durante el año fiscal 2007 se llevaron a cabo 6 estudios de campo y se transfirió el método de DRR mediante OJT. Se elaboraron los informes del estudio sobre las 6 comunidades diagnosticadas. Posteriormente en el mismo año fiscal, el personal C/P aplicó el DRR a 2 comunidades por su propia cuenta.
1-5. Realizar estudios adicionales para actualizar la información.	<ul style="list-style-type: none"> Al mes de septiembre de 2008, no se ha efectuado ningún estudio adicional.
1-6. Recopilar y ordenar la información sobre los insumos requeridos para la elaboración de artesanías.	<ul style="list-style-type: none"> Se elaboró una relación de materiales naturales e insumos de buena calidad identificados durante las actividades del Proyecto, y de las tiendas que los venden.
2-1. Aclarar las funciones y las responsabilidades del IQM-FP (incluyendo las tres delegaciones) en materia del fomento productivo.	<ul style="list-style-type: none"> Se hizo un ordenamiento de los trabajos realizados por el IQM-FP hasta la fecha. Este Departamento se encarga básicamente de apoyar y promover el fomento de actividades productivas de la mujer. Se analizaron las funciones esenciales necesarias para cumplir con las labores mencionadas, resumiéndolas en una matriz de trabajo del Departamento.
2-2. Preparar estrategias internas del IQM-FP en materia del fomento productivo, de acuerdo con las condiciones reales.	<ul style="list-style-type: none"> El diagrama de flujo de trabajo, que es la base del Manual de Procedimientos, se elaboró en agosto de 2008. El diagrama fue presentado y discutido en el Departamento.
2-3. Preparar el plan de actividades y el presupuesto en materia del fomento productivo	<ul style="list-style-type: none"> Con el fin de contribuir a la elaboración del plan de actividades y el presupuesto necesario de acuerdo con la realidad y necesidad, se hizo un ejercicio de cuantificación de las actividades y de los recursos necesarios. Se transfirió el método de cuantificación al

tanto para el IQM-FP como para las delegaciones.	Departamento, lo que se valoró altamente.
2-4. Adquirir los métodos de planeación, monitoreo y evaluación en materia del fomento productivo.	<ul style="list-style-type: none"> En julio de 2007 se efectuó el curso de capacitación sobre la planeación según el método de PCM para los altos funcionarios del IQM y sus delegadas.
2-5. Llevar a cabo el control (monitoreo) del plan de fomento productivo.	<ul style="list-style-type: none"> Se realizó un taller dirigido al personal del IQM en diciembre de 2007, en que se elaboró la "Matriz de Capacidad Organizacional de los Grupos de Mujeres para Fortalecer la Producción de Artesanías". En 2008 se está llevando a cabo el control de ejecución de las actividades de apoyo con base en esta matriz.
2-6. Recopilar los resultados de actividades y elaborar los manuales operativos en materia del fomento productivo.	<ul style="list-style-type: none"> En cuanto a la elaboración de los manuales, sólo se llevaron a cabo algunos preparativos.
3-1. Compartir la información con las entidades que cuentan con los esquemas de apoyo mediante reuniones.	<ul style="list-style-type: none"> En Octubre de 2007, se realizó un evento de arranque del Proyecto con la participación de las dependencias de los gobiernos estatal, federal, municipal (alcaldías) y los grupos de mujeres, para tener una relación de coordinación con estas entidades involucradas. Se hizo una visita al Departamento de Artesanías de la Secretaría de Desarrollo Económico (SEDE) y a la Comisión Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas (CDI) para establecer una relación de coordinación. De parte de la CDI se ofreció el esquema de adquisición de materiales y equipos para los 5 grupos objeto del Proyecto. En marzo de 2008, se efectuó la primera reunión del Comité Conjunto de Coordinación (CCC). Los miembros del Comité son: el IQM, la Secretaría de Relaciones Exteriores, la CDI, la SEDE, la Secretaría de Desarrollo Rural e Indígena (SEDARI), los Programas de Apoyo Cultural de los municipios y los representantes de 3 zonas objeto. Se entabló una relación de coordinación entre el Proyecto y estas instancias. En julio de 2008, se realizó una ceremonia de clausura de capacitación en el municipio de Lázaro Cárdenas, invitando a los representantes de las instancias involucradas.
3-2. Organizar eventos de enlace entre las productoras de artesanías y los colaboradores potenciales/ tiendas de artesanías.	<ul style="list-style-type: none"> En diciembre de 2007, un grupo de colaboradores, que incluye a los dueños de tiendas de artesanías, visitó a las productoras. Se organizó una exposición de artesanías en Nuevo Durango. En junio de 2008, se celebró una ceremonia de clausura de capacitación en mejoramiento y desarrollo de artesanías de los 5 grupos que fueron objeto del Proyecto en el primer año fiscal. Para esta ceremonia, se invitaron los representantes de las partes involucradas, para promover su comprensión hacia lugares de producción. Se envió un grupo de representantes de los 5 grupos de Lázaro Cárdenas a las organizaciones de productores del Estado de Yucatán, para establecer una relación de colaboración con estas organizaciones.
4-1. Identificar y seleccionar grupos de mujeres prospecto en la zona objeto del Proyecto.	<ul style="list-style-type: none"> Con base en las actividades durante el 2007, se elaboró el criterio de selección de grupos de mujeres. Empleando este criterio se seleccionaron los grupos sujetos a la asistencia en 2008.
4-2. Preparar guías de	<ul style="list-style-type: none"> Debido a que no ha terminado las actividades de 1-1, no se ha

<p>aplicación de los esquemas de apoyo que tienen otras entidades, dirigidas a mujeres y a los grupos de mujeres (utilizando la información del 1-1).</p>	<p>iniciado el trabajo para la guía de utilización.</p>
<p>4-3. Identificar a instructores para aprovecharlos en las actividades de apoyo.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • En junio de 2006, se enviaron a 2 representantes del grupo productor de miniaturas de madera objeto del Proyecto a EU, para que mejoren sus capacidades como instructoras.
<p>4-4. Evaluar las artesanías existentes y el nivel técnico productivo con el fin de mejorar su proceso y desarrollar nuevos productos (incluyendo la mejora del diseño y del proceso productivo).</p>	<ul style="list-style-type: none"> • La evaluación de la técnica de elaboración de artesanías ya se realizó en el municipio de Lázaro Cárdenas en el año fiscal 2007 por el experto a cargo del mejoramiento y desarrollo de artesanías. En el municipio de José María Morelos, la evaluación se llevó a cabo en el año fiscal 2008. • Se realizaron los siguientes eventos como capacitación en mejoramiento de diseño y calidad. <p>(Municipio de Lázaro Cárdenas)</p> <p>(1) Se dio la capacitación en mejoramiento de diseño y calidad de artesanías a cada uno de los 7 grupos de mujeres en este municipio con el fin de mejorar y desarrollar artesanías.</p> <p>(2) Se hizo una invitación al artista de muebles rústicos de Nueva York y se realizó asesorías para la elaboración de productos de madera a 2 grupos de la zona objeto del Proyecto.</p> <p>(3) Se hizo una exposición de muestras elaboradas por los 5 grupos invitando a diseñadores y dueños de tiendas de artesanías. De acuerdo con las sugerencias de los invitados a la exposición, se hicieron mejoras a los productos.</p> <p>(Municipio de José María Morelos)</p> <p>(1) Para 3 grupos objeto del Proyecto se dio capacitación: una vez en crochet, 2 veces en ropas de playa y una vez en bordados a mano (resultados a la fecha de junio de 2008).</p>
<p>4-5. Dar capacitación en control de producción y promover la venta de artesanías. (Se incluyen la celebración de eventos y la apertura de un sitio de web.)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se está llevando a cabo en el municipio de Lázaro Cárdenas (2008). Al mes de agosto de 2008, se cuentan con 4 tiendas donde se venden los productos elaborados en el Proyecto y 8 artículos de 10 prospectos son manejados en las estas tiendas. • Se hizo una exposición de productos de los 5 grupos de Lázaro Cárdenas invitando a diseñadores y dueños de tiendas de artesanías. De acuerdo con las sugerencias de los invitados a la exposición, se hicieron mejoras a los productos (en diciembre, 2007). • Se organizó una exposición de productos elaborados por los 5 grupos de Lázaro Cárdenas con motivo del Día Internacional de la Mujer, y se hizo una explicación al gobernador que asistió a la ceremonia (en marzo, 2008). • Se celebró la clausura de capacitación de los 5 grupos objeto del Proyecto en el primer año fiscal, con la participación de dueños de las tiendas de artesanías, funcionarios municipales, representantes de la CDI y la SEDARI. Se promovió la comprensión de estas personas hacia lugares de producción (en junio, 2008). • Se publicó un boletín informativo del Proyecto (en julio, 2007).
<p>4-6. Dar capacitación a los grupos de artesanas sobre la creación de</p>	<ul style="list-style-type: none"> • En noviembre de 2007, se hizo un análisis del contenido del programa de capacitación sobre la organización; se elaboró una matriz de funciones organizacionales de los grupos de mujeres.

<p>organización y su fortalecimiento funcional.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Para los grupos seleccionados del municipio de Lázaro Cárdenas, se llevó a cabo un taller sobre la importancia de la organización. Se realizó un taller para cada uno de los grupos, para un total de 5 veces (2008). • Para los grupos seleccionados del municipio de José María Morelos, se organizó un taller sobre la importancia de la organización. Se realizaron un taller para cada uno de los grupos, para un total 5 veces (2008).
<p>5- Registrar los resultados de las actividades y elaborar programas de fomento productivo de artesanías.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Los contenidos y el proceso que se deben incluir en el programa ya están ordenados. Sin embargo, no se ha terminado su integración (al mes de agosto de 2008). • Para organizar los contenidos del programa de capacitación, se llevó a cabo un taller, teniendo, como participantes, al personal C/P. Se elaboró la Matriz de Capacidades organizacionales de los Grupos de Mujeres.
<p>5-1. Ordenar la información necesaria para la ejecución del Proyecto y estructurar un mecanismo de manejo de información.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Se inició en junio de 2008 un mecanismo para intercambiar la información a través de Internet.
<p>5-2. Entender los esfuerzos para compartir la información y actualizar la información sobre las actividades y sus resultados con base en el mecanismo de manejo de la información.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Los expertos están subiendo gradualmente la información del Proyecto. Sin embargo, se cuenta con poca participación del personal C/P ya que su acceso a Internet está muy restringido.
<p>5-3. Aprovechar la información acumulada y actualizada (Informes de campo, diferentes estudios y diagnósticos, diversos formatos y manuales) para las actividades del Proyecto.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • No se ha hecho el estudio. Se planea realizar el estudio después de implementación del sistema de información.

Attachment 2: PDMI

Nombre del Proyecto:

PROYECTO DE APOYO AL DESARROLLO DE CAPACIDADES DE MUJERES EN LA REGIÓN MAYA, ESTADO DE QUINTANA ROO


Período de ejecución: Marzo, 2007 - Marzo, 2010

Zona: Municipios de Felipe Carrillo Puerto, José María Morelos y Lázaro Cárdenas.

Grupos objeto del proyecto: Personal de la Dirección de Fomento Productivo del Instituto Quintanarroense de la Mujer (IQM), personal de las delegaciones que se involucran en las actividades de fomento productivo.

PDMI
Fecha de actualización: septiembre, 2008

Resumen narrativo	Indicadores verificables	Medios de verificación	Supuestos importantes
<p>Objetivo superior Se incrementa el ingreso de los grupos de mujeres que recibieron apoyo mediante la aplicación del modelo de apoyo para el mejoramiento y desarrollo de artesanías ("modelo de apoyo" en adelante).</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Se incrementa el ingreso de las mujeres que recibieron apoyos. - Se incrementa el número de las artesanías desarrolladas o mejoradas por la aplicación del modelo de apoyo. - Se incrementa el número de grupos de las mujeres a los que se aplicó el modelo de apoyo. - Se incrementa el volumen de artesanías entregadas a los butiques y las tiendas de artesanías de calidad. 	<ul style="list-style-type: none"> • Registros del monitoreo del apoyo (datos registrados en el sistema de información). 	
<p>Objetivo del proyecto Se establece el modelo de apoyo a los grupos de mujeres que se aplica por la Dirección de Fomento Productivo del IQM (IQM-FP).</p>	<p>Se dan apoyos a la producción de artesanías de los grupos objeto del Proyecto por parte del IQM aplicando el modelo de apoyo, en el momento de la terminación del proyecto.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Entrevistas a los grupos objeto del Proyecto. • Informes del Avance de las Actividades del Proyecto. • Modelos presentados al Consejo Directivo del IQM (programas de fomento productivo, manuales de trabajos productivos, etc.) 	<ul style="list-style-type: none"> • Ausencia de desastres naturales (inundaciones, sequías, huracanes, etc.) que causen daños materiales decisivos en la zona.
<p>Resultados esperados 1. Fortalecimiento de la función investigadora: se recolecta y se organiza la información necesaria para entender la situación actual de las comunidades y llevar a cabo las actividades. 2. Fortalecimiento de la función operativo-administrativa: el IQM-FP aprende y aplica los métodos operativo-administrativos (incluyendo las operaciones correspondientes a la IQM-FP en las tres delegaciones.) 3. Fortalecimiento de la función coordinadora y de enlace: se logra la coordinación y la colaboración entre el IQM-FP y otras instancias relevantes.</p>	<p>1-1. Se realiza el estudio de mercado de artesanías en Quintana Roo y se prepara un informe, que se mantiene actualizado. 1-2. Se realizan los estudios del estado de las comunidades objeto del Proyecto y se prepara el informe, que se mantiene actualizado. 1-3. Se aprovecha, de alguna forma, la información de los estudios realizados en la zona objeto del Proyecto al formular los proyectos de apoyo. 2-1. Se elabora el manual operativo de fomento productivo (borrador) de los grupos de mujeres. 2-2. Se logra validar el manual operativo de fomento productivo. 3-1. Se prepara un borrador de la guía de aprovechamiento de los esquemas de apoyo (folletos, etc.). 3-2. Se celebran reuniones con las entidades involucradas que cuentan con esquemas de</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Informe del estudio de mercado de artesanías. • Informe del Diagnóstico Rural Rápido de los tres municipios objeto del Proyecto. • Entrevistas a las personas involucradas en la formulación del Proyecto. Revisión de la propuesta. • Manual operativo de fomento productivo. • Informes de Avance de las Actividades del Proyecto. • Borrador de la guía elaborado. • Minutas de reuniones. • Informes de Avance de las Actividades del Proyecto. (La sección correspondiente al tema 	<ul style="list-style-type: none"> • Ausencia de desastres naturales (inundaciones, sequías, huracanes, etc.) que causen daños materiales decisivos en la zona.

<p>4. Establecimiento de los programas de apoyo: se elaboran los programas de fomento productivo de artesanías a través del proyecto demostrativo aplicado a los grupos de mujeres objeto del Proyecto por parte del IQM-FP y las delegaciones correspondientes.</p> <p>5. Fortalecimiento de la función del manejo de información: se maneja y se aprovecha de manera apropiada la información referente a la gestión de apoyos a las mujeres.</p>	<p>apoyo a las mujeres productoras de artesanías en el momento de la terminación del Proyecto.</p> <p>3-3. Se ofrecen oportunidades para enlazar las artesanías con los colaboradores potenciales / las tiendas de artesanías, al menos dos veces al año (exposiciones de artesanías, eventos de presentación de artesanías, etc.).</p> <p>4-1. Se incrementan las variedades de artesanías mejoradas o desarrolladas.</p> <p>4-2. Se mejora la evaluación sobre la calidad de las artesanías mejoradas o desarrolladas.</p> <p>4-3. Se incrementa la venta de las artesanías mejoradas o desarrolladas</p> <p>4-4. Se mejoran las capacidades de los grupos de mujeres que recibieron el apoyo del programa de fomento productivo de artesanías (conciencia, conocimientos, etc.)</p> <p>5-1. Se establece un mecanismo de manejo de información.</p> <p>5-2. El personal de C/P mantiene actualizada la información útil en el sistema de información.</p> <p>5-3. Un 70% del personal de C/P utiliza la información acumulada y actualizada para su trabajo.</p>	<p>de enlace entre las artesanías y las tiendas de artesanías.)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Informes de Avance de las Actividades del Proyecto. - Resultados obtenidos en las exposiciones. - Registros de venta. - Entrevistas a los grupos objeto del Proyecto. - Mecanismo de manejo de información, de ordenamiento y clasificación. - Registro de actualización de la información. - Nivel de utilización de la información. (Entrevistas y aplicación de encuestas al personal de C/P.) 	
<p>Actividades</p> <p>1-1. Recopilar y ordenar la información sobre los esquemas de apoyo a mujeres y a grupos de mujeres.</p> <p>1-2. Llevar a cabo los estudios de mercado para entender las necesidades y el estado actual del mercado.</p> <p>1-3. Obtener la información de las tiendas de artesanías para mantener actualizada la información sobre el mercado de artesanías.</p> <p>1-4. Realizar los estudios para entender las condiciones actuales y las necesidades de los grupos de mujeres y de la zona objeto del Proyecto.</p> <p>1-5. Realizar estudios adicionales para actualizar la información.</p> <p>1-6. Recopilar y ordenar la información sobre los insumos requeridos para la elaboración de artesanías.</p> <p>2-1. Aclarar las funciones y las responsabilidades del IQM-FP (incluyendo las tres delegaciones) en materia del fomento productivo.</p> <p>2-2. Preparar estrategias internas del IQM-FP en materia del fomento productivo, de acuerdo con las condiciones reales.</p> <p>2-3. Preparar el plan de actividades y el presupuesto en materia del fomento productivo tanto para el IQM-FP como para las delegaciones.</p>	<p>Insumos</p> <p>México</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Asignación del personal del contraparte (C/P) <ul style="list-style-type: none"> • Director del proyecto • Gerente del proyecto • Personal del IQM relacionado con el Proyecto. • Personal administrativo (secretaría, chofer, otros tipos de personal de soporte.) 2. Edificio, equipos y materiales necesarios para la ejecución del Proyecto. 3. Especie de oficina, sala de juntas y los equipos necesarios para los expertos japoneses. 4. Gastos de luz, gas y agua. 5. Otros equipos y materiales considerados necesarios, de común acuerdo. 6. El IVA que causen los equipos donados por la parte japonesa. 7. Hacerse cargo de una parte de los gastos locales para la ejecución del Proyecto. 	<p>Japón</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Envío de los expertos. <ul style="list-style-type: none"> • Asesor en Jefe. • Otros expertos de corto plazo necesarios para lograr el Objetivo del Proyecto. 2. Hacerse cargo de una parte de los gastos locales para la ejecución del Proyecto. 3. Donación de equipos y materiales. 4. Otros equipos y materiales necesarios para la operación del Proyecto. 	<ul style="list-style-type: none"> - Ausencia de desastres naturales (inundación, sequías, huracanes, entre otros) que causen daños materiales decisivos en la zona. - No se reducen a niveles menores los esquemas de apoyo a las mujeres en cuanto al número ni en cuanto a la envergadura. 

- 2-4. Adquirir los métodos de planeación, monitoreo y evaluación en materia del fomento productivo.
- 2-5. Llevar a cabo el control (monitoreo) de la ejecución del plan de fomento productivo.
- 2-6. Recopilar los resultados de actividades y elaborar los manuales operativos en materia del fomento productivo.
- 3-1. Compartir la información con las instancias que cuentan con los esquemas de apoyo mediante reuniones.
- 3-2. Organizar eventos de enlace entre las productoras de artesanías y los colaboradores potenciales/ tiendas de artesanías.
- 4-1. Identificar y seleccionar grupos de mujeres prospecto en la zona objeto del Proyecto.
- 4-2. Preparar guías de aplicación de los esquemas de apoyo que tienen otras entidades, dirigidas a mujeres y a los grupos de mujeres (utilizando la información del 1-1).
- 4-3. Identificar a instructores para aprovecharlos en las actividades de apoyo.
- 4-4. Evaluar las artesanías existentes y el nivel técnico productivo con el fin de mejorar su proceso y desarrollar nuevos productos (Incluyendo la mejora del diseño y del proceso productivo).
- 4-5. Dar capacitación en control de producción y promover la venta de artesanías. (Se incluyen la celebración de eventos y apertura de un sitio de web.)
- 4-6. Dar capacitación a los grupos de artesanas sobre la creación de organización y su fortalecimiento funcional.
- 4-7. Registrar los resultados de las actividades y elaborar programas de fomento productivo de artesanías.
- 5-1. Ordenar la información necesaria para la ejecución del Proyecto y estructurar un mecanismo de manejo de información.
- 5-2. Entender los esfuerzos para compartir la información y actualizar la información sobre las actividades y sus resultados con base en el mecanismo de manejo de la información.
- 5-3. Aprovechar la información acumulada y actualizada (informes de campo, diferentes estudios y diagnósticos, diversos formatos y manuales) para las actividades del Proyecto.

Precondiciones

- No se desaparece el Instituto Quintanarroense de la Mujer.
- Se siguen implementando las políticas gubernamentales de apoyo a la mujer.

Documento anexo 4:

Lista de miembros del Comité Conjunto de Coordinación y el Comité Técnico

1. Comité Conjunto de Coordinación

(1) Presidente:

Directora General del Instituto Quintanarroense de la Mujer (IQM) (Directora del Proyecto)

(2) Vicepresidente:

Director de Fomento Productivo del IQM (Gerente del Proyecto)

(3) Miembros del Comité:

Parte Mexicana

(a) Representantes del IQM

(b) Representante de la Secretaría de Relaciones Exteriores del Gobierno Federal (DGCTC)

(c) Representante de la Secretaría de Desarrollo Económico del Gobierno del Estado de Quintana Roo (SEDE)

(d) Representante de la Secretaría de Desarrollo Agropecuario Rural e Indígena del Gobierno del Estado de Quintana Roo (SEDARI)

(e) Representante de la Comisión Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas (CDI)

(f) Representantes de las organizaciones involucradas o personas relacionadas con el Proyecto

Parte Japonesa

(a) Expertos Japoneses

(b) Representantes de la JICA México

(c) Otras personas relacionadas con el Proyecto

Nota: Funcionarios de la Embajada de Japón en México podrán asistir al Comité Técnico como observadores

2. Comité Técnico

Miembros del Comité

(a) Directora General del Instituto Quintanarroense de la Mujer (IQM)

(b) Director de Desarrollo Económico y Social del IQM


(c) Director de Planeación, Seguimiento y Evaluación del IQM

(d) Delegadas de las áreas objeto del Proyecto

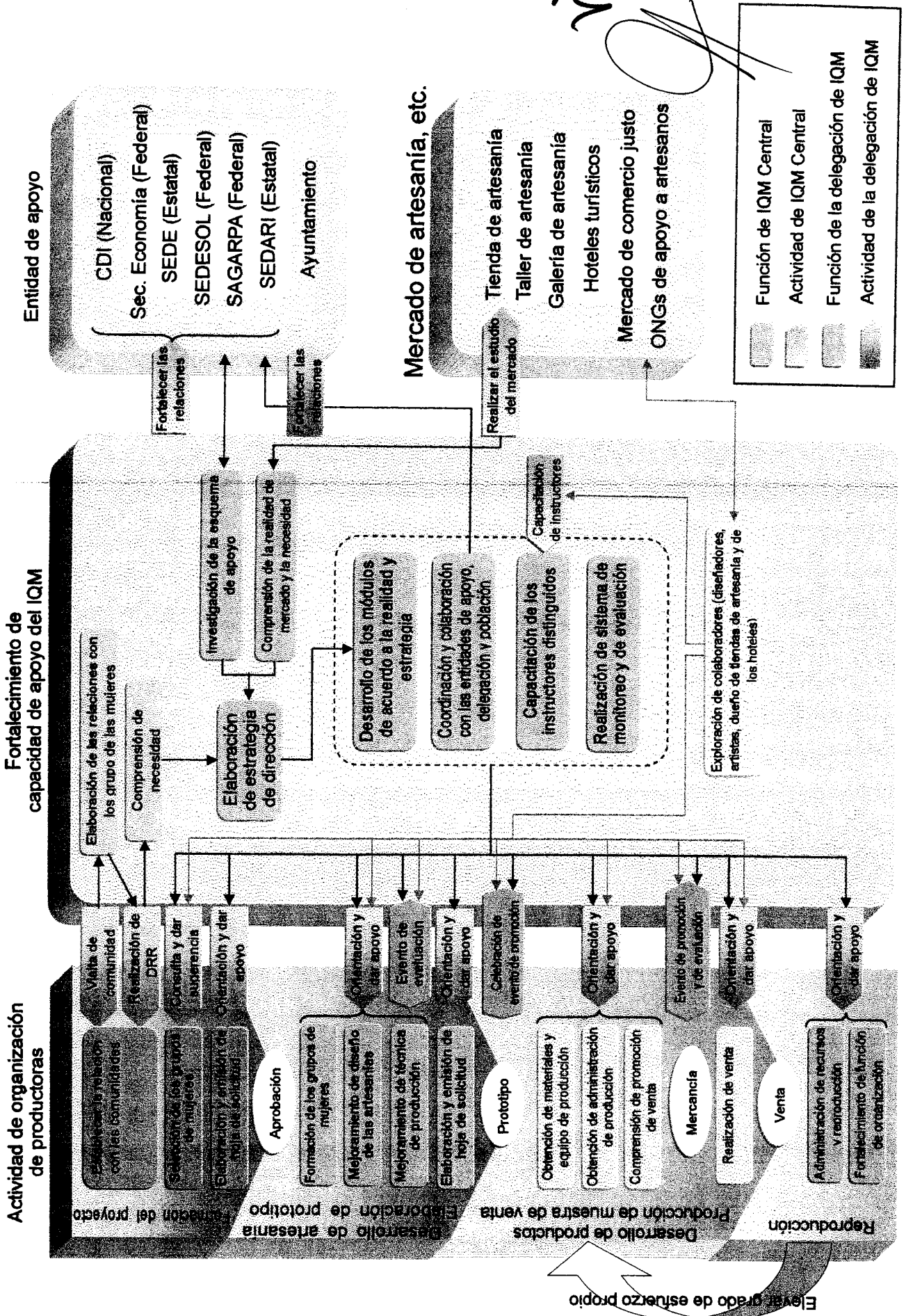
(e) Otras personas del IQM relacionadas con el Proyecto

(f) Expertos Japoneses

Nota: la DGCTC y la JICA México podrán asistir al Comité Técnico como observadores.



Esquema Conceptual del Modelo PRODEMAYA



Lista de participantes de la discusión

Instituto Quintanarroense de la Mujer

Cecilia Rosalía Loría Marín	Directora General
Augusto César Salgado Sangri	Director de Fomento Productivo
Rose Mary Pérez y Pérez	Directora de Salud
Mildred Virginia Coral García	Directora de Planeación, Seguimiento y Evaluación
Abel Aceves Castell	Coordinador General

Secretaría de Relaciones Exteriores

Máximo Romero Jiménez	Director General de Cooperación Técnica y Científica
Efraín del Ángel Ramírez	Subdirector de Convenios y Programas Bilaterales para Asia

Agencia de Cooperación Internacional del Japón

Kenichiro Kawaji	Representante Residente de Oficina en México
Masayoshi Juro	Lider del Equipo Japonés de Evaluación Intermedia
Shirohi Isogai	Planeación para la Cooperación, Equipo Japonés de Evaluación Intermedia
Kenji Ishizuka	Planeación para la Cooperación, Equipo Japonés de Evaluación Intermedia
Kumiko Fujita	Coordinación / Desarrollo Turístico, Equipo japonés de Evaluación intermedia
Mariko Homma	Consultora, Equipo Japonés de Evaluación Intermedia

AAZ Z.C.

2. 評価スケジュール

評価スケジュール

日	日付	十郎団長・総括	石塚団員・協力企画2	藤田団員・調整/観光開発	職員団員・協力企画1	本間団員・評価分析	宿泊先
1	9/7 日					成田発(17:25 JL62)→メキシコシティ着(19:20 AM647) JICA事務所打合せ チエトウマルへ移動 専門家打合せ	メキシコシティ
2	9/8 月						チエトウマル
3	9/9 火					カウンターパート(本庁生産強化部)へのインタビュー/専門家インタビュー	チエトウマル
4	9/10 水					カウンターパート(本庁生産強化部)へのインタビュー/専門家インタビュー	チエトウマル
5	9/11 木					カウンターパート(本庁生産強化部)へのインタビュー ラサロ・カルデナスへ移動	カントニルキン
6	9/12 金					ラサロ・カルデナス支所訪問・インタビュー 女性グループ視察(バジャドリッド、ヌエボ村→サラゴサ村→サンフランシスコ村)・インタビュー ホセ・マリア・モレロスへ移動	ホセ・マリア・モレロス
7	9/13 土					ホセ・マリア・モレロス支所訪問・インタビュー 女性グループ視察(ワイ・マツジュ村→タバスコ村→プレスマミダ村)・インタビュー	ホセ・マリア・モレロス
8	9/14 日					カンクンへ移動 書類整理・評価レポート作成	カンクン
9	9/15 月	成田発(17:15 JL12)→メキシコシティ着(19:00 JL12)				書類整理・評価レポート作成 専門家チームとの打合せ	コンサルダント・カンクン 回廊・石塚・メキシコシティ
10	9/16 火	カンクンに移動 専門家チームと打合せ			JICA事務所との打合せ (18日夜チエトウマル着)		カンクン
11	9/17 水	ラサロ・カルデナスへ移動 アクア・アスル村女性グループ視察→ラサロ・カルデナス支所訪問→ヌエボ・ドゥランゴ村女性グループ視察 バジャドリッドへ移動→(Valat民芸品店)視察・インタビュー					バジャドリッド
12	9/18 木	ホセ・マリア・モレロスへ移動 ワイ・マツジュ村女性グループ視察→ホセ・マリア・モレロス支所訪問→プレスマミダ村女性グループ視察 チエトウマルへ移動					チエトウマル
13	9/19 金	女性庁長官表敬・生産強化部との協議(PDM修正案等)					チエトウマル
14	9/20 土	合同評価レポート、M/M案作成・修正					チエトウマル
15	9/21 日	合同評価レポート、M/M案作成・修正					チエトウマル
16	9/22 月	合同評価レポート、M/M案協議					チエトウマル
17	9/23 火	合同評価レポート、M/M案協議					チエトウマル
18	9/24 水	メキシコシティへ移動 M/M署名 JICA事務所報告					チエトウマル
19	9/25 木					メキシコシティ着(8:10 JL5781)	メキシコシティ
20	9/26 金					日本着(16:40 JL061)	

プロジェクト名：メキシコ合衆国キンタナ・ロー州マヤ族居住地域女性支援計画
 プロジェクト期間：2007年3月～2010年3月
 PDM 0 (2006年12月)

3. PDM
 ① PDMO

対象地域：キンタナ・ロー州3市 (José María Morelos/ Felipe Carrillo Puerto/ Lázaro Cárdenas)
 ターゲット・グループ：キンタナ・ロー州女性庁 (10M) 職員及び対象3市民芸品生産者

プロジェクト要約	指標	入手手段	外部条件
<p>上位目標</p> <p>キンタナ・ロー州マヤ族居住地域で生産される民芸品の販売量が向上する。</p>	<p>1. キンタナ・ロー州マヤ族居住地域の女性が製造する民芸品の販売量の推移 2. キンタナ・ロー州マヤ族居住地域の女性が製造する民芸品販売により得られる収入の推移</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● C/Pインタビュー ● 女性インタビュー ● 民芸品店インタビュー 	
<p>プロジェクト目標</p> <p>観光地での市場調査の実施とこの結果に基づいた民芸品の改善及び新製品の開発がマヤ族居住地域で行われる。</p>	<p>観光地での市場調査に基づいた民芸品の改善がマヤ族居住地域で行われた件数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト報告書 ● C/Pインタビュー ● 日本人専門家インタビュー ● 女性インタビュー 	
<p>成果</p> <p>(1) 女性庁の組織強化が図られる。 (2) マヤ族居住地域における民芸品製造者の組織強化及び組織強化が図られる。 (3) 既存の民芸品の品質が改善される。 (4) 既存の民芸品のデザインが改善されるとともに、新製品の開発が行われる。 (5) 販売促進活動が実施される。 (6) 民芸品のデザイン・製品の保護活動が実施される。 (7) マヤ族居住地域民芸品製造者と民芸品協力店との協働体制の構築。</p>	<p>(1)-1 女性庁による現場調査の実施回数と調査結果の質の評価 (1)-2 他機関との連携、手続きの簡素化ほか女性庁の組織強化に係る取り組み結果の評価 (2)-1 民芸品製造者の組織数の変化 (2)-2 組織の結束度の評価 (3) 民芸品製造者により製造される民芸品の質の評価 (4) 民芸品製造者により製造される民芸品のデザインと新製品の評価 (民芸品店や観光客の評価) (5) 民芸品製造者により製造される民芸品の販売量・販売額が増加する (6) 民芸品の保護策の種類と実施件数 (7) 民芸品協力店からの提案に基づくマヤ族居住地域における民芸品の改善あるいは開発件数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト報告書 ● C/Pインタビュー ● 農家リーダー、小規模農家インタビュー ● 販売促進機関インタビュー ● 民芸品協力店インタビュー ● 市場調査結果 	

活動	投入		
<p>(1)-1 女性庁職員に対する調査手法（市場調査、迅速農村調査法ほか）に係る研修の実施</p> <p>(1)-2 女性庁の組織強化に係る活動（他機関との連携、手続きの簡素化ほか）の実施</p> <p>(2)-1 民芸品製造者の組織化</p> <p>(2)-2 組織強化のための活動（規約の策定、RFC（納税者番号）取得ほか）</p> <p>(3)-1 女性庁職員に対する民芸品の改善手法に係る研修の実施</p> <p>(3)-2 女性庁職員による民芸品販売店での市場調査と民芸品製造へのフィードバック</p> <p>(3)-3 民芸品製造指導者に対する民芸品の改善に係る研修の実施</p> <p>(3)-4 民芸品製造者に対する民芸品の改善に係る研修の実施</p> <p>(3)-5 民芸品製造者による自主的な民芸品の改善活動の実施</p> <p>(4)-1 女性庁職員に対するデザインの改善及び新製品の開発手法に係る研修の実施</p> <p>(4)-2 女性庁職員による民芸品販売店での市場調査と民芸品製造へのフィードバック</p> <p>(4)-3 女性庁におけるデザイン登録制度の導入</p> <p>(4)-4 民芸品製造指導者に対するデザインの改善及び新製品の開発に係る研修の実施</p> <p>(4)-5 民芸品製造者に対するデザインの改善及び新製品の開発に係る研修の実施</p>	<p><メキシコ側></p> <p>1. C/P人員配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト・ディレクター ● プロジェクト・マネジャー ● プロジェクト関連10M職員 ● 支援要員配置 ➢ 秘書 ➢ 運転手 ➢ その他支援要員 <p>2. 建物ほかプロジェクト実施に必要な資機材</p> <p>3. オフィススペースほか日本人専門家・会合に必要な資機材</p> <p>4. 電気、ガス、水道、電話、インターネットアクセス、家具などの資機材サービス</p> <p>5. その他双方合意の下、必要と判断される資機材</p> <p>6. 日本側資機材供与に関する付加価値税支払い</p>	<p><日本側></p> <p>1. 専門家派遣</p> <p>(1) 短期専門家</p> <ul style="list-style-type: none"> ● チーフアドバイザー ● その他プロジェクト目標達成に必要な専門家 <p>2. プロジェクト運営コスト</p> <p>3. 資機材供与</p> <p>4. その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性の生活向上がキナンタナ・ロー州政府開発計画の主要項目であること。 ● 洪水、旱魃、台風といった当地域に壊滅的打撃を与える出来事が起こらないこと。 <p>前提条件</p> <p>女性庁が消滅しない</p>

<p>(4)-6 マヤ文化・マヤの文様の勉強会の実施と製品への応用</p> <p>(4)-7 民芸品製造者による自主的な民芸品のデザイン改善及び新製品開発の実施</p> <p>(5)-1 民芸品協力店の開拓</p> <p>(5)-2 民芸品協力店における民芸品の販売方法の改善</p> <p>(5)-3 女性庁による広報活動の実施</p> <p>(6)-1 女性庁職員、民芸品協力店、民芸品製造者に対する知的財産権に係る研修の実施</p> <p>(6)-2 純正品保証ラベルほかデザイン・製品保護策の導入</p> <p>(7)-1 民芸品協力店関係者によるマヤ族居住地域の民芸品製造現場への訪問の実施</p> <p>(7)-2 民芸品製造者による市場理解のため、民芸品協力店への訪問の実施</p>		
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

プロジェクト名: キンタナ・ローマヤ族居住地域女性支援計画

対象地域: キンタナ・ローマヤ州全域

ターゲットグループ: 女性庁・生産強化部と支所

協力期間: 2007年3月～2010年3月



PDM1
作成: 2008年9月

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p>上位目標 民芸品改善・開発支援モデル(以下、「支援モデル」と略記)を活用して支援を受けた女性グループの収入が向上する。</p>	<p>・ 支援によって得られた女性の収入が増加する。 ・ 支援モデルを活用して改善・開発された民芸品の種類が増加する。 ・ 支援モデルが適用された女性グループの数が増加する。 ・ 高級ブティック・民芸品店に納品された民芸品の数が増加する。</p>	<p>・ 支援モニタリング記録(情報システムのデータ)</p>	<p>・ 地域に決定的なダメージを引き起こす災害(洪水、旱魃、ハリケーンなど)が起こらない</p>
<p>プロジェクト目標 女性庁・生産強化部による女性グループへの支援モデルが確立される。</p>	<p>プロジェクト終了時に、女性庁が支援するプロジェクト対象グループへの民芸品生産支援が、支援モデルに沿って実施されている。</p>	<p>・ 対象グループへのインタビューによる確認 ・ プロジェクト業務進捗報告書 ・ 支援モデル(民芸品生産支援プログラム、生産業務マニュアル等で構成)の理事会付議状況</p>	<p>・ 地域に決定的なダメージを引き起こす災害(洪水、旱魃、ハリケーンなど)が起こらない</p>
<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 調査機能の強化: 現状の把握や活動を実施するために必要な情報が収集・整理される。 運営管理機能の強化: 女性庁生産強化部が運営管理手法を習得し適用する(支所の生産強化部所掌の業務を含む)。 調整・連携機能の強化: 女性庁生産強化部と関係組織との調整及び連携が構築される。 支援プログラムの構築: 女性庁生産強化部と関係支所による対象女性グループへの実証プロジェクトを通して、民芸品生産支援プログラムが作成される。 情報管理能力の強化: 支援業務に関する情報の適切な管理と活用が行われる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. キンタナ・ローマヤ州の民芸品市場の現状調査が実施され情報が報告書にまとめられ、更新されている。 1-2. プロジェクト対象地域の村落の現状調査が実施され情報が報告書にまとめられ、更新されている。 1-3. プロジェクト対象地域で実施された調査情報が、支援プロジェクト形成時に何らかの形で活用されている。 2-1. 女性グループの生産支援業務マニュアル(ドラフト)が作成されている。 2-2. 作成された生産支援業務マニュアルの検証が行われている。 3-1. 支援スキーム活用ガイド(パンフなど)案が作成されている。 3-2. プロジェクト終了時に、民芸品を制作する女性グループが受けられる支援スキームをもつ関係機関と会議が開催されている。 3-3. 民芸品製作者と協力者/民芸品販売店とのマッチングの機会(品評会や商品紹介イベントなど)が年に2回以上実施される。 4-1. 改善・開発された民芸品の種類が増加する。 4-2. 改善・開発された民芸品の品質の評価が向上する。 4-3. 改善・開発された民芸品の販売が増える。 4-4. 民芸品生産支援プログラムが適用される女性グループの能力が向上する(意識、知識面等)。 5-1. プロジェクト情報管理の仕組みができていく。 5-2. C/P職員が情報システムで有益な情報を更新している。 5-3. C/P職員の70%が、更新・蓄積された情報をそれぞれの活動に活用している。 	<p>・ 民芸品市場調査報告書</p> <p>・ 対象地域(3つの市)の農村簡易調査報告書</p> <p>・ プロジェクト形成者へのインタビュー、プログラムのレビュー</p> <p>・ 生産支援業務マニュアル</p> <p>・ プロジェクト業務進捗報告書</p> <p>・ 作成された活用ガイド(案)</p> <p>・ 会議の議事録</p> <p>・ 業務進捗報告書(マッチングに関する箇所)</p> <p>・ プロジェクト進捗報告書</p> <p>・ 品評会の結果</p> <p>・ 販売記録</p> <p>・ 対象グループへのインタビュー</p> <p>・ 情報の種類別に整理できる仕組み</p> <p>・ 情報システムの更新記録</p> <p>・ 情報の活用度(C/P職員へのインタビュー、アンケート)</p>	<p>・ 地域に決定的なダメージを引き起こす災害(洪水、旱魃、ハリケーンなど)が起こらない</p>

<p>活動</p> <p>1-1. 女性や女性グループが受けられる支援スキームの情報を整理し、取りまとめる。</p> <p>1-2. 市場調査を実施して、市場の現状やニーズを把握する。</p> <p>1-3. 民芸品店から民芸品市場の情報を入手し、既存の情報を更新する。</p> <p>1-4. プロジェクト対象地域の現状や女性グループのニーズ調査を実施する。</p> <p>1-5. 追加調査を実施し、情報を更新する。</p> <p>1-6. 民芸品の生産に必要な材料の情報を収集・整理する。</p> <p>2-1. 生産支援に係る生産強化部(対象3支部を含む)の機能と責任範囲を明確にする。</p> <p>2-2. 現状に適した生産支援に係る生産強化部内戦略を策定する。</p> <p>2-3. 生産支援に係る生産強化部と支所の活動及び予算計画を策定する。</p> <p>2-4. 生産支援に係る計画の立案、モニタリング、評価の手法を習得する。</p> <p>2-5. 生産支援に係る計画の実施管理(モニタリング)を行う。</p> <p>2-6. 活動の結果を取りまとめ、生産支援に係る業務マニュアルを作成する。</p> <p>3-1. 支援スキームをもつ組織との会議の開催などを通して情報を共有する。</p> <p>3-2. 民芸品製作者と協力者/民芸品販売店とのマッチングなどのイベントを実施する。</p> <p>4-1. 対象地域において、支援対象となる女性グループを発掘し選定する。</p> <p>4-2. 他の組織がもつ女性や女性グループの活動を支援するスキームの活用ガイドラインを作成する。(1-1の情報を利用して)</p> <p>4-3. 講師の所在を確認し、支援の実施に活用する。</p> <p>4-4. 既存の民芸品とその作製技術を評価し、民芸品の改善と新製品の開発を行う(デザイン改善、生産プロセス改善を含む)。</p> <p>4-5. 民芸品の生産管理の指導を行い、生産された商品の販売促進を支援する(イベントやウェブページの開設を含む)。</p> <p>4-6. 民芸品を製作する対象女性グループに対して、組織の形成と機能強化の指導を行う。</p> <p>4-7. 活動の結果を取りまとめ、民芸品生産支援プログラムを作成する。</p> <p>5-1. プロジェクト実施上、必要な情報を整理し、情報管理の仕組みをつくる。</p> <p>5-2. 情報共有の取り組みを理解し、活動とその結果などの情報を情報管理の仕組みに基づいて更新する。</p> <p>5-3. 更新・蓄積された情報(フィールドレポート、各種調査情報、各種フォーム、マニュアルなど)を、プロジェクト活動の実施に活用する。</p>	<p>投入</p> <p>メキシコ側</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. C/P 人員配置 ・プロジェクト・ディレクター ・プロジェクト・マネージャー ・プロジェクト関連 IQM 職員 ・管理スタッフ(秘書、運転手、その他の支援スタッフ) <p>2. 建物ほかプロジェクト実施に必要な資機材</p> <p>3. オフィススペースほか日本人専門家・会合に必要な資機材</p> <p>4. 電気、ガス、水道</p> <p>5. その他双方合意の下、必要と判断される資機材</p> <p>6. 日本側からの供与機材に係る付加価値税</p> <p>7. プロジェクト実施に関するローカルコストの一部負担</p> <p>日本側</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 専門家派遣 ・チーフアドバイザー ・その他プロジェクト目標達成に必要な短期専門家 <p>2. プロジェクト実施に関する運営コストの一部負担</p> <p>3. 資機材供与</p> <p>4. 業務に必要なその他の資機材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に決定的なダメージを引き起こす災害(洪水、旱魃、ハリケーンなど)が起こらない ・女性対象の支援スキームの規模や数が現状以下にならない。 <p>前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性庁がなくなかない。 ・政府の女性支援政策が継続して施行される。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

メキシコ合衆国キンタナ・ロー州マヤ族居住地域女性支援計画中間評価グリッド（プロジェクトの実績）

*J：日本人専門家、C/P/Q：カウンターパートへの質問状

4. 評価グリッド

大項目	評価項目		評価設問	必要なデータ・情報源	データ収集方法
	小項目				
実績	活動の実績		活動は計画どおりに実施されているか	プロジェクトの実績	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問
	投入の実績		[日本側の投入] ・ 専門家の数、派遣分野、派遣時期 ・ C/P 研修の内容、数 ・ 供与資機材の内容、数 ・ 現地コストの投入額 [メキシコ側の投入] ・ C/P の数、専門分野、配属期間 ・ 提供された土地、建物、施設の内容 ・ プロジェクト経費の投入額	プロジェクトの実績	プロジェクト報告書、関係者（J）への質問
	成果の達成度		成果はどれくらい達成されているか	プロジェクトの実績	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問
	活動の進捗状況		① プロジェクトの進捗状況は良好か ② 活動実施に影響を与えた問題はあるか、その解決手段はどのようなものか	プロジェクトの実績	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問
実施プロセスの検証	技術移転の方法		専門家と C/P との関係	プロジェクトの実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問
	プロジェクトのマネージメント体制		① マネージメントの体制はどうか ② モニタリングの体制と実施方法はどうか ③ PDM はどのように活用されているか	プロジェクトの実績、プロジェクト報告書の提出度	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問
	C/P の認識度		① メキシコ側はオーナーシップをもっているか ② メキシコ側の意識は変化しているか	プロジェクト実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q、JCC）への質問
	ステークホルダーの参加度・関心度		① ターゲットグループ（民芸品生産者）は活動への参加度合いや認識は高いか ② その他関連機関〔合同調整委員会（JCC）〕はプロジェクトにどのように関係しているか	プロジェクトの実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問、女性グループ・関連機関への質問

メキシコ合衆国キンタナ・ロー州マヤ族居住地域女性支援計画中間評価グリッド（評価5項目）

大項目	評価項目		評価設問	必要なデータ・情報源	データ収集方法
	小項目				
妥当性	プロジェクトを実施する必要性		① 対象地域・社会のニーズに合致しているか ② ターゲットグループのニーズと合致しているか	事前評価結果、社会経済調査資料、プロジェクト報告、関係者の認識	事前評価報告書、ベースライン調査、市場調査報告、プロジェクト報告書、関係者（J、C/PQ）への質問
		優先度	① 相手国開発政策との整合性はあるか ② 日本の援助政策との整合性はあるか	事前評価結果、プロジェクト報告、政策資料、JICA資料	プロジェクト報告書、関係者（C/PQ）への質問、政府・女性庁出版物等、JICA 国別援助計画、JICA 担当者への質問
	手法としての適切性		① プロジェクトのデザインや活動計画は、対象地域の貧困対策と女性支援の手法として適切か ② 対象地域の選択は適切か ③ ターゲットグループの選定は適正か ④ プロジェクトの効果は公平に分配されているか ⑤ 日本が協力する比較優位はあるか	プロジェクトの実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/PQ）への質問、女性グループへの質問
		その他	事前評価以降、プロジェクトをとりまく環境の変化があるか	プロジェクト報告、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/PQ）への質問
		プロジェクト目標の達成予測	① プロジェクト目標が達成される見込みはあるか ② プロジェクト目標達成を阻害する要因はあるか、どのような対処がなされたか	プロジェクト実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、市場調査結果、女性庁活動記録、関係者（J、C/PQ）への質問、女性グループへの質問
有効性	アウトプットとプロジェクト目標との因果関係	① 適切なアウトプットが設定されているか ② アウトプット間の相乗効果が考えられているか ③ アウトプットからプロジェクト目標に至るまでの外部条件の設定は正しいか。充足される可能性は高いか ④ そのほかに外部条件が存在するか	プロジェクト報告、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/PQ）への質問	
	アウトプットの産出予測	① アウトプットの達成度は適切か ② 達成を阻害する要因は何か、どのような対処方法がとられているか	プロジェクトの実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/PQ）への質問	
効率性	投入及び活動とアウトプットの因果関係		① プロジェクト活動はアウトプットを産出するために十分に十分であったか ② アウトプットを産出するために適切な投入がなされているか ③ 他により費用対効果の高いやり方が考えられるか ④ 外部条件が充足される可能性は高いか ⑤ そのほかに外部条件は存在するか	プロジェクトの実績、州開発計画、関係者の認識、類似案件との比較	プロジェクト報告書、関係者（J、C/PQ）への質問、類似案件報告書

大項目	評価項目		評価設問	必要なデータ・情報源	データ収集方法	
	小項目					
インパクト	投入のタイミニング・量・質の適切性		<ul style="list-style-type: none"> ① 専門家の人数、タイミニング、分野は適正か ② 供与機材の種類、機種、数、タイミニングは適正か ③ 研修員の受入れのタイミニング、人数、研修内容は適正といえるか ④ プロジェクト運営費の量、タイミニングは適正といえるか ⑤ 活用されていない投入はあるか ⑥ 配置されたC/Pの人数、タイミニング、分野は適正か ⑦ 供与された施設設備の規模、タイミニング、質は適正といえるか 	プロジェクトの実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問	
		因果関係	<ul style="list-style-type: none"> ① 上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか ② プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件の設定は適切か、外部条件が満たされる可能性は高いか 	プロジェクトの報告、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問	
		波及効果	<p>[想定外のプラスの要因の有無]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 他の機関への波及効果の事例はあるか ② 政策・法律・制度への影響、ジェンダー・人権への影響、貧富の差など社会・文化的側面への影響、技術面での変革はみられるか ③ 対象社会・プロジェクト関係者・受益者などへの経済的影響はあるか <p>[想定外のマイナスの要因の有無]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 他の機関へのマイナスの影響はみられるか ② 政策・法律・制度への影響、ジェンダー・人権への影響、貧富の差など社会・文化的側面への影響、技術面でのマイナスの影響はみられるか ③ 対象社会・関係者・受益者などへのマイナスの経済的影響はあるか ④ 負の影響が生じている場合、何か対策がとられているか 	プロジェクトの報告、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問、関連機関への質問	
	政策・制度面		<ul style="list-style-type: none"> ① 関連規制、法制度は整備されているか、される予定か ② 制度的支援は協力終了後も継続するか 	プロジェクトの報告、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問、女性グループへの質問	
		組織面	<ul style="list-style-type: none"> ① 女性庁生産強化部の事業実施能力や調整能力は向上しているか ② 対象女性グループの活動実施能力や調整能力は向上しているか 	プロジェクトの報告、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問	
		財政面	終了後の女性グループへの支援モデルの実施に対する女性庁の支援は、財政的に可能か	プロジェクトの報告、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問	
	自立発展性	技術面	<ul style="list-style-type: none"> ① C/Pは定着しているか ② 移転した技術は活用されているか（定着しているか） ③ プロジェクトで実施支援した各種活動は持続可能か ④ 施設・機材は維持管理されているか 	プロジェクトの実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問、女性グループへの質問	
		社会・文化・環境面	<ul style="list-style-type: none"> ① 女性、貧困層、社会的弱者への配慮不足により持続的影響を妨げる可能性はないか ② 環境への配慮不足により持続的影響を妨げる可能性はないか 	プロジェクトの実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問、女性グループへの質問	
		促進・阻害要因		<ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクトで得られた効果が引き続き発現していくために必要な要因（促進要因）は何か ② プロジェクトで得られた効果が引き続き発現していく際に阻害要因となるものは何か 	プロジェクトの実績、関係者の認識	プロジェクト報告書、関係者（J、C/P/Q）への質問

5. プロジェクト投入実績一覧

プロジェクト投入実績

1. 専門家派遣実績(2008年9月1日現在)

専門家氏名	指導科目	派遣期間	所属
和田 泰志	総括/組織強化 1	1年次: ・07年3月12日～19日 2年次: ・07年7月2日～8月1日 ・07年10月4日～11月3日 ・08年2月15日～3月15日 3年次: ・08年5月12日～6月14日 ・08年8月4日～現在	アイ・シー・ネット(株)
朝倉 麻耶	組織強化 2	2年次: ・07年6月15日～12月26日 ・08年1月16日～3月15日 3年次: ・08年5月18日～7月31日	アイ・シー・ネット(株)
キャンディス・クルーメル	民芸品開発・改善 1	1年次: ・07年3月12日～18日 2年次: ・07年7月2日～10月14日 ・07年11月23日～12月22日 ・08年2月1日～3月16日 3年次: ・08年5月15日～7月13日	アイ・シー・ネット(株)
伊藤 拓次郎	民芸品開発・改善 2	2年次: ・07年11月27日～12月22日 ・08年2月11日～3月15日 3年次: ・08年5月26日～6月28日	アイ・シー・ネット(株)
神谷 マルコ	市場調査	2年次: ・07年6月25日～8月28日 ・07年10月14日～11月27日 ・08年2月3日～3月18日	アイ・シー・ネット(株)
渡辺 知子	調査手法/女性組織	2年次: ・07年6月6日～7月5日 ・07年8月8日～10月6日 ・07年11月11日～12月10日 ・08年3月1日～15日 3年次: ・08年6月23日～8月6日	アイ・シー・ネット(株)
戸田 めぐみ	市場調査/市場開拓	3年次: ・08年5月17日～6月30日 (・7月1日～8月31日) ・08年9月1日～現在	アイ・シー・ネット(株)
戸田 めぐみ	業務調整	2年次: ・07年6月19日～8月15日 ・07年10月23日～12月24日 ・08年1月2日～3月8日 *うち2ヵ月分は JICA 負担による派遣、残りはアイ・シー・ネット社負担。	アイ・シー・ネット(株)

大垣 菜都子	業務調整	3年次: ・08年9月1日～現在	アイ・シー・ネット(株)
--------	------	---------------------	--------------

2. カウンターパート研修実績

研修員氏名	受入期間	協力分野名	研修内容及び受入機関	当時の役職	現在の役職及び離職年月、離職先
Augusto Cesar Salgado Sangri	07年8月11日～15日	民芸品市場	民芸品市場研修(Market Readiness Program) Aid to Artisans	生産強化部長	同左
Maria Hadad Castillo	同上	同上	同上	女性庁長官	07年12月離職
Maria Ady Pech Poot	08年6月9日～13日	木製民芸品作製	ルスティック家具・木工製品作製 Instituto Omega	ラサロ・カルデナス市ヌエボ・ドゥランゴ、グループメンバー	同左
Mirley Vianely Gonzalez Valdez	同上	同上	同上	ラサロ・カルデナス市ヌエボ・ドゥランゴ、グループ代表	同左

3. 日本側機材(その他機材)実績及び利用状況

機材番号	設置時期	機材名	型式	台数	購入価格(単価)(メキシコペソ)	設置場所	現在の稼働の有無	非稼働の場合いつからか及びその理由
1	07年7月	会議机	76x244	1	898.99	プロジェクト事務所	有	
2	07年6月	事務椅子	Neumatica	3	1,025.67(341.89/脚)	プロジェクト事務所	有	品質劣化により1脚破損
3	07年7月	事務机	120mm x 75mm x 75mm	1	2,257.20(2,257.20/台)	プロジェクト事務所	有	
5	07年7月	キャビネット	MP Steel 4 Gebetas	2	4,196.00(2,098.00/台)	プロジェクト事務所	有	
6	07年7月	電話機	Inalambrica C/ld	2	1,198.00(599.00/台)	プロジェクト事務所	有	
7	07年7月	コルクボード	90x120	2	1,000(500.00/枚)	プロジェクト事務所	有	
8	07年7月	模造紙用三脚	Triple Tri-M Plata	1	1,737.99	プロジェクト事務所	有	
9	07年7月	プリンター	Hp Laser 2605dn	2	9,268.05(4,634.025/台)	プロジェクト事務所	有	
10	07年8月	デジタル録音機	Vanta Vox-70	3	7,196.97(2,398.99/台)	プロジェクト事務所	有	
11	07年8月	コピー機	Xerox M118-b	2	77,000.00(38,500.00/台)	プロジェクト事務所	有	
12	07年10月	プロジェクター	Sony VPL-CX21	1	15,299.09	プロジェクト事務所	有	
13	07年10月	PCソフト	Office 2007	2	9,597.99(4,798.995/個)	プロジェクト事務所	有	
14	07年10月	デスクトップPC	HP Pavilion M8050	2	35,818.20(17,909.1/台)	プロジェクト事務所	有	
15	07年10月	スクリーン	60x60	2	2,797.99(1398.995/台)	プロジェクト事務所	有	

16	07年10月	デジタルカメラ	Canon Powershot S5IS	2	13,011.10 (6,505.55/台)	プロジェクト事務所	有	
17	07年11月	スキャナー	Hp Scanner Jet G4050	2	3,782.79 (1,891.395/台)	プロジェクト事務所	有	
18	07年11月	ビデオカメラ	Sony Handy Cam R62	2	17,198.00 (8,599.00/台)	プロジェクト事務所	有	
19	07年11月	事務椅子	Neumatica	3	1,221.00 (407.00/脚)	プロジェクト事務所	有	
20	07年11月	ファックス	HP 1050	2	3,057.05 (1,528.525/台)	プロジェクト事務所	有	
21	07年11月	無停電電源装置	OMNI VS1000 8 Cont	4	10,762.84 (2,690.71/台)	プロジェクト事務所	有	
22	07年11月	PCソフト	Norton Antivirus	2	999.98 (499.99/個)	プロジェクト事務所	有	
23	07年11月	ホワイトボード	90x2.40	2	1835.06 (917.53/台)	プロジェクト事務所	有	
24、25	07年10月	PCソフト	Adobe Creative、Microsoft Publisher	各2	47,078.70	プロジェクト事務所	有	
26	07年12月	カメラ3脚	Solidex tripie	1	237.21	プロジェクト事務所	有	
27～74、80～88	08年1月～3月	民芸品品質・デザイン改善に係る職業訓練に必要な簡易機材(小型機材複数)		319	38,755.80	プロジェクト事務所(一部女性グループへ貸し出し)	有	
75～79	08年1月	刺繍用ミシン	SINGER Modelo 20U N. U064205198	5	45,001.00 (9,000.20/台)	プロジェクト事務所(一部女性グループへ貸し出し)	有	
89	08年6月	ミシン	SINGER Serie N. W1494207	1	10,500.00	女性グループへ貸し出し	有	
90	08年5月	ハードディスク	320IDE WD de 3.5	2	3,094.02 (1547.01/台)	プロジェクト事務所	有	
92	08年6月	事務机	De escuadra	1	1,525.00	プロジェクト事務所	有	
93	08年7月	キャビネット	4Gabetas	1	2,089.00	プロジェクト事務所	有	

4. 現地で開催したセミナーの実績

年度	コース名 (研修内容)	開催日	期間	参加人数	対象者	備考等
2007	PCM 研修(計画立案)	07年7月9日～11日	3日間	14人	女性庁職員。本庁研修・生産強化部職員5人、プロジェクト対象3市の支所職員各3人。	
2007	RRA 手法研修	07年6月11日～13日	3日間	21人	女性庁職員。本庁研修・生産強化部、教育・保健部、計画・継続・評価部職員計12人、プロジェクト対象3市の支所から職員3人ずつ計9人。	
2007	市場調査手法概論	1回目:07年7月11日 2回目:07年11月21日	2日間	1回目:14人 2回目:8人	女性庁職員。1回目:研修・生産強化部職員5人、プロジェクト対象3市の支所職員各3人。2回目:研修・生産強化部職員8人。	
2007	民芸品スタディツアー	07年12月16日～20日	5日間	8人	女性グループ代表者、女性庁職員。ラサロ・カルデナス市女性グループ代表者6人、女性庁本庁研修・生産強化部職員1人、ラサロ・カルデナス市支所職員1人。	

2008	先進女性民芸品製造者グループ視察(Fomento Cultural Banamex 支援グループ)	08年7月10日	1日間	17人	女性グループメンバー、女性庁本庁、支所職員。ラサロ・カルデナス市の5グループから3人ずつの(計15人)、同市支所職員1人、本庁職員1人。
2008	先進女性民芸品製造者グループ視察(Fomento Cultural Banamex 支援グループ)	08年7月17日	1日間	18人	女性グループメンバー、女性庁本庁、支所職員。ホセ・マリア・モレロス市の5グループから3人ずつ(計15人)、同市支所長、ボランティア勤務のスタッフ1人、本庁職員1人。

5. ローカルコスト負担実績

(1) 日本側投入実績

年度	項目	金額(円)	備考
2007	一般業務費	11,022,000	傭人費、消耗品費、通信費、資料等作成費、現地研修費など。2007年度精算額。
2007	機材購入費	3,752,000	
2008	一般業務費(7月末時点)	2,252,088	傭人費、消耗品費、通信費、資料等作成費、現地研修費など。
2008	機材購入費(7月末時点)	153,457	

(2) メキシコ側投入実績

年	項目	金額 (メキシコペソ)	備考
2007	メキシコ側負担	82,976	・供与機材付加価値税(38,455) ・車両税(1,500) ・保険代(11,340) ・プロジェクト事務所整備費(21,000) ・車両整備費(10,681)
2008	メキシコ側負担 (2008年8月現在)	27,923	・車両税(1,192) ・保険代(13,113) ・車両整備費(14,698)

6. カウンターパート(C/P)配置実績一覧

(氏名、協力期間中の役職、専門分野、研修期間、技術移転を行った専門家氏名等)

C/Pの氏名 及び役職	C/Pの 専門分野	配置期間	技術移転を行った 専門家氏名	実施機関で の勤務期間	備考等 (職歴など)
女性庁本庁 研修・生産強化部					
Augusto César Salgado Sangri	生産強化部長	07年3月～ 現在	和田 泰志 伊藤拓次郎	勤務年数 11年	タバスコ州政府機材賃貸部 助手、タバスコ州馬再生産 センター担当、民間企業、 女性庁技術部長
Daniela Ix Benitez	コーディネーター	07年3月～ 現在	朝倉 麻耶	勤務年数 2.5年	生産プロジェクトコンサルタ ント、民間村落連合組織
Evangelina Sosa Briceño	研修部門/チーフ	07年3月～ 現在	朝倉 麻耶	勤務年数 8年	ホテル、オトンペ・ブランコ市 支所勤務
Yarime Martinez	研修部門/アシスタ ント	07年3月～ 08年2月	—	勤務年数 1年	IQM 計画・モニタリング・評 価部に異動
Oscar Ruiz Hernández	研修部門/アシスタ ント	07年6月～ 08年3月	キャンディス・ク ルーメル		離職
Vanessa Rodriguez Morales	生産強化部門/チー フ	08年7月～ 現在	キャンディス・ク ルーメル	勤務年数 8年	CETMAR、CONALEP、 IQM 総務部署

Gabriela Campos Villaseñor	研修部門/専門職	08年7月～ 現在	渡辺 知子	勤務年数 5年	州財務局、個人店舗、IQM 本庁、オトン・ペ・ブランコ市 支所
Lucely Guadalupe Rodriguez Gomez	研修部門/専門職	08年8月～		勤務年数 7年	オトン・ペ・ブランコ市役所
Grethel E. Cárdenas Palomo	生産強化部門/専門職	07年3月～ 現在	戸田 めぐみ	勤務年数 2年	新聞社(La Cronica、 Quequi)、建設グループ MEGADUR、ITCH
Maricela del Carmen Caamal Huchín	生産強化部門/専門職	07年3月～ 現在	戸田 めぐみ	勤務年数 1.7年	軍駐在地、CONALEP、 INEA、法律事務所、靴屋、 スーパー
Debbie Osiris Delgado Villamonte	情報分野/アシスタント	08年7月～ 現在	—	勤務年数 4年	
Asunción Roquelda Aragón Lorenzana	研修・研修生産強化部門/アシスタント	07年3月～ 現在	—	勤務年数 10年	
女性庁 ラサロ・カルデナス支所					
Yrene Pat Chim	前支所長	07年3月～ 07年12月		勤務年数 10年	2007年まで支所長、一時 離職後、現在支所コーディネータとして復職
Trinidad Ancona Chi	現支所長	07年12月～ 現在		07年12月～ 現在	支所長就任前は SEDARI ラサロ支所に勤務
Pablo Cen Pool	生産強化担当	07年3月～ 現在		勤務年数 10年	民間企業スーパーバイザー
Maria Celestina Koyoc Pech	研修担当	07年3月～ 現在			08年初めまでは支所内の 教育・保健担当者だった。
女性庁 ホセ・マリア・モロス支所					
Leidy Noemi Blanco	前支所長	07年3月～ 11月あるいは12月		～07年11 月あるいは 12月	2007年まで支所長、一時離 職後、現在支所コーディネ ーターとして復職
Yesenia Ortiz Estrella	現支所長	08年5月～ 現在		08年5月～ 現在	ホセ・マリア・モロス市議 (2005～2007)
Julio Cesar Carrillo Hernandez	研修・生産強化担当	07年3月～ 現在		勤務年数 4年	
Lucy Maribel Blanco Angulo	教育・保健担当	07年3月～ 現在		勤務年数 5年	
Maria de Jesus Anguas Cauich	アシスタント	07年3月～ 現在			
Amira Sierra Cauich	用務員	07年3月～ 現在			
女性庁 フェリペ・カリジョ・プエルト支所					
Maria Teresa Cruz Quintal	前支所長	07年3月～ 11月あるいは12月		～07年11 月あるいは 12月	2007年まで支所長
Marbella Suarez Aguilar	現支所長	08年1月～ 現在		08年1月～ 現在	
Rosa Beatriz Concha Puga	研修担当	07年3月～ 現在		勤務年数 10年	
Jorge Armin Santos Rivas	生産強化担当	07年3月～ 現在		勤務年数 1.7年	

以上

6. 活動実績（活動進捗表）

① 活動進捗表（PDMO に対応）

活動進捗表（PDMO に対応）

<p>1-1 女性庁職員に対する調査手法（市場調査、迅速農村調査法ほか）に係る研修の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年7月に市場調査手法の概要研修を実施。 ・2007年6月に迅速農村調査法の研修を実施、2007年度中に6件の現地調査を実施してOJTで実施方法を技術移転した。調査済みの6村の調査報告書を作成した。その後、2007年度中にC/Pのみで2件の迅速農村調査を実施。
<p>1-2 女性庁の組織強化に係る活動（他組織との連携、手続きの簡素化ほか）の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年7月にPCM手法の研修(計画立案)を実施。 ・2007年10月に合同調整委員会を形成・実施。 ・民芸品部をもつ州政府組織(経済開発局:SEDE)を訪問し、関係を構築した。 ・先住民支援を担当している連邦政府組織(国家先住民民族開発委員会:CDI)のキンタナ・ロー担当者を訪問し、協力関係を強化した。 ・2008年7月にPCM手法の研修(モニタリング評価)を実施。女性庁生産強化部の組織機能と、支所の民芸品作製支援の機能の整理を行い、マトリックスにまとめた。
<p>2-1 民芸品製造者の組織化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年度の支援対象地域(ラサロ・カルデナス市)で7つの女性グループを、選択基準に沿って選定し、これらのグループに対し、各種研修を実施。 ・2007年11月に、組織化に関するカリキュラムの内容を検討し、女性グループ組織機能マトリックスに取りまとめた。 ・2008年度の支援対象地域(ホセ・マリア・モレロス市)で6つの女性グループを、選択基準に沿って選定した。
<p>2-2 組織強化のための活動（規約の策定、納税者番号取得ほか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラサロ・カルデナス市の選定されたグループに、組織化の意味を理解することを目的としたワークショップを、各グループ1回、計5回実施。 ・ホセ・マリア・モレロス市の選定されたグループに、組織化の意味を理解することを目的としたワークショップを、各グループ1回、計5回実施。
<p>3-1 女性庁職員に対する民芸品の改善手法に係る研修の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性庁にはインストラクターなどの技術指導を行う職員はいないため、女性庁職員に対する民芸品改善を目的とした手法・技術研修は実施できない。
<p>3-2 女性庁職員による民芸品販売店での市場調査と民芸品製造者へのフィードバック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年10月から11月にかけてキンタナ・ロー州の観光地において市場調査を実施、報告書作成。翌年2月から3月に補足調査を実施、報告書の修正を行った。 ・民芸品市場調査の結果を支援対象女性グループにフィードバックした。 ・2007年8月、女性庁長官と生産強化部長をニューヨークで開催された国際民芸品フェアと民芸品市場セミナーに参加させ、市場の現状の理解を促した。
<p>3-3 民芸品製造指導者に対する民芸品の改善に係る研修の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラサロ・カルデナスの対象グループ代表者に対しスタディツアーを実施し、マヤ文化とアイデンティティの再認識、民芸品市場の現状把握、デザイン力習得、民芸品作製グループとの交流を行った。 ・インストラクター育成を目的に機械刺繍の技術とデザイン力の秀でたグループメンバーをメキシコシティの工房にインターンとして派遣。 ・ヌエボ・ドゥランゴのグループの2名を木工製品のインストラクター育成目的でニューヨークに派遣し、環境に配慮した倒木・流木木工にかかわる2週間の研修に参加させた。
<p>3-4 民芸品製造者に対する民芸品の改善に係る研修の実施</p>	<p>(ラサロ・カルデナス市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民芸品改善・開発のための研修をラサロ・カルデナス市の7つの女性グループごとに実施。うち、5つのグループが指導を受けた。現在は巡回指導を実施中。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューヨークから Rustic 家具のアーティストを招聘、対象地域の 2 グループに対して木工製品の作製指導を行った。 ・上記指導の結果、5 つのグループで試作品を作製し、デザイナー、民芸品店オーナーなどを招待して品評会を実施。 <p>(ホセ・マリア・モレロス市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象 6 グループのうち 3 グループに対して鉤針編み製品 1 回、リゾート用衣類 2 回、手刺繍製品 1 回の研修を実施。
3-5 民芸品製造者による自主的な民芸品の改善活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ラサロ・カルデナス市の 2 グループで地域の特性を反映させたデザイン(村落にある花のモチーフ)や、マヤ遺跡で見た文様からの木彫りのデザインの考案があった(ただし、木彫りのグループは 2 年次で活動を休止)。
4-1 女性庁職員に対するデザインの改善及び新製品の開発手法に係る研修の実施	上記 3-1 と同じ。
4-2 女性庁職員による民芸品販売店での市場調査と民芸品製造者へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ローカルコンサルタントを雇用して市場調査を実施。 ・女性庁職員に市場調査の設計と管理方法に関する研修を実施。
4-3 女性庁におけるデザイン登録制度の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・開発したデザインを保護するため販売先を制限する、専用の商品札を作成し、商品につけるなどの措置を講じた。
4-4 民芸品製造指導者に対するデザインの改善及び新製品の開発に係る研修の実施	上記 3-3 と同じ。
4-5 民芸品製造者に対するデザインの改善及び新製品の開発に係る研修の実施	上記 3-4 と同じ。
4-6 マヤ文化・マヤの文様の勉強会の実施と製品への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン研修の一環として遺跡・博物館見学(マヤ文様の視察)、カンクン、メキシコシティの民芸品店視察、アドバイザーチームによる製品の品評会を実施。
4-7 民芸品製造者による自主的な民芸品のデザイン改善及び新製品開発の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・上記 3-5 民芸品生産者による製品の改善のための自主的な活動と同じ。
5-1 民芸品協力店の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・キンタナ・ロー州内及び隣接するユカタン州にて民芸品、装飾品、衣料品を扱う店舗を訪問。12 店舗中、9 店舗がプロジェクトで作製した民芸品の販売に関心を表明。2008 年 8 月現在、取扱店舗数は 4 店舗、取扱品目数は 10 品目中、8 品目。
5-2 民芸品協力店における民芸品の販売方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・2008 年 8 月現在、プロジェクトの民芸品を取り扱っている協力店にて市場の動向、消費者の嗜好、トレンドをモニタリングし、販売線の改善に向けデータを収集中。
6-1 女性庁職員、民芸品協力店、民芸品製造者に対する知的財産権に係る研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者に対してプロジェクトで作製した民芸品のデザインに関する情報の取り扱いに関する研修を実施。
6-2 純正品保証ラベルほかデザイン・製品保護策の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の独自性確保を打ち出して販売先を厳選し、商品に独自性を示す札などをつけるなどの対応を行った。
7-1 民芸品協力店関係者によるマヤ族居住地域の民芸品製造現場への訪問の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・2007 年 12 月、民芸品店オーナーを含む協力者が生産者を訪問し、作製した商品の品評会をヌエボ・ドウランゴで実施。 ・2008 年 6 月には、初年度の支援対象 5 グループの研修修了式を実施し、民芸品オーナー、市役所、国家先住民開発委員会(CDI)やキンタナ・ロー州村落先住民開発局(SEDARI)などの関係者を招待して、関係者の生産現場の理解を促進した。
7-2 民芸品製造者による市場理解のため、民芸品協力店への訪問の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・2008 年 7 月現在、未実施。2008 年 9 月にラサロ・カルデナスの女性グループの代表者を連れてメリダとカンクンの民芸品販売店を訪問する予定。

② 活動進捗表 (PDM1 に対応)

活動進捗表(PDM1 に対応)

活 動	進捗状況
1-1. 女性や女性グループが受けられる支援スキームの情報を整理し、取りまとめる。	・ C/P 主導で情報を既に収集し、その取りまとめを現在実施中。
1-2. 市場調査を実施して、市場の現状やニーズを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2007 年 10 月～11 月にかけて市場調査を実施。 ・ 2008 年 2 月～3 月にかけて補足調査を実施。 ・ 調査結果を市場調査報告書に取りまとめた。 ・ 2007 年 8 月、女性庁長官と生産強化部長がニューヨークで開催された国際民芸品フェアと民芸品市場セミナーに参加。
1-3. 民芸品店から民芸品市場の情報を入手し、既存の情報を更新する。	・ 販売促進支援活動のなかで市場情報の収集を実施。
1-4. プロジェクト対象地域の現状や女性グループのニーズ調査を実施する	・ 迅速農村調査法の研修と 6 件の現地調査を実施して OJT で実施方法を技術移転した。調査済みの 6 村の調査報告書を作成。その後、C/P のみで 2 件の迅速農村調査を実施。
1-5. 追加調査を実施し、情報を更新する。	・ 2008 年 9 月現在、追加調査は実施していない。
1-6. 民芸品の生産に必要な材料の情報を収集・整理する。	・ プロジェクト活動を通して探し出した自然素材や比較的品质のよい材料を販売している店舗及び材料のリストを作成。
2-1. 生産支援に係る生産強化部(対象 3 支部を含む)の機能と責任範囲を明確にする。	・ 生産強化部が担当する女性の生産強化の支援・促進業務を遂行するための基本的な機能を整理し、部の業務マトリックスに取りまとめた。
2-2. 現状に適した生産支援に係る生産強化部内戦略を策定する。	・ 業務手順マニュアルのフローチャートを作成し、部内で説明・協議。
2-3. 生産支援に係る生産強化部と支所の活動及び予算計画を策定する。	・ 現状やニーズに基づいた計画と必要な予算の作成に寄与するため、プロジェクトに係る業務量と予算を算出し、その方法を部内に提案。
2-4. 生産支援に係る計画の立案、モニタリング、評価の手法を習得する。	・ 女性庁の幹部職員と対象地域の支所長を対象とした PCM 計画立案研修を実施した。
2-5. 生産支援に係る計画の実施管理(モニタリング)を行う。	・ 女性庁本庁の職員を対象としたワークショップを実施し、「民芸品生産強化のための女性グループ組織能力マトリックス」を作成。現在はこのマトリックスを基に支援活動の実施管理を行っている。
2-6. 活動の結果を取りまとめ、生産支援に係る業務マニュアルを作成する。	・ 生産支援業務マニュアルの作成について準備のみ実施。
3-1. 支援スキームをもつ組織との会議の開催などを通して情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトキックオフイベントに州政府組織、連邦政府組織、市行政組織(市役所)、女性グループを招待し、関係を構築。 ・ SEDE 民芸品部と CDI との関係を構築。 ・ CDI から、プロジェクト対象 5 グループが資機材購入スキームを受けた。 ・ 2008 年 3 月に、合同調整委員会(JCC)メンバーに女性庁以外の主要関係機関を加え、第 1 回 JCC を実施。委員会のメンバーは、女性庁、JICA 以外に外務省、CDI、SEDE、SEDARI、市町村文化支援プログラム、対象 3 地区代表者で、これらの関係者との連携を構築。 ・ ラサロ・カルデナス市で研修修了式を、関係組織を招待して実施。
3-2. 民芸品製作者と協力者/民芸品販売店とのマッチングなどのイベントを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民芸品店オーナーを含む協力者が生産者を訪問し、製作した商品の品評会をヌエボ・ドウランゴで実施した。 ・ 初年度の支援対象 5 グループの民芸品改善・開発研修修了式を実施し、関係者を招待し、生産現場の理解を促進した。 ・ ラサロ・カルデナス地区の対象 5 グループの代表者によるユカタン州の民芸品生産組織の視察を実施し、この組織との連携を構築した。

4-1. 対象地域において、支援対象となる女性グループを発掘し選定する。	<ul style="list-style-type: none"> 女性グループの選定基準を作成し、支援対象グループを選出。
4-2. 他の組織がもつ女性や女性グループの活動を支援するスキームの活用ガイドラインを作成する(1-1の情報を利用して)。	<ul style="list-style-type: none"> 活動1-1が終了していないため、活用ガイドラインには未着手。
4-3. 講師の所在を確認し、支援の実施に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 機械刺繍の才能のある人材を、講師育成の目的でメキシコシティの工房にインターンとして派遣。 インストラクターの養成のために、プロジェクトで支援の対象としている木工品作製グループの代表者2名を米国での研修に派遣。
4-4. 既存の民芸品とその作製技術を評価し、民芸品の改善と新製品の開発を行う(デザイン改善、生産プロセス改善を含む)。	<ul style="list-style-type: none"> 民芸品作製技術の評価は、民芸品改善・開発団員により実施。 デザイン・品質改善のための研修として、以下を実施。 <p>(ラサロ・カルデナス市)</p> <ol style="list-style-type: none"> 民芸品改善・開発研修を7グループに実施。 ニューヨークから Rustic 家具のアーティストを招聘、対象地域の2グループに対して木工製品の作製指導。 5グループで試作品を作製し、デザイナー、民芸品店オーナーなどを招待し品評会を実施。品評会時のアドバイスにより、製品を改善。 <p>(ホセ・マリア・モレロス市)</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象6グループのうち3グループに対して鉤針編み製品1回、リゾート用衣類2回、手刺繍製品1回の研修を実施。
4-5. 民芸品の生産管理の指導を行い、生産された商品の販売促進を支援する(イベントやウェブページの開設を含む)。	<ul style="list-style-type: none"> ラサロ・カルデナス市で、プロジェクトで作製した製品の取扱店は4店、取扱品目数は10品目中、8品目。 同市の5つのグループの製品の品評会を実施。民芸品店関係者から高い評価及び更なる改善に向けたアドバイスを得た。 国際女性の日の祝賀会開場にて、同市の5つのグループが作製した試作品を展示。同会に参加した州知事へ説明。 同5グループの研修修了式にて、民芸品オーナー、市役所、CDI や SEDARI など招待し、生産現場の理解を促進。 プロジェクトニュースレターを作成。
4-6. 民芸品を製作する対象女性グループに対して、組織の形成と機能強化の指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 2007年11月に、組織化に関するカリキュラムの内容を検討し、女性グループ組織機能マトリックスに取りまとめた。 ラサロ・カルデナス市の選定されたグループに、組織化の意味を理解することを目的としたワークショップを、各グループ1回、計5回実施。 ホセ・マリア・モレロス市の選定されたグループに、組織化の意味を理解することを目的としたワークショップを、各グループ1回、計5回実施。
4-7. 活動の結果を取りまとめ、民芸品生産支援プログラムを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 民芸品生産支援プログラムに含まれるコンテンツとプロセスの整理は終了。内容についてはまだ取りまとめ中。 研修プログラムのコンテンツの整理のため、C/Pを参加者としたワークショップを実施し女性組織能力マトリックスを作成。
5-1. プロジェクト実施上、必要な情報を整理し、情報管理の仕組みをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> インターネットベースで情報のやり取りができる取り組みを開始。
5-2. 情報共有の取り組みを理解し、活動とその結果などの情報を情報管理の仕組みに基づいて更新する。	<ul style="list-style-type: none"> 専門家のプロジェクト情報のアップを開始。インターネットへのアクセスがないためC/Pの参加が制限されている。
5-3. 更新・蓄積された情報(フィールドレポート、各種調査情報、各種フォーム、マニュアルなど)を、プロジェクト活動の実施に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 未調査。情報システムを部に導入した後に調査実施予定。

7. 面談者リスト

主要面談者リスト

<キンタナ・ロー州女性庁>

M.C. Cecilia Rosalia Laria Marin
Abel Aceves Castell

長官（プロジェクトダイレクター）
ジェネラルコーディネーター

メキシコ側評価団員

Rose Mary Pèrez y Pèrez
Mildred Virginia Coral Garcia

教育・保健部部长
企画評価部部长

生産強化部

Augusto César Salgado Sangri
Daniela Ix Benitez
Evangelina Sosa Briceño
Vanessa Rodriguez Morales
Grethel E. Cárdenas Palomo
Maricela del Carmen Caamal Huchín
Asunción Roquelda Aragón Lorenzana

Gabriela Campos Villaseñor

部長（プロジェクトマネージャー）
コーディネーター
研修部門/チーフ
生産強化部門/チーフ
生産強化部門/アシスタント
生産強化部門/アシスタント
研修・研修生産強化部門/アシスタント、
インストラクター
研修部門/専門職（*質問票への回答のみ）

ラサロ・カルデナス支所

Trinidad Ancona Chi
Yrene Pat Chim

支所長
前支所長、現保健・教育担当

ホセ・マリア・モレロス支所

Yesenia Ortiz Estrella
Alejandra Baez Castillo

支所長
プロジェクト調整員

<実証活動対象の女性グループ>

ラサロ・カルデナス市

アクア・アズル村
イグナシオ・サラゴサ村
サン・フランシスコ村
ヌエボ・ドゥランゴ村
バジャドリッド・ヌエボ村

ハンモック編みバッグ製作グループ
鉤針編みバッグ製作グループ
機械刺繍バッグ製作グループ
木工製品製作グループ
ショール製作グループ

ホセ・マリア・モレロス市

タバスコ村
プレスミダ村
ワイ・マッシュ村

自然素材雑貨製作グループ
機械刺繍製品製作グループ
刺繍バッグ製作グループ

<メキシコ外務省>

Cristina Ruiz Ruiz
Efraín del Ángel Ramírez
César Arellano

科学技術協力局長補佐
科学技術協力局課長
科学技術協力局コーディネーター

<メキシコ女性企業家協会>

Feresita Martínez

キンタナ・ロー州代表

<プロジェクト専門家>

和田 泰志
キャンディス・クルーメル
戸田 めぐみ
大垣 菜都子

総括/組織強化1
民芸品開発・改善1
市場調査/市場開拓
業務調整

<JICA メキシコ事務所>

川路 賢一郎
上條 直樹

所長
次長

女性庁生産強化部の支援能力強化モデル

